

0800迄 (2112件)

- 701年-03:00|エチピア/サジアラビア| ||エチピアの阿克苏王国軍がジッダを攻略
- 701年-02:00|ボツナ| ||ボツナ、リンボ川流域トゥエに最古の国家
- 701年-01:00|イリア| ||<即位>イリア王・ランゴバルト王「ラジナルト」ゴデベルトの子、ベルリートの甥(〜同年死去)⇒「アリハルト2世」ラジナルトの子(〜712年3月、ベント公国・スポルト公国など南部諸侯に加え、ヴェツアの攻撃などに翻弄された末に戦死)
- 701年-01:00|イリア| ||<即位>イリア・ランゴバルト対立王「ワリ2世」反乱(〜同年)
- 701年1月28日-08:00|中国| ||武周・久視1年12月14日|再び生類殺生禁止令(生類憐みの令)を解き、祭祀用の牲宰を従来通りに戻した
- 701年2月13日-09:00|日本|京都府京都市西京区|文武5年|秦忌寸都理が松尾山大杉谷の磐座の神霊を勧請し松尾大社(松尾さん)創建(日本第一酒造神)
- 701年2月13日-09:00|日本|静岡県浜松市|文武5年|行基、秋葉山本宮秋葉神社開山
- 701年2月13日-09:00|日本|和歌山県日高郡日高川町|文武5年|義淵、文武天皇、道成寺創建<和歌山県最古の寺>
- 701年2月13日-08:00|中国| ||武周・大足1年|武周・武則天が大足と改元
- 701年2月13日-09:00|日本| ||文武5年1月|流刑されていた役小角が戻される
- 701年2月13日-09:00|日本|大阪府河内長野市|文武5年1月以降|役小角が雲心寺(観心寺)を開く
- 701年2月13日-08:00|中国/日本| ||文武5年1月|粟田真人ら遣唐使を派遣、「日本」を名乗った最初の外交使節
- 701年4月13日-09:00|日本| ||文武5年3月1日|大宝令の官位が施行される。中納言は廃止
- 701年5月3日-09:00|日本| ||大宝1年3月21日|対馬からの金の献上により朱鳥から大寶(大宝)に改元
- 701年5月3日-09:00|日本|京都府|大宝1年3月21日以降|山背国という表記で国が建てられた/畿内に位置(山州、城州、雍州)/現在の京都府南部
- 701年5月8日-09:00|日本| ||大宝1年3月26日|<大宝地震>丹波(当時は丹波と丹後は同じ)で地震/3日間続く/若狭湾凡海郷島が沈没し、頂上二つの小島(冠島・履島)/5月12日とも言う
- 701年7月11日-09:00|日本| ||大宝1年6月2日|はじめて内舎人を任じる
- 701年7月16日-09:00|日本| ||大宝1年6月7日|<死去>役小角(68歳)呪術者、修験道の開祖
- 701年7月17日-09:00|日本| ||大宝1年6月8日|大宝令を施行
- 701年9月7日-08:00|中国| ||武周・大足1年8月|突厥の默啜が辺境へ来寇/安北大都護相王を天兵道元帥として、諸軍を率いて攻撃させが、彼等が到着する前に虜は撤退
- 701年9月8日-01:00|パチン| ||<死去>第84代ローマ教皇「セルギウス1世」
- 701年9月9日-09:00|日本| ||大宝1年8月3日|<大宝律令>「大宝律」(わが国初の刑法典)完成
- 701年9月27日-09:00|日本| ||大宝1年8月21日|安芸・長門など17か国、蝗・大風の害を被る
- 701年10月2日-09:00|日本| ||大宝1年8月26日|大和王朝、高安城を廃城
- 701年10月30日-01:00|パチン| ||<就任>第85代ローマ教皇「ヨハネス6世」(〜07050111死去)
- 701年11月5日-08:00|中国| ||武周・長安1年10月|武周・武則天が長安(-704年)と改元
- 701年12月11日-09:00|日本| ||大宝1年11月8日|初めて造大幣司を任じ、弥努王と引田爾間を長官とする
- 702年-08:00|インドネシア| ||<即位>ガルー王国マハラジャ「Mandiminyak」(〜709年)
- 702年-07:00|カンボジア| ||真臘が分裂し、南部低地の水真臘と北部山地の陸真臘となる
- 702年-03:00|エチピア/サジアラビア| ||阿克苏軍への報復としてアラブが阿克苏領の諸港を占拠
- 702年-01:00|ドイツ| ||<即位>パイルン公(ザルツブルク)「テオバルト」テオトの息子(〜719年)
- 702年-01:00|イリア| ||<廃位>イリア王・ランゴバルト王「リウトベルト」
- 702年1月29日-09:00|日本| ||大宝1年12月27日|<死去>大伯皇女(大来皇女)(41歳)天武天皇の皇女、伊勢斎宮
- 702年2月2日-09:00|日本|愛知県新城市|大宝2年|利修が鳳来寺創建
- 702年2月2日-09:00|日本|鹿児島県|大宝2年|日向国から唱更国(後の薩摩国)を分立させた
- 702年2月2日-09:00|日本|福井県敦賀市|大宝2年|氣比神宮創建
- 702年2月2日-08:00|中国| ||武周・長安2年1月|突厥が鹽、夏二州へ入寇
- 702年2月18日-08:00|中国| ||武周・長安2年1月17日|始めて武挙を設けた
- 702年4月2日-09:00|日本|新潟県|大宝2年3月|越中国[頸城郡、古志郡、魚沼郡、蒲原郡](新潟県本州部分の残り)→越後国
- 702年4月9日-09:00|日本| ||大宝2年3月8日|日本初の度量衡が実施される
- 702年4月24日-08:00|中国| ||武周・長安2年3月23日|突厥が石嶺を撃破し、并州へ入寇
- 702年5月14日-09:00|日本| ||大宝2年4月13日|諸国国造の氏を定める
- 702年7月28日-09:00|日本| ||大宝2年6月29日|第7回遣唐使派遣/粟田真人、坂合部大分、巨勢邑治、山上憶良、道慈、弁正ら
- 702年7月29日-09:00|韓国| ||新羅・聖徳王1年7月|<死去>新羅王「孝昭王」
- 702年7月29日-09:00|韓国| ||新羅・聖徳王1年7月|<即位>新羅王「聖徳王」(〜737.2)
- 702年8月26日-08:00|中国| ||武周・長安2年7月29日|突厥が代州へ来寇
- 702年8月28日-09:00|日本|鹿児島県熊毛郡|大宝2年8月1日|薩摩多々を征討
- 702年10月3日-08:00|中国| ||武周・長安2年9月8日|突厥軍が忻州へ侵攻
- 702年10月26日-09:00|日本| ||大宝2年10月|大宝律令を諸国に頒布
- 702年11月-01:00|スペイン/ポルトガル/アンドラ| ||<死去>西哥特王国国王「エギカ」
- 702年11月8日-08:00|中国| ||武周・長安2年10月14日|吐蕃の国王が万余人を率いて茂州へ来寇/都督の陳大慈がこれと四戦して全て撃破
- 703年-08:00|インドネシア| ||<即位>シャイレントラ朝国王「Mandimnak」(〜710年)

0800迄 (2112件)

703年-01:00|イタリヤ| |||<即位>スホート公「ファロルト2世」(~724年)
703年1月1日-09:00|日本| ||大宝2年12月10日|初めて美濃岐蘇山道を開く
703年1月7日-08:00|中国| ||武周・長安2年12月16日|唐が庭州(トルファン)に北庭都護府を設置
703年1月13日-09:00|日本| ||大宝2年12月22日|<死去>太上天皇(第41代持統天皇)/58歳(誕生:大化1(645))我が国初の天皇の火葬となる
703年1月30日-09:00|日本/韓国| ||大宝3年1月9日|新羅国が、沙キユ(薩キユ)のコンフコ(金福護)・級伐キユ(級キユ)のコンフゲン(金孝元)を派遣し、国王(32代・孝昭王、在位692~702年)の死去を報告/5. 2帰国
703年2月10日-09:00|日本| ||大宝3年1月20日|刑部親王知太政官事に就任
703年4月6日-09:00|日本| ||大宝3年3月16日|国博士と郡司の任用法を改める
703年7月19日-08:00|中国| ||武周・長安3年6月|寧州で大水が起こり、二千余人が溺死した
703年8月17日-08:00|中国/日本| ||大宝3年7月|日本国の使者粟田真人らが、唐に到着/総員204人
703年8月21日-09:00|日本| ||大宝3年7月5日|庚午年籍を戸籍の原簿と定める
703年11月5日-09:00|日本/韓国| ||大宝3年9月22日|文武天皇が、従五位下の波多の朝臣広足を、遣新羅使に任命/翌年8月3日帰国
704年-08:00|中国| |||<死去>吐蕃ツェンホ「ティ・ドゥケツン(器弩悉弄)」、南境の諸部族が、皆、造反、陣中にて卒す
704年 00:00|イギリス| |||<死去>エツクス王「Swaefraed Saebban sunu」
704年 00:00|イギリス| |||<死去>マシア王「エゼルレッド・Pendan sunu(エゼルレッド1世)」
704年 00:00|アイルランド| |||<即位>アイルランド 上王「コンガル・チェンガイル」(~710年)
704年 00:00|イギリス| |||<即位>マシア王「ユエラット・Wulfheres sunu」(~709年死去)
704年6月16日-09:00|日本| ||慶雲1年5月10日|「慶雲」と改元
704年8月5日-09:00|日本| ||慶雲1年7月1日|第7回遣唐使帰国/副使は707年/大使は718年帰国/帰路、第二、三、四船遭難
704年9月4日-08:00|中国| ||武周・長安4年8月|默啜と和親が成立
704年9月6日-09:00|日本| ||慶雲1年8月3日|遣新羅使波多広足ら帰国
704年11月10日-09:00|日本/韓国| ||慶雲1年10月9日|文武天皇が、正六位上の幡文の造通を、遣新羅大使に任命/翌年5月24日、帰国
704年12月14日 00:00|イギリス| |||<死去>ノーザンブリタニア王「Ealdfrith Osweowes sunu」
704年12月14日 00:00|イギリス| |||<即位>ノーザンブリタニア王「Eadwulf」(~705. 2)
705年-08:00|中国| |||<即位>吐蕃ツェンホ「ティテ・ツァツェン(尺帶珠丹)」(~755年死去)
705年-04:30|アフリカ/シリア/アラブ| |||ウマイヤ朝のホラサン総督クタイハガハルガを占領
705年-02:00|エジプト| |||<就任>ウマイヤ朝エジプト第8代アミール:アブダラ・イブン・アブド・アルマリク・イブン・マワン・イブン・アルハム(~709解任)
705年-01:00|イタリヤ| |||<死去>フリウリ領主「アト」
705年-01:00|イタリヤ| |||<就任>フリウリ領主「フェルトゥル」(~同年)⇒「コルルス」(~706年)
705年-01:00|アルメニア| |||<即位>ミラネ朝(アルメニア)大公「Vardan2世」(~740年)
705年1月11日-01:00|バチカン| |||<死去>第85代ローマ教皇「ヨハネス6世」
705年1月30日-09:00|日本| 奈良県高市郡明日香村|慶雲2年|このころ、高松塚古墳が造営
705年1月30日-08:00|中国| ||唐・神龍1年1月1日|朔、武周・武則天が神龍(-707年)と改元
705年2月 00:00|イギリス| |||<即位>ノーザンブリタニア王「Osraed Ealdfrithes sunu(Osred1世)」(~716年死去)
705年2月20日-08:00|中国| ||唐・神龍1年1月22日|張易之と昌宗が誅殺された
705年2月22日-08:00|中国| ||唐・神龍1年1月24日|<退位>武周皇帝「則天大聖皇帝武ゾウ」讓位
705年2月23日-08:00|中国| ||唐・神龍1年1月25日|<即位>唐第6代皇帝「中宗(重祚)李顕」(~景龍4年6月2日(710年7月3日))
705年3月1日-01:00|バチカン| |||<就任>第86代ローマ教皇「ヨハネス7世」(~07071018死去)
705年3月3日-08:00|中国| ||唐・神龍1年2月4日|中宗皇帝は国号を『唐』に戻した
705年6月3日-09:00|日本| ||慶雲2年5月8日|<死去>忍壁皇子(刑部親王)(不明)天武天皇の皇子
705年8月21日-02:00|トルコ| |||<廃位>東ローマ帝国皇帝「ティベリウス3世」
705年8月21日-02:00|トルコ| |||<復位>東ローマ帝国皇帝(ヘラクレス朝)「ユスティニアヌス2世リノトリス」(~07111211死去)
705年9月13日-09:00|日本/韓国| ||慶雲2年8月21日|文武天皇が、従五位下の美努の連浄麻呂を、遣新羅大使に、従六位下の対馬の連堅石を、副使に任命/翌年5月28日、帰国
705年9月27日-09:00|日本| ||慶雲2年9月5日|穂積親王、知太政官事に就任
705年10月8日-02:00|シリア/アラブ| |||<死去>ウマイヤ朝カリフ「アブド・ウルマリク」/59歳(誕生646年)
705年10月8日-02:00|シリア/アラブ| |||<即位>ウマイヤ朝カリフ「ワリード1世」(~07150223死去)
705年11月20日-09:00|日本/韓国| ||慶雲2年10月30日|新羅の貢調使の一吉キウのキンヅキ(金儒吉)等が、来訪・献上/翌年1月12日、帰国
705年12月16日-08:00|中国| ||唐・神龍1年11月26日|<死去>武周皇帝「則天大聖皇帝武ゾウ」/82歳(誕生624年)
706年-05:30|インド| |||<即位>東チャールヤ朝君主「Jayasimha2世」(~718年)
706年-01:00|イタリヤ| |||<死去>ベネチア公「ギサル1世」
706年-01:00|イタリヤ| |||<就任>フリウリ領主「ベッモ」(~739年死去)
706年-01:00|イタリヤ| |||<即位>パトリック公「カエサリス2世」(~711年)
706年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ベネチア公「ロムアルト2世」(~732年死去)
706年 00:00|イギリス| |||<死去>ヒール王「Bruide mac Der Ilei(Bridei4世)」

0800迄 (2112件)

- 706年 00:00|イギリス| ||<即位>ビクトワ王「Nechtan mac Der Ilei (Nechtan4世)」(1期目~724年)
- 706年1月8日-09:00|日本| ||慶雲2年12月19日|婦女の鬘髪の制を定める
- 706年1月9日-09:00|日本| ||慶雲2年12月20日|<死去>葛野王(37歳)弘文天皇の皇子
- 706年1月19日-09:00|日本| ||慶雲3年|この年、疫病で諸国の百姓多く死ぬ
- 706年1月19日-09:00|日本|鳥取県東伯郡三朝町|慶雲3年|役行者が修験道の行場として三徳山三仏寺開山(断崖絶壁に投入堂がある)
- 706年1月19日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|慶雲3年|法起寺三重塔完成
- 706年2月4日-09:00|日本| ||慶雲3年1月17日|大射の禄法を定める
- 706年2月15日-02:00|トルコ| ||<死去>元東ローマ帝国皇帝ヘラクラタス
- 706年4月3日-09:00|日本| ||慶雲3年2月16日|食封の制を改め別に七条の事を定める
- 706年10月26日-09:00|日本| ||慶雲3年9月15日|使を七道に遣わし田租每町十五束の法を定める
- 707年 00:00|イギリス| ||<死去>ダールアタ王「Becc ua Dunchada」
- 707年 00:00|イギリス| ||<即位>ダールアタ王「Dunchadh Becc」(~721年死去)
- 707年1月17日-08:00|中国| ||唐・神龍2年12月9日|黙啜が鳴沙へ来寇/靈武軍大総管の沙咤忠義がこれと戦ったが、敗北
- 707年4月8日-09:00|日本| ||慶雲4年3月2日|遣唐副使巨瀬邑治ら唐より帰る
- 707年7月2日-09:00|日本| ||慶雲4年5月28日|遣新羅大使や学問僧義法ら新羅より帰る
- 707年7月18日-09:00|日本| ||慶雲4年6月15日|<死去>第42代「文武天皇」/25歳(誕生:(天武)11(683))
- 707年8月7日-08:00|中国| ||唐・神龍3年7月6日|太子と左羽林大將軍李多祚、將軍李思沖、李承況、独孤伊之、沙託忠義等が制を矯めて羽林千騎と兵三百余人を徵発し、第にて三思、崇訓始め親党十余人を殺したが制圧される
- 707年8月13日-09:00|日本| ||慶雲4年7月12日|元明天皇(女帝)の親衛隊ともいべき授刀舎人寮を新設
- 707年8月18日-09:00|日本| ||慶雲4年7月17日|<即位>第43代「元明天皇」天智天皇の第4皇女阿部内親王(~0715902)
- 707年10月5日-08:00|中国| ||唐・景龍1年9月5日|唐・中宗李顕が景龍(-710年)と改元
- 707年10月18日-01:00|バチカン| ||<死去>第86代ローマ教皇「ヨハネス7世」
- 707年11月11日-08:00|中国| ||唐・景龍1年10月13日|張仁原に突厥を攻撃させ、虜を大いに破る
- 708年1月15日-01:00|バチカン| ||<就任>第87代ローマ教皇「シニウス」(~2.4死去)
- 708年1月28日-09:00|日本|埼玉県秩父市|慶雲5年|秩父黒谷で自然銅が発見される(和銅遺蹟)
- 708年2月4日-01:00|バチカン| ||<死去>第87代ローマ教皇「シニウス」
- 708年2月7日-09:00|日本| ||和銅1年1月11日|慶雲から和銅に改元
- 708年3月7日-09:00|日本| ||和銅1年2月11日|催鑄銭司、設置/多比治三宅麻呂が任命される(催鑄銭司とは造幣監督官のこと)
- 708年3月9日-09:00|日本| ||和銅1年2月13日|<創祀>元明天皇の勅使多治比三宅麻呂「聖神社」(秩父黒谷に和銅発見で)
- 708年3月25日-01:00|バチカン| ||<就任>第88代ローマ教皇「コンスタンティヌ」(~07150409死去)
- 708年5月5日-09:00|日本| ||和銅1年4月11日|真人位子の制を定める
- 708年5月15日-08:00|中国| ||唐・景龍2年4月21日|修文館を設置し大学士四人、学士二十人を選び、公卿以下李喬のように文章の巧い物を選んでこれに充てた
- 708年6月3日-09:00|日本| ||和銅1年5月11日|銀銭「和同開珎」発行(国産貨幣のはじめ)
- 708年6月22日-09:00|日本| ||和銅1年5月30日|<死去>美努王(不明)皇族(敏達天皇の曾孫)、橘諸兄の父
- 708年7月17日-09:00|日本| ||和銅1年6月25日|<死去>但馬皇女(不明)天武天皇の皇女
- 708年8月29日-09:00|日本| ||和銅1年8月10日|銅銭「和同開珎」発行(国産貨幣のはじめ)
- 708年11月14日-09:00|日本|新潟県|和銅1年9月28日|越後国に出羽郡をたてる
- 708年11月16日-09:00|日本| ||和銅1年9月30日|造平城京司を任命
- 709年-08:00|インドネシア| ||<即位>ガリア王国マハラジャ「Sena/Bratasena」(~716年)
- 709年-05:00|ウズベキスタン/シリア/アラブ| ||クタイバ率いるウマイヤ朝軍が中央アジアのブハラを占領
- 709年-02:00|エジプト| ||<就任>ウマイヤ朝エジプト第9代アミール「クラ・イブン・シャリク・アルハッソ」(~715死去)
- 709年 00:00|イギリス| ||<死去>エックス王「Sigeheard Saebban sunu」
- 709年 00:00|イギリス| ||<死去>マーン王「コニレット・Wulfheres sunu」
- 709年 00:00|イギリス| ||<即位>エックス王「オファ・Sigeheardes sunu」(~同年)⇒「Saelraed Sigebeorhtes sunu」(~746年死去)
- 709年 00:00|イギリス| ||<即位>マーン王「アトルレット・Athehraedes sunu」(~716年死去)
- 709年2月14日-09:00|日本|三重県津市|和銅2年|津観音創建
- 709年4月20日-09:00|日本| ||和銅2年3月6日|陸奥・越後両国の蝦夷反乱しこれを征圧
- 709年4月28日-09:00|日本/韓国| ||和銅2年3月14日|元明天皇が、新羅使のキンソク(金信福)等を、海路と陸路の両道から(都へ)呼び寄せた
- 709年8月10日-09:00|日本|山形県|和銅2年7月1日|出羽柵(蝦夷に備え庄内に設置された古代城柵⇒733年秋田市付近に移設)
- 709年9月9日-09:00|日本| ||和銅2年8月2日|銀銭を廃止し銅銭に統一
- 709年11月13日-09:00|日本|広島県|和銅2年10月8日|備後国の葦田郡甲奴村と品治郡より割いた3里をあわせ、新たに甲奴郡を設ける
- 710年-08:00|インドネシア| ||<即位>シャイレントラ朝国王「サナ」(~717年)

0800迄 (2112件)

- 710年-05:30|インド| |||<即位>パーンデヤ朝君主「Kochadaiyan Ranadhiran」(~735年)
- 710年-01:00|スペイン/ポルトガル/アントラ| |||<死去>西ゴート王国国王「ウイティザ」
- 710年-01:00|スペイン/ポルトガル/アントラ| |||<即位>西ゴート王国国王「ロマリック」(~712年死去)
- 710年 00:00|アイルランド| |||<即位>アイルランド 上王「ファーガル・マック・マエルト・ウイン」(~07221211没)
- 710年 00:00|イギリス| |||<即位>ダフエト 王「Rhin ap Cadwgan」
- 710年 00:00|モロッコ| |||<即位>ネール王国サルタン「Salih1世」建国(~749年)
- 710年 00:00|モロッコ| |||イスラム軍がタングヤを制圧し、北アフリカの征服を完了
- 710年2月3日-09:00|日本|静岡県熱海市|和銅3年|来宮神社創建
- 710年4月4日-09:00|日本|奈良県奈良市|和銅3年3月|大官大寺を平城へ移す
- 710年4月4日-09:00|日本|奈良県奈良市|和銅3年3月|藤原不比等は厩坂寺を平城京左京の地に移転し興福寺創建<法相宗大本山>
- 710年4月13日-09:00|日本|奈良県奈良市|和銅3年3月10日|元明天皇が藤原京から平城京に都を移す
- 710年7月3日-08:00|中国| ||唐・景龍4年6月2日|<死去>唐第6代皇帝「中宗(重祚)李顕」皇后の韋后と安樂公主により毒殺される/55歳(誕生656年)
- 710年7月6日-08:00|中国| ||唐・唐隆1年6月5日|皇后は摂政となり、唐隆(僅か10日間にしか用いられなかった)と改元
- 710年7月9日-08:00|中国| ||唐・唐隆1年6月8日|<即位>唐第7代皇帝「殤帝李重茂」(~7月25日)(御年16)
- 710年7月22日-08:00|中国| ||唐・唐隆1年6月21日|李隆基が北軍に入って乱を討ち、韋氏・安樂公主および韋巨源・馬秦客・武延秀・楊均を殺した
- 710年7月25日-08:00|中国| ||唐・唐隆1年6月24日|<即位>唐第8代皇帝「睿宗(重祚)李旦」(~712年9月8日)
- 710年7月25日-08:00|中国| ||唐・唐隆1年6月24日|<退位>唐第7代皇帝「殤帝李重茂」
- 710年8月19日-08:00|中国| ||唐・景雲1年7月20日|唐第8代皇帝「睿宗(重祚)李旦」が景雲(-712年)と改元
- 710年9月9日-08:00|中国| ||唐・景雲1年8月12日|シヨウ王李重福およびゲン州刺史の鄭儼がそむき、処刑された
- 710年10月14日-09:00|日本| ||和銅3年9月18日|銀錢を廃止
- 710年12月25日-08:00|中国| ||唐・景雲1年12月|唐が羈縻地方のおさえとして河西節度使を設置(初の節度使で律令外官)
- 711年-04:00|アルメニア/サウジアラビア| |||アルメニアはイスラム・カフと他のイスラム勢力の下(~885年)
- 711年-01:00|スペイン/ポルトガル/アントラ| |||<即位>西ゴート王国国王「アギラ2世」(~714年死去)
- 711年-01:00|イタリヤ| |||<即位>メリ公「シヨ1世」(~719年死去)
- 711年-01:00|ドイツ| |||<即位>パリエル公(パリエルの一部)「テトバル」テトの息子(~719年)
- 711年1月23日-09:00|日本|奈良県生駒郡斑鳩町|和銅4年|法隆寺中門の金剛力士像が完成/五重塔初重の塑像群が完成
- 711年1月24日-09:00|日本| ||和銅4年1月2日|平城遷都に伴い、山背・河内・摂津・伊賀四国に六駅を設置
- 711年1月30日-08:00|中国| ||唐・景雲2年1月8日|突厥第二帝国のかがン可汗が講和の使節を派遣/睿宗皇帝はこれを許した
- 711年2月28日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|和銅4年2月7日|<創建>伏見稻荷大社
- 711年4月1日-09:00|日本|群馬県|和銅4年3月9日|上野国に多胡郡を置く
- 711年4月23日-01:00|フランス/ベルギー/ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<死去>フランク王国(メロヴィング朝)国王「キルバルト3世」
- 711年4月23日-01:00|フランス/ベルギー/ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<即位>フランク王国(メロヴィング朝)国王「ダゴバルト3世」キルバルト3世の兄弟(~07151231)
- 711年4月28日-01:00|スペイン/イタリヤ| |||イスラム教徒がジブラルタルを占領
- 711年4月29日-01:00|ジブラルタル/スペイン/ポルトガル/サウジアラビア| |||ジブラルタルはウマイヤ朝の一部(756年から、カフ内のコルドバ首長国)(~929.1)
- 711年7月-01:00|スペイン/サウジアラビア| |||ハルバテ河畔の戦いでイスラム軍がイバリア侵攻を開始
- 711年10月-01:00|スペイン/サウジアラビア| |||イスラム軍が西ゴート王国の首都トレドを占領
- 711年12月7日-09:00|日本| ||和銅4年10月23日|「蓄銭叙位令」布告/錢貨の流通を図る為、貯蓄量に応じて位階を授ける
- 711年12月11日-02:00|トルコ| |||<死去>元東ローマ帝国(ヘラクレイオス朝)皇帝「ユスティニアス2世リトメス」クーデターにより殺害される/ヘラクレイオス王朝の血統断絶
- 711年12月11日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ帝国(ヘラクレイオス朝)皇帝「フィリッポス・ハルダヌ」(~07130603幽閉)
- 712年-05:30|インド/パキスタン/サウジアラビア| |||イスラム軍がインドへ遠征しダウバルとニールンを占領
- 712年-05:00|ウズベキスタン/シリア・アラブ| |||クタイバ率いるイスラム軍がタシケント方面に遠征
- 712年-03:30|イラン| |||<死去>ダブイ朝「Dabuya」
- 712年-03:30|イラン| |||<即位>ダブイ朝「Farrukhan the Great」(~728年死去)
- 712年-01:00|スペイン/ポルトガル/アントラ| |||<死去>西ゴート王国国王「ロマリック」戦死
- 712年3月-01:00|イタリヤ| |||<死去>イタリヤ王・ランゴバルド王「アリバルト2世」戦死、バウアリア朝イタリヤ王国は完全に断絶
- 712年3月-01:00|イタリヤ| |||<即位>イタリヤ王・ランゴバルド王「アンスワラント」諸公爵の一人、バウアリア朝断絶後に王位へ推挙される(~6.13、病没)
- 712年3月1日-08:00|中国| ||唐・太極1年1月20日|唐第8代皇帝「睿宗(重祚)李旦」が太極と改元
- 712年3月4日-09:00|日本| ||和銅5年1月23日|河内高安烽を廃して高見烽と大倭春日烽を置く
- 712年3月9日-09:00|日本| ||和銅5年1月28日|稗田阿礼が誦習していた帝記などを太安万侶が筆録した『古事

0800迄 (2112件)

記』が完成

- 712年6月10日-01:00|イタリヤ| |||<即位>イタリヤ王・ランゴバルド王「リウトランド」アンスランドの子。王国末期において長期政権を築き、多くの治績を遺した(~07440128、死去)
- 712年6月13日-01:00|イタリヤ| |||<死去>イタリヤ王・ランゴバルド王「アンスランド」病没
- 712年6月21日-08:00|中国| ||唐・延和1年5月12日|唐第8代皇帝「睿宗(重祚)李旦」が延和と改元
- 712年7月31日-08:00|中国| ||唐・延和1年6月22日|刑部尚書の郭元振が朔方道行軍大総管となり、突厥を討伐
- 712年8月3日-08:00|中国| ||唐・延和1年6月25日|幽州都督の孫愬・左驍衛將軍の李楷洛・左威衛將軍の周以悌が奚と冷ケ山で戦い、敗れた
- 712年9月8日-08:00|中国| ||唐・先天1年8月2日|<即位>唐第9代皇帝「玄宗李隆基」(~756年8月12日)
- 712年9月8日-08:00|中国| ||唐・先天1年8月2日|<退位>唐第8代皇帝「睿宗(重祚)李旦」讓位/睿宗を尊んで太上皇とする
- 712年9月12日-08:00|中国| ||唐・先天1年8月7日|唐第9代皇帝「玄宗李隆基」が先天(-713年)と改元
- 712年10月5日-08:00|中国| ||唐・先天1年9月1日|朔、日食があった
- 712年10月27日-09:00|日本|山形県|和銅5年9月23日|越後国出羽郡→出羽国に昇格/出羽柵を設置(山形県飽海郡で出土した城輪柵と推定される)
- 712年11月4日-09:00|日本|山形県|和銅5年10月1日|陸奥国から出羽国に置賜郡と最上郡が譲られる
- 712年11月28日-08:00|中国| ||唐・先天1年10月25日|沙陀の金山が使者を派遣して入貢(沙陀は處月の別種で、その姓は朱邪氏)
- 712年12月1日-09:00|日本/韓国| ||和銅5年10月28日|遣新羅大使、從五位下の道の君首名
- 713年-07:00|カホヅア| |||<即位>チェンウ王「サンフヴァルマン」(~716年)
- 713年-05:45|ネール| |||<即位>リツヤビ朝国王「ジヤ・デ・ヴァ2世」(~733年)
- 713年 00:00|イギリス| |||<死去>イーストアングリア王「Ealdwulf Athelrices sunu」
- 713年 00:00|イギリス| |||<即位>イーストアングリア王「Alfwald Ealdwulfes sunu」(~749年死去)
- 713年1月7日-09:00|日本| ||和銅5年12月7日|衣服の制を定める
- 713年1月31日-08:00|中国/朝鮮| ||唐・先天2年|震国の大祚栄が唐より渤海郡王に封じられる/これより正式な国号は「渤海」となる
- 713年3月19日-09:00|日本| ||和銅6年2月19日|度量・調康・義倉などに関する五条を制定
- 713年5月1日-09:00|日本|岡山県|和銅6年4月3日|備前国[英多郡、勝田郡、苦田郡、久米郡、真嶋郡、大庭郡]→美作国
- 713年5月1日-09:00|日本|鹿児島県|和銅6年4月3日|日向国[肝杯郡、贈於郡、大隈郡、始羅郡]→大隅国(現在の鹿児島県の東部)を設立
- 713年5月1日-09:00|日本|京都府|和銅6年4月3日|丹波国(丹州)[加佐郡、与謝郡、丹波郡(後の中郡)、竹野郡、熊野郡]北部→丹後国として分離
- 713年5月29日-09:00|日本| ||和銅6年5月|諸国郡郷名を二字をもって記す/泉→和泉、津→摂津と改める
- 713年6月-01:00|スペイン/シリア・アラブ| |||ウマイヤ朝イスラム軍が西ゴート王国を滅ぼし、イタリヤを支配
- 713年6月3日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ帝国皇帝「アナスタシオス2世」(~715. 11 廃位)
- 713年6月3日-02:00|トルコ| |||<廃位>東ローマ帝国皇帝「フィリッポス・バルダス」反乱軍によって幽閉され殺害される
- 713年7月29日-08:00|中国| ||唐・先天2年7月3日|太平公主および岑羲・蕭至忠・竇懷貞が反乱を計画し、処刑された
- 713年8月2日-09:00|日本| ||和銅6年7月7日|美濃・信濃二国に吉蘇路を通す
- 713年10月19日-08:00|中国| ||唐・先天2年9月26日|右御史台を再び設置し、諸州を督察させる/諸道按察使を廃止
- 713年10月24日-08:00|中国| ||唐・先天2年10月|姚弋婁が姚州を寇し、都督の李蒙がここに死んだ
- 713年12月22日-09:00|日本|宮城県|和銅6年12月|大崎平野に丹取郡が建てられた
- 713年12月22日-08:00|中国| ||唐・開元1年12月1日|尚書左、右僕射を左、右丞相と改称/中書省は紫微省、門下省は黃門省、侍中は監とした/兖州を京兆府、洛州を河南府、長史を尹、司馬を少尹とした
- 713年12月22日-08:00|中国| ||唐・開元1年12月1日|唐第9代皇帝「玄宗李隆基」が開元(~741年)と改元
- 714年-01:00|スペイン| |||<死去>西ゴート王国国王「アギラ2世」
- 714年-01:00|フランス| |||<就任>ヴェルマントワ伯「Jerome」(~771年)
- 714年-01:00|スペイン| |||<即位>西ゴート王国国王「アルド」(~721年死去)
- 714年-01:00|フランス| |||フランク王国宮宰カール・マルテル/近隣諸部族を制圧し統一を回復
- 714年 00:00|ポルトガル| |||イスラム教徒のポルトガル支配(コインブラが落ちる)
- 714年1月20日-02:00|トルコ| |||<死去>元東ローマ帝国皇帝「フィリッポス・バルダス」
- 714年1月23日-09:00|日本| ||和銅7年1月3日|初めて食封の田租を封主に全給する制をしく
- 714年2月14日-08:00|中国| ||唐・開元2年1月25日|并州節度大使の薛訥が同紫微黃門三品となり、契丹を討伐
- 714年2月22日-08:00|中国| ||唐・開元2年2月4日|突厥第二帝国が「ガンソク汗」が子息のトソ皇子と妹婿の火拔頡利發、石阿失畢へ兵を与えて派遣し、北庭都護府を包囲
- 714年2月25日-08:00|中国| ||唐・開元2年2月7日|北庭都護の郭虔かが、都護府を包囲した突厥軍を撃破/突厥は退却
- 714年3月-01:00|スペイン| |||この年春、イスラム軍がスペイン南部の主要地を支配下に収める
- 714年3月21日-08:00|中国| ||唐・開元2年閏2月|西突厥の十姓酋長都擔が造反
- 714年4月30日-08:00|中国| ||唐・開元2年3月12日|磧西節度使阿史那獻が碎葉等の鎮に勝ち、都擔を捕らえて殺

す/その部落二万余帳は降伏

- 714年6月17日-09:00|日本| ||和銅7年5月1日|<死去>大伴安麻呂(公卿・歌人)
- 714年8月29日-08:00|中国| ||唐・開元2年7月15日|薛訥が奚・契丹とラ河で戦い、敗れた
- 714年9月5日-08:00|中国| ||唐・開元2年7月22日|<死去>唐第7代皇帝「殤帝李重茂」
- 714年10月3日-08:00|中国| ||唐・開元2年8月20日|吐蕃が辺境を寇したので、薛訥が左羽林軍將軍を摂り、隴右防禦大使となり、右驍衛將軍の郭知運が副使となって、これを討伐
- 714年11月9日-08:00|中国| ||唐・開元2年9月28日|葛邏祿等の部落が涼州を詣でて降伏
- 714年11月21日-08:00|中国| ||唐・開元2年10月10日|武街にて、薛訥が突厥第二帝国と戦い、これを大いに破った/太僕少卿隴右群牧使の王峻が手勢二千人を率いて薛訥と合流し、吐蕃軍を攻撃
- 714年12月22日-09:00|日本/韓国| ||新羅・聖徳王13年11月11日|新羅外交使節団、来朝/金元静率いる20数名の外交使節団/新羅外交使節団は12月26日に、平城京に入京
- 715年-05:00|ウズベキスタン/シリア・アラブ| ||<死去>ウマイヤ朝カリフ「ワトド1世」クタイバが反旗を翻し、フェルカーナで殺害
- 715年-02:00|エジプト| ||<就任>ウマイヤ朝エジプト第10代アミール:アブド・アルマリク・イブン・リファア・アルファミ(~717解任)
- 715年-02:00|シリア・アラブ| ||<即位>ウマイヤ朝カリフ「スライマーン」(~07170922死去)
- 715年-02:00|ブルガリア| ||<即位>ブルガリア帝国ハ「アール」(~7月)
- 715年-02:00|シリア・アラブ| ||タマクスでウマイア・モスクが完成
- 715年 00:00|イギリス| ||<即位>エッセクス王「Swæfþryht」(~738年死去)
- 715年1月10日-08:00|中国| ||唐・開元2年12月|突騎施(トルキシュ)可汗・守忠の弟、遮弩は叛いて突厥第二帝国に入った/カガン可汗は2万の兵を派遣して突騎施(トルキシュ)可汗・守忠を攻撃し、これを捕らえて帰る
- 715年1月20日-08:00|中国| ||唐・開元2年12月11日|隴右節度使を設置し、セン、奉、河、渭、蘭、臨、武、馮、岷、郭、シ、ヨ、宕十二州を領有させる
- 715年2月9日-09:00|日本| ||和銅8年|朝廷が郷里制を施行、里を郷に改め郷を2~3の里に分ける
- 715年4月9日-01:00|パチン| ||<死去>第88代ローマ教皇「コンスタンティヌス」
- 715年5月-02:00|トルコ| ||<即位>東ローマ帝国皇帝「テオドシオス3世」(~07170325廃位)
- 715年5月3日-01:00|パチン| ||<就任>第89代ローマ教皇「グレゴリウス2世」(~07310211死去)
- 715年5月8日-09:00|日本| ||和銅8年4月|比売額田、丈六釈迦像を造る
- 715年5月8日-08:00|中国| ||唐・開元3年4月|默啜は兵を発して葛邏祿、胡禄屋、鼠尼施等を攻撃して、屢々これを破る
- 715年6月6日-09:00|日本| ||和銅8年5月1日|土断法制定
- 715年6月24日-09:00|日本| ||和銅8年5月19日|義倉の法を制定
- 715年6月30日-09:00|日本| ||和銅8年5月25日|<遠江国地震>三河・遠江で大地震。正倉47棟が倒壊。鹿玉河(天竜川)が土砂でふさがり塞き止められ、数十日後に決壊して洪水。民家170余戸が水没
- 715年7月-02:00|ブルガリア| ||<即位>ブルガリア帝国ハ「コルメイ」(~721年)
- 715年7月9日-09:00|日本| ||和銅8年6月4日|<死去>天武天皇皇子長親王(母:天智天皇皇女大江内親王)
- 715年8月4日-08:00|中国| ||唐・開元3年7月1日|朔、日食があった
- 715年8月30日-09:00|日本| ||和銅8年7月27日|<死去>知太政官事穂積親王(父:天武天皇、母:蘇我大娘)
- 715年8月30日-09:00|日本| 岐阜県|和銅8年7月27日|尾張国人や新羅人などを美濃に移して席田郡をたてる
- 715年10月2日-08:00|中国| ||唐・開元3年9月|默啜は北方の拔曳固を攻撃して、独樂水にて大いに破った/拔曳固の敗残兵の頡質略が柳林から突撃し、默啜を斬った
- 715年10月3日-09:00|日本| ||霊龜1年9月2日|<譲位>第43代「元明天皇」
- 715年10月3日-09:00|日本| ||霊龜1年9月2日|<即位>第44代「元正天皇」氷高内親王(~07240204)
- 715年10月3日-09:00|日本| ||霊龜1年9月2日|「霊龜」に改元
- 715年11月-02:00|トルコ| ||<廃位>東ローマ帝国皇帝「アヌシオス2世」反乱軍に降伏
- 715年11月13日-08:00|中国| ||唐・開元3年10月13日|スイ州蛮が辺境を寇し、右驍衛將軍李玄道がこれを討伐
- 715年12月31日-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| ||<死去>フランク王国(メロヴィング朝)国王「ダゴベルト3世」
- 715年12月31日-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| ||<即位>フランク王国(メロヴィング朝)国王「キルク2世」ダゴベルト3世の従兄弟(~720年)
- 715年12月31日-08:00|中国| ||唐・開元3年12月|西方では、突騎施(トルキシュ)可汗の守忠が死ぬと、突厥第二帝国のカガン可汗は撤兵/守忠の部将スルクは敗残兵をかき集め、突騎施(トルキシュ)可汗となった
- 716年-08:00|インドネシア| ||<即位>ガリア王国マハラジャ「Purbasora」(~723年)
- 716年-07:00|カンボジア| ||<即位>チェンラ王「フシカラクシヤ」(~730年)
- 716年 00:00|イギリス| ||<死去>ノーザンブリア王「Osraed Ealdfrithes sunu(Osred1世)」
- 716年 00:00|イギリス| ||<死去>マシア王「Æthelredt・Aethelraedes sunu」
- 716年 00:00|イギリス| ||<即位>ノーザンブリア王「Coenraed Cuthwines sunu」(~718年死去)
- 716年 00:00|イギリス| ||<即位>マシア王「Ælweald・Alweowes sunu」(~757年死去)
- 716年 00:00|ポルトガル| ||イスラム教徒のポルトガル支配(リスボンが落ちる)
- 716年1月29日-09:00|日本| 奈良県|霊龜2年|芳野監/大和国吉野郡を分立させて吉野地方に設けられた/現在の奈良県南部
- 716年1月29日-09:00|日本| 島根県出雲市|霊龜2年1月|出雲大社建立
- 716年3月12日-08:00|中国| ||唐・開元4年2月14日|吐蕃が松州を寇し、廓州刺史の蓋思貴がこれを討伐
- 716年3月24日-08:00|中国| ||唐・開元4年2月26日|松州都督の孫仁献が吐蕃と戦い、これを破った

0800迄 (2112件)

- 716年4月17日-01:00|フランス| |||ピピン2世Ⅱ (中ピピン)の子カール・マルテル、フランス北東部の「ヴァンジーの戦い」で「ネストリア(西分王国)」の宮宰カソフららの反乱軍を撃破し、「ネストリア(西分王国)」を制圧
- 716年4月23日-09:00|日本| |||霊亀2年3月27日|河内国から和泉郡・日根郡を割き珍努宮に供させる
- 716年5月8日-09:00|日本|大阪府|霊亀2年4月13日|和泉郡、日根郡に河内国大鳥郡をあわせて和泉監が建てられた
- 716年6月10日-09:00|日本|埼玉県|霊亀2年5月16日|668年の百済・高句麗滅亡で亡命した下野国ほか駿河、甲斐、相模、上総、下総、常陸7国の高麗人1,799人を武蔵国に移し、高麗郡を置く
- 716年6月10日-09:00|日本|奈良県奈良市|霊亀2年5月16日|大官大寺が平城京へ移され大安寺となる
- 716年7月13日-08:00|中国| |||唐・開元4年6月20日|<死去>唐第8代皇帝「睿宗(重祚)李旦」百福殿で崩じた(55)
- 716年7月22日-08:00|中国| |||唐・開元4年6月29日|<死去>突厥第二可汗国第2代可汗「阿史那默啜(カフガソカソ)」大武軍子将の加靈々に殺される
- 716年7月22日-08:00|中国| |||唐・開元4年6月29日|<即位>突厥第二可汗国第3代可汗「昆伽可汗(ヒルケカソ)、默棘連)」(~734年殺)骨咄祿の子
- 716年8月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||ウマイヤ朝のマサラ軍がコンスタンティノブルを攻撃開始
- 716年9月1日-09:00|日本| |||霊亀2年8月11日|<死去>志貴皇子(施基皇子)(49歳)天智天皇の皇子、光仁天皇の父
- 716年9月10日-09:00|日本| |||霊亀2年8月20日|第8回遣唐使派遣/多治比県守、大伴山守、藤原宇合、阿倍仲麻呂、吉備真備、大和長岡、玄昉ら
- 716年9月18日-08:00|中国| |||唐・開元4年8月28日|奚・契丹が降った
- 716年10月21日-08:00|中国| |||唐・開元4年10月2日|王峻は并州の兵を率いて西進して黄河を渡り、昼夜兼行して叛者を追撃し、これを破って三千級を捕斬
- 716年12月11日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<死去>パリエル公「テト」息子間で公国は分割
- 716年12月11日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<即位>パリエル公「タシロ2世」テトの息子(~719年)、「ケリマル」テトの息子(=>719年全パリエルを統治~725年戦死)
- 717年-08:00|インドネシア| |||<即位>シャイレントラ朝国王「サンジャヤ」(~760年)
- 717年-03:30|イラン| |||<死去>パバント朝太守「Surkhab1世」
- 717年-03:30|イラン| |||<即位>パバント朝太守「Mihir Mardan」(~755年死去)
- 717年-02:00|エジプト| |||<就任>ウマイヤ朝エジプト第11代アミール「アユブ・イブン・シャルヒル」(~720)
- 717年-01:00|イタリヤ| |||<就任>ヴェネツィア共和国トージエ(元首)「マルチェッロ・テガツリアノ」(~726年)
- 717年 00:00|イギリス| |||<即位>ホイス王「Elisedd ap Gwylog」(~755年死去)
- 717年2月16日-09:00|日本| |||霊亀3年|<施行>郷里制(里が郷とよばれ、その郷の下に2、3の里が置かれる)
- 717年2月16日-09:00|韓国/朝鮮| |||新羅・聖徳王16年|医博士・算博士を創設
- 717年2月16日-09:00|日本|石川県小松市|霊亀3年|泰澄、那谷寺創建<高野山真言宗別格本山>
- 717年2月16日-09:00|日本|長崎県壱岐市|霊亀3年|勅命により聖母宮[勝本浦]を建立
- 717年3月25日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ帝国(イサリア朝)「レオン3世イサウス(イサリア)」(~07410618死去)
- 717年3月25日-02:00|トルコ| |||<廃位>東ローマ帝国(ヘラクレイオス朝)「テト」イオス3世
- 717年4月24日-09:00|日本| |||霊亀3年3月9日|第9回遣唐使(大使:大伴山守)派遣(玄昉・阿倍野仲麻呂・吉備真備・井真成ら留学)
- 717年6月6日-09:00|日本| |||霊亀3年4月23日|僧行基の巷の活動を禁じる
- 717年6月30日-09:00|日本| |||霊亀3年5月17日|百姓の浮浪を禁じる
- 717年8月15日-08:00|中国| |||唐・開元5年7月5日|隴右節度使の郭知運が吐蕃と戦い、これを破った
- 717年9月3日-08:00|中国| |||唐・開元5年7月24日|并州へ天兵軍を設置
- 717年9月22日-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>ウマイヤ朝カリフ「スライマン」病死
- 717年9月22日-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>ウマイヤ朝カリフ「ウマル2世」(~07200210.37歳没)
- 717年10月14日-08:00|中国| |||唐・開元5年9月6日|紫微省を中書省にもどし、黄門省を門下省とし、監を侍中とした
- 717年12月24日-09:00|日本| |||養老1年11月17日|霊亀から養老に改元
- 717年12月29日-09:00|日本| |||養老1年11月22日|国輸の絹施の精麓長短広狭の法を定める
- 718年-05:30|インド| |||<即位>東チャルキヤ朝君主「Kokkili」(~719年,6ヶ月間)
- 718年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||東ローマ帝国皇帝レオン3世は首都を包囲したイスラム帝国軍を撃退
- 718年-01:00|スペイン| |||<即位>アストウリアス王「ペラヨ」(~737年死去)コドソガの戦いを通じて王国の土台を築き、カカステデ・ホスを首都にする
- 718年 00:00|イギリス| |||<死去>ノーザンブリア王「Coenraed Cuthwines sunu」
- 718年 00:00|イギリス| |||<即位>ノーザンブリア王「Osric Ealdfrithes sunu」(~07290509死去)
- 718年2月5日-09:00|日本|石川県小松市|養老2年|粟津温泉開湯、法師開業<世界最古の温泉旅館としてギネブツクに登録>
- 718年2月5日-09:00|日本|大分県豊後高田市|養老2年|富貴寺創建
- 718年2月5日-09:00|日本|長崎県壱岐市|養老2年|神岳三所権現[新城西触]を鎮座
- 718年2月5日-09:00|日本|奈良県奈良市|養老2年|薬師寺を平城京に移転
- 718年2月10日-08:00|中国| |||唐・開元6年1月6日|突厥第二帝国のヒルケ可汗が来朝して和を請うてきたので、玄宗皇帝はこれを許した
- 718年3月7日-08:00|中国| |||唐・開元6年2月|突厥の敦欲谷は北庭を包囲し抜悉密を攻撃、大いに破った
- 718年4月2日-08:00|中国| |||唐・開元6年2月27日|朔方道行軍大総管の王峻が突厥を討伐

0800迄 (2112件)

- 718年4月25日-09:00|日本/韓国| ||養老2年3月20日|元正天皇が、少納言・正五位下の小野の朝臣馬養を、遣新羅大使に任命/翌年2月10日帰国
- 718年6月4日-09:00|日本|石川県|養老2年5月2日|越前国[羽咋郡、能登郡、鳳至郡、珠洲郡]→能登国として分立
- 718年6月4日-09:00|日本|千葉県|養老2年5月2日|上総国[平群郡、安房郡、朝夷郡、長狭郡]を分けて安房国(房州)(現在の千葉県南端)が建てられた
- 718年6月4日-09:00|日本|福島県|養老2年5月2日|陸奥国[石城郡、標葉郡、行方郡、宇太郡、日理郡]・常陸国菊多郡→石城国分立
- 718年6月4日-09:00|日本|福島県|養老2年5月2日|陸奥国[白河郡、石背郡、会津郡、安積郡、信夫郡]→石背国分立
- 718年7月3日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・聖徳王17年6月|新羅が漏刻を製造し、その官署を設置する
- 718年10月21日-09:00|日本|奈良県奈良市|養老2年9月23日|法興寺(元興寺)を平城に移す
- 718年11月27日-09:00|日本| ||養老2年11月|彗星、月を守る
- 718年12月26日-09:00|日本| ||養老2年12月|藤原不比等ら養老律令を編纂
- 719年-05:30|インド| ||<即位>東チャルヤ朝君主「Vishnuvardhana3世」(~755年)
- 719年-01:00|イタリヤ| ||<死去>フランク王国「リ公「シオン1世」
- 719年-01:00|ドイツ| ||<死去>フランク王国「テロリク2世」、以後断絶
- 719年-01:00|イタリヤ| ||<即位>フランク王国「テロリク1世」(~729年死去)
- 719年-01:00|フランス| ||南ガリアの「アキータウ」の軍勢を破り、ライン河東岸の諸族をも制圧/カールは全ガリアの支配権をその手におさめる
- 719年-01:00|ドイツ/オーストリア| ||「ゲリマルド」が全ババイエルを統治→<即位>ババイエル公「テト3世」(~725年)
- 719年1月7日-09:00|日本| ||養老2年12月13日|第8回遣唐使帰国/第7回の坂合部大分、道慈ら帰国
- 719年1月25日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・開元7年3月|劍南節度使を設置し益、彭等二十五州を領有させる
- 719年2月26日-09:00|日本| ||養老3年2月3日|全国で衣服を右前に統一/同時に官位有職者は「笏」を所持させた。五位以上は象牙の笏、六位以下は木製の笏、散位も笏の所持を許可された
- 719年3月5日-09:00|日本| ||養老3年2月10日|遣新羅使帰る
- 719年3月26日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・開元7年3月|渤海の大祚栄が没し、2代目武王が即位
- 719年4月2日-08:00|中国| ||唐・開元7年3月8日|<死去>渤海国王「高王大祚栄」
- 719年4月2日-08:00|中国| ||唐・開元7年3月8日|<即位>渤海国王「武王大武芸」(~仁安19年(737年)死去)
- 719年5月24日-09:00|中国/韓国/朝鮮| ||唐・開元7年5月1日|朔、日食が起こった
- 719年5月30日-08:00|日本/韓国| ||新羅・聖徳王18年5月7日|新羅の貢調使・級伐キウ(級キウ、六頭品・9位)のキョウケン(金長言)等40人が、朝廷を訪問/閏7月17日、帰還
- 719年7月1日-02:00|トルコ| ||<死去>元東ローマ帝国皇帝「アスタシオス2世
- 719年8月3日-09:00|日本| ||養老3年7月13日|朝廷が畿内・西海道以外の諸国に按察使を設置
- 719年9月25日-09:00|日本/韓国| ||養老3年8月8日|遣新羅使の白猪の史広成等が出立
- 719年10月14日-01:00|フランス| ||「メロウイング」朝・フランク王国の宮宰「カール・マルテル(故ピピン2世IIの子)、パリの北東部のサリス・ソワソン間で「ラッフリド」と南ガリアの「アキータウ」の軍を破り、ライン川東岸を制圧し、全ガリアを支配
- 719年10月25日-09:00|日本| ||養老3年9月8日|朝廷が畿内の摂官(近畿の按察使相当職)を設置
- 720年-08:00|中国/インド| ||「パツラヴァ」朝「ランハヴァ」アルマン2世が中国と使節を交換
- 720年-02:00|シリア・アラブ| ||<死去>ウマイヤ朝カリフ「ウマル2世」37歳
- 720年-02:00|エジプト| ||<就任>ウマイヤ朝エジプト第12代「アミール・ヒン・サフワ・アルカビ」(~721)
- 720年-02:00|シリア・アラブ| ||<即位>ウマイヤ朝カリフ「ヤズィード2世」(~07240126死去)
- 720年-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| ||<即位>フランク王国(メロウイング朝)国王「テゲリク4世」ダゴベルト3世の息子(~07370316)
- 720年-01:00|ノルウェー| ||<即位>ホルダラン王「Flein Hjorsson」
- 720年-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| ||<退位>フランク王国(メロウイング朝)国王「キルベリク2世」
- 720年-01:00|イタリヤ| ||サルデーニャ、サレン人に占領される
- 720年 00:00|アイルランド| ||<即位>アイルランド上王「Cinaed mac Irgalaig」(~722年)
- 720年 00:00|イギリス| ||<即位>ケウイネト王「Rhodri Molwynog ap Idwal」(~754年死去)
- 720年1月18日-09:00|日本| ||養老3年12月5日|初めて婦人の衣服の様式を定める
- 720年2月13日-08:00|中国| ||渤海・仁安1年|渤海国王「武王大武芸」仁安(~738年)と改元
- 720年2月13日-08:00|中国/朝鮮| ||渤海・仁安1年|渤海、大武芸が仁安(-738年)と改元
- 720年4月15日-09:00|日本| ||養老4年3月4日|隼人が反乱し、大伴旅人を征隼人持節大將軍に任じて征討軍を派遣
- 720年6月19日-08:00|中国| ||唐・開元8年5月9日|再び十道按察使を設置
- 720年6月30日-09:00|日本| ||養老4年5月21日|舎人親王ら『日本書紀』30巻系図1巻を成し奏上
- 720年7月10日-08:00|中国| ||唐・開元8年6月|リクと穀が溢れて、二千人近くが漂流・溺死した
- 720年7月25日-09:00|日本| ||養老4年6月17日|朝廷軍は隼人側5ヶ所の城を陥落させた
- 720年9月8日-09:00|日本| ||養老4年8月3日|<死去>藤原不比等/62歳(誕生: (斉明)5(659))律令国家成立期の政治家で、右大臣、太政大臣をつとめた
- 720年9月9日-09:00|日本| ||養老4年8月4日|舎人親王が知太政官事に就任
- 720年10月6日-08:00|中国| ||唐・開元8年9月|突厥が甘・涼を寇し、涼州都督の楊敬述が突厥と戦い、敗れた
- 720年10月28日-08:00|中国| ||唐・開元8年9月23日|契丹が辺境を寇し、王峻が檢校幽州都督・節度河北諸軍大使となり、黄門侍郎の韋抗が朔方道行軍大総管となり、これを討伐

0800迄 (2112件)

- 720年11月1日-09:00|日本| ||養老4年9月28日|陸奥国で蝦夷が叛乱を起こし、陸奥按察使上毛野広人を殺害
- 720年11月20日-09:00|日本| ||養老4年10月17日|造興福寺仏殿司おかれる
- 721年-02:00|エジプト| |||<即位>ウマイヤ朝エジプト第13代アミール:ハンター・ラ・イブン・サフワン・アルカビ (~724)
- 721年-02:00|ブルガリア| |||<即位>ブルガリア帝国ハンセバル (~737年5月)
- 721年-01:00|フランス/スペイン/ポルトガル| |||<死去>西ゴート王国国王「アルド」
- 721年 00:00|イギリス| |||<死去>ダリア王「Dunchadh Becc」
- 721年 00:00|イギリス| |||<即位>ダリア王「Selbach mac Ferchair fota」(~723年)
- 721年2月1日-08:00|中国| ||唐・開元9年|この年、朔方節度使を設置/単于都護府、夏、鹽等六州、定遠、豊安二軍、三受降城を領有させる
- 721年2月9日-08:00|中国| ||唐・開元9年1月9日|蒲州を河中府とし、京兆や河南に準じて中都官僚を設置
- 721年2月13日-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<死去>フランク王国国王「キルリク2世」49歳
- 721年2月13日-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<即位>フランク王国国王「テゲリクス4世」故ダゴベルト3世の子 (~737年)
- 721年5月14日-08:00|中国| ||唐・開元9年4月14日|蘭池州の胡の康待賓が諸々の降戸を誘って造反、六胡州を攻め落とす
- 721年5月20日-09:00|日本|広島県|養老5年4月20日|備後国安那郡を分割して、深津郡を設置
- 721年6月9日-01:00|フランス/シリア/アラブ| ||ウマイヤ朝の遠征軍がトゥルースでモウイック朝軍に敗れる
- 721年7月2日-08:00|中国| ||唐・開元9年4月14日|中都をやめ、蒲州を復活させた
- 721年7月24日-09:00|日本|長野県|養老5年6月26日|信濃国南部を諏方国として分置
- 721年7月29日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・聖徳王20年7月|渤海への対策として北辺の国境地帯に長城を築く
- 721年8月1日-08:00|中国| ||唐・開元9年7月4日|王俊が康待賓を大いに破り生け捕りにし、造反した胡人一万五千人を殺す
- 721年8月4日-09:00|日本| ||養老5年7月7日|朝廷軍は隼人の捕虜を連れて都に戻った/隼人側の戦死者と捕虜は合わせて1400人であった
- 721年8月27日-08:00|中国| ||唐・開元9年8月|蘭池の胡の康願子が辺境を寇した
- 721年9月26日-08:00|中国| ||唐・開元9年9月1日|朔、日食があった
- 721年12月23日-09:00|韓国/日本| ||新羅・聖徳王20年12月|新羅貢朝使、来朝するも元明太上天皇崩御を理由に帰す
- 721年12月29日-09:00|日本| ||養老5年12月7日|<死去>第43代「元明天皇」(前天皇)/61歳(誕生:(齊明)7(661))
- 722年-07:00|ベトナム| ||マイ・トゥック・ロン(梅叔驚)が「黒帝」と称し反乱を起こす
- 722年-01:00|スペイン| |||旧西ゴート王国の貴族ペロはコバドンの戦いでイスラム軍を破り、アストゥリアス地方にアストゥリアス王国建国(首都レオン)
- 722年 00:00|アイルランド| |||<即位>アイルランド 上王「フォガルトク・マック・ニール」(~724年没)
- 722年 00:00|イギリス| |||<即位>ストラスカイト 王「Teudebur map Beli」(~752年死去)
- 722年2月10日-09:00|日本| ||養老6年1月20日|謀叛誣告の罪により多治比三宅麻呂を伊豆島へ、元正天皇誹謗の罪により穂積老を佐渡島に配流
- 722年2月18日-09:00|日本| ||養老6年1月28日|<死去>広瀬王(不明)大蔵卿
- 722年6月19日-08:00|中国| ||唐・開元10年閏5月|康待賓の残党康願子が造反し、自ら可汗と称した
- 722年6月27日-09:00|日本/韓国| ||養老6年5月10日|元正天皇が、式部大祿・正七位下の津の史主治麻呂を、遣新羅使に任命/12月23日、帰還
- 722年7月18日-08:00|中国| ||唐・開元10年6月|安南の賊帥梅叔焉等が、州県を攻囲/驍騎將軍兼内侍楊思勳を派遣して、これを討たせる/思勳は賊軍を襲撃して大いに破る
- 722年9月15日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・聖徳王21年8月|新羅が百姓に丁田を給付
- 722年9月16日-08:00|中国| ||唐・開元10年8月|張説が兵を発して追討して康願子を捕らえ、その一党は全て平定
- 722年9月16日-08:00|中国| ||唐・開元10年8月|吐蕃帝国がフルツァ王・没謹忙を包囲/カシュガル副使・張思礼に蕃・漢の歩騎四千人を与えて救援に派遣吐蕃軍を攻撃し大いに破り、数万人を斬獲
- 722年10月25日-08:00|中国| ||唐・開元10年9月11日|京兆の人の権梁山がそむき、処刑された
- 722年10月29日-08:00|中国| ||唐・開元10年9月15日|吐蕃が小勃律を攻め、北庭節度使の張孝嵩がこれを破った
- 722年11月14日-09:00|韓国| ||新羅・聖徳王21年10月|新羅国、日本の賊の侵入に備え、毛我郡城を築く
- 723年-08:00|インドネシア| |||<即位>スンダ 王国マハラジャ「Sanjaya/Harisdarma/Rakeyan」(~732年)
- 723年-03:30|イラン| |||<即位>パダスパン 朝君主「Paduspan2世」(~762年)
- 723年 00:00|イギリス| |||<即位>ダリア王「Dunghal mac Selbaigh」(~726年廃位)
- 723年 00:00|イギリス| |||<退位>ダリア王「Selbach mac Ferchair」
- 723年2月10日-09:00|日本|奈良県奈良市|養老7年|興福寺に施薬院・悲田院作られる
- 723年3月6日-08:00|中国| ||唐・開元11年1月25日|次并州、并州を改めて北都とした
- 723年5月25日-09:00|日本| ||養老7年4月17日|三世一身の法を定め田地開墾を奨励
- 723年8月12日-09:00|日本| ||養老7年7月7日|<死去>太安万侶(官人・学者/「古事記」の選者)
- 723年9月11日-09:00|日本/韓国| ||養老7年;新羅・聖徳王22年8月8日|新羅使の大奈麻(韓奈麻、五頭品・10位)のコンテイク(金貞宿)・副使の大奈麻のヒヨウツ(昔楊節)等15人が、来訪・朝貢/8月25日、帰国
- 723年12月3日-09:00|日本| ||養老7年11月2日|口分田を支給/全国の12歳以上の奴婢に、口分田が支給される
- 724年-05:00|ウズベキスタン| |||蘇祿率いる突騎施(トルコ系遊牧民)が大軍を率いてアソカに侵攻

0800迄 (2112件)

- 724年-02:00|エジプト| |||<就任>ウマイヤ朝エジプト第14代アミール:ムハンマド・イブン・アブド・アルマリク・イブン・マウン(~724)→同年<就任>第15代アミール:アルファ・イブン・ユサフ(~727死去)事実上はウマイヤ・アラブ・イブン・アルハバブが統治
- 724年-01:00|イタリア| |||<即位>スレート公「トランスモン」2世(1期目~739年)
- 724年 00:00|アイルランド| |||<即位>アイルランド 上王「シネド・マック・イルガラク」(~728年)
- 724年 00:00|イギリス| |||<即位>ビクト王「Drest」7世(~726年)
- 724年1月26日-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>ウマイヤ朝カリフ「ヤズィード」2世
- 724年1月26日-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>ウマイヤ朝第10代カリフ「ヒシャム」(~07430206死去)
- 724年1月31日-09:00|日本|滋賀県長浜市|養老8年|行基、聖武天皇、己高山山頂に宝厳寺創建(竹生島)
- 724年1月31日-09:00|日本|長崎県壱岐市|養老8年|聖母宮を再興し、卜部高巢が奉る
- 724年1月31日-09:00|日本|兵庫県神戸市北区|養老8年|行基、温泉寺創建(有馬温泉)
- 724年1月31日-09:00|日本|宮城県多賀城市|養老8年|陸奥に多賀城を築く
- 724年1月31日-08:00|中国| ||唐・開元12年|<即位>ホーチン王「尉遲眺」(~724年)
- 724年3月3日-09:00|日本| ||神亀1年|石背国、石城国→元の陸奥国に併合
- 724年3月3日-09:00|日本| ||神亀1年2月4日|<譲位>第44代「元正天皇」
- 724年3月3日-09:00|日本| ||神亀1年2月4日|<即位>第45代「聖武天皇」首皇子(~07490702)
- 724年3月3日-09:00|日本| ||神亀1年2月4日|「神亀」に改元
- 724年3月29日-09:00|日本| ||神亀1年3月1日|伊豆・安房・常陸・佐渡・隠岐・土佐を遠流、諏方・伊予を中流、越前・安芸は近流の国とする
- 724年4月15日-09:00|日本| ||神亀1年3月18日|<死去>柿本人麻呂
- 724年4月22日-09:00|日本| ||神亀1年3月25日|陸奥国の蝦夷が叛乱/陸奥国大掾佐伯児屋麻呂を殺害
- 724年5月4日-09:00|日本| ||神亀1年4月7日|藤原宇合を持節大將軍に任命し、反乱の蝦夷を討たせる
- 724年6月24日-08:00|中国| ||唐・開元12年5月29日|諸道の按察使をやめた
- 724年8月6日-09:00|日本| ||神亀1年7月13日|<死去>天武天皇夫人大娘(父:蘇我赤兄、穗積親王・紀皇女・第13代伊勢斎王田形内親王生母、号:石川夫人)
- 724年9月12日-09:00|日本/韓国| ||神亀1年8月21日|聖武天皇が、従五位上の土師の宿禰豊麻呂を、遣新羅大使に任命/翌神亀2年5月22日、帰国
- 724年11月28日-09:00|日本| ||神亀1年11月8日|建物に瓦葺や丹塗りを許可
- 724年12月14日-08:00|中国| ||唐・開元12年11月24日|溪州の首領の覃行章がそむき、処刑された
- 725年-05:30|インド| |||西ガーン朝のシュリブ・ルジャが即位
- 725年-05:30|インド| |||シンドのムスリム軍がゲジャラトに侵攻するが敗退
- 725年-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<即位>パリエル公「フガベルト」テクトベルトの息子。フガベルトの統治中フランク王国の事実上の支配者であったカール・マルテルがパリエルに対する主権を再び主張して、ゲリアルトを打ち負かして殺し、パリエルの一部を吸収(~736年)
- 725年1月19日-09:00|日本|石川県加賀市|神亀2年|山代温泉開湯
- 725年1月19日-09:00|日本|大分県宇佐市|神亀2年|宇佐神宮創建【全国の八幡宮の総本宮】<応神天皇・比売大神・神功皇后を祀る>
- 725年1月19日-09:00|日本|富山県中新川郡上市町|神亀2年|行基が大岩山日石寺創建
- 725年1月19日-08:00|中国| ||唐・開元12年11月24日|朔、日食があった
- 725年2月18日-08:00|中国| ||唐・開元13年|<即位>ホーチン王「尉遲暹」(~735年)
- 725年2月18日-08:00|中国| ||唐・開元13年|Yuchi Tiaoが、トルコ人と共謀した罪で中国に打ち首にされ中国はYuchi Fushizhanをホーチン王位につける
- 725年2月18日-08:00|中国| ||唐・開元13年|吐于、可突于とあわず、唐に入朝/遼陽郡王に封じられる/召固(尽忠の弟)、立てられる
- 725年4月23日 00:00|イギリス| |||<死去>ケント王「Wihtraed Ecgberhtes sunu」
- 725年4月23日 00:00|イギリス| |||<即位>ケント王「Eadberht Wihtraedes sunu」(~730年)、「Alfric Wihtraedes sunu」
- 725年7月21日-09:00|日本|千葉県安房郡鋸南町|神亀2年6月8日|<開山>「日本寺」聖武天皇勅詔で行基が/日本最大の石製大仏座像
- 725年11月12日-08:00|中国| ||唐・開元13年10月3日|一行に作らせていた水運渾天(改良型水力式天球儀)が完成
- 726年-05:30|インド| |||<建国>カカ国
- 726年-05:30|スリランカ| |||<即位>アヌラダプーラ王国国王「Aggabodhi」5世Manavammaの息子(~732年)
- 726年-05:30|インド| |||ヤショーヴァルマンがカカウジを支配
- 726年-02:00|トルコ| |||ビザンティンで法令集「クログ」が刊行
- 726年-02:00|トルコ| |||ビザンティン皇帝レオ3世が聖画像破壊令を発布(イコノクラスム)
- 726年-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェネツィア共和国第3代「ドージェ」(元首)「オルヴィハート」(~737年→742年まで一時元首不在)
- 726年 00:00|イギリス| |||<即位>ウェセックス王「イェルムド」(~740年死去)
- 726年 00:00|イギリス| |||<即位>ダールリア王「Eochaidh mac Echdhaigh」(~733年死去)
- 726年 00:00|イギリス| |||<即位>ビクト王「Alpin」1世(~728年)
- 726年 00:00|イギリス| |||<廃位>ダールリア王「Dunghal mac Selbaigh」
- 726年3月9日-08:00|中国| ||唐・開元14年2月|邕州の羅玕の梁大海がそむき、処刑された

0800迄 (2112件)

726年6月28日-09:00|日本/韓国| ||新羅・聖徳王25年5月24日|新羅使の沙訶ウ(薩訶ウ、新羅の官位17等の六頭品・8位)のコソウケン(金造近)等が、朝廷を訪問

726年8月2日-09:00|日本|奈良県奈良市|神亀3年7月|聖武天皇、興福寺東金堂を建立

726年8月2日-08:00|中国| ||唐・開元14年7月|河南、北にて大水。溺死者は千人を数えた

727年-02:00|エジプト| ||<就任>ウマイヤ朝エジプト第16代アミール:アブド・アルマリク・イブン・リファア・アルファアミ(~727)事実上はウマイヤ・アラブ・イブン・アルハバブが統治→同年<就任>第17代アミール:アルワリド・イブン・リファア・イブン・タビト・アルファアミ(~735解任)事実上はウマイヤ・アラブ・イブン・アルハバブが統治

727年-01:00|イタリア/イギリス| ||ウエックス王イェがローマ巡礼者用の宿泊所を設置

727年1月27日-09:00|日本|奈良県桜井市|神亀4年|道明、長谷寺創建<真言宗豊山派総本山>

727年2月23日-08:00|中国| ||唐・開元15年1月28日|涼州都督・王君?が、青海の西で吐蕃を破った

727年8月7日-08:00|中国| ||唐・開元15年7月16日|突厥・毘伽可汗がその大臣の梅録噉を派遣して入貢

727年9月26日-08:00|中国| ||唐・開元15年9月7日|吐蕃の大将・悉諾邏恭祿と燭龍奔布支が瓜州を攻め落とした

727年10月10日-09:00|日本/中国| ||神亀4年9月21日|渤海郡王の使、出羽国に来着(初めての渤海使)、蝦夷に襲撃され、16人が殺害され8名のみ生存/12月20日、渤海使、入京

727年10月20日-08:00|中国| ||唐・開元15年閏9月2日|吐蕃の賛普と突騎施(トルキッシュ)のスルク可汗が安西城を包圍/大唐の安西副大都護・趙頤貞がこれを撃破

727年11月9日-08:00|中国| ||唐・開元15年閏9月22日|回コツが甘州を襲い、王君?がここに死んだ

727年11月18日-09:00|日本|千葉県|神亀4年10月|上総で山崩れがあり、70人が圧死

728年-03:30|イラン| ||<死去>ダブト朝「Farrukhan the Great」

728年-03:30|イラン| ||<即位>ダブト朝「Dadhburzmihr」(~740年死去)

728年 00:00|アイルランド| ||<即位>アイルランド 上王「フリスバ・タック・マック・ローイング・シー」(~734年)

728年 00:00|イギリス| ||<即位>ピクト王「Oenghus」(~同年)⇒「Nechtan mac Der Ilei (Nechtan4世)」(2期目~732年)

728年2月4日-09:00|日本/朝鮮/中国| ||神亀4年12月20日|渤海使入京/翌年4月16日、帰国

728年2月13日-09:00|日本/朝鮮/中国| ||神亀4年12月29日|正式に渤海国との国交が開かれる

728年2月15日-09:00|日本| ||神亀5年|陸奥国に白河軍団を置き、また丹取軍団を改め玉造軍団とす(玉造郡の初見)

728年2月15日-09:00|日本|愛媛県松山市|神亀5年|伊予国の太守、越智玉純が聖武天皇の勅願により石手寺創建

728年2月15日-08:00|中国| ||唐・開元16年|Yuchi Fushizhan、中国皇帝から正式に赫姓王の称号を受ける

728年2月19日-08:00|中国| ||唐・開元16年1月5日|趙頤貞が吐蕃と曲子城で戦い、これを破った

728年3月3日-08:00|中国| ||唐・開元16年1月18日|瀧州の首領の陳行範がそむき、処刑された

728年4月18日-09:00|日本| ||神亀5年3月5日|<死去>天武天皇皇女田形内親王没(母:蘇我大弐娘、第13代伊勢斎王、六人部王妃)

728年5月29日-09:00|日本/中国| ||神亀5年4月16日|遣渤海使(引田虫麻呂)62名を派遣(高齊徳ら8名を送るためと渤海と通交することにより新羅を牽制するため)

728年8月10日-08:00|中国| ||唐・開元16年7月|吐蕃の大将・悉末朗が瓜州に来寇し都督の張守珪が撃退

728年8月20日-08:00|中国| ||唐・開元16年7月11日|河西節度使・蕭嵩、隴右節度使・張忠亮が吐蕃の大莫門城を落とした

728年9月8日-08:00|中国| ||唐・開元16年8月|乙巳、特進張説が開元大衍曆を上納し、これを施行

728年9月8日-09:00|日本| ||神亀5年8月1日|殺生を禁じる意もあり、鷹の飼育を禁止

728年10月5日-08:00|中国| ||唐・開元16年8月28日|左金吾將軍・杜寶客が祁連城下にて、吐蕃軍を破った

728年10月20日-09:00|日本| ||神亀5年9月13日|<死去>基王(2歳/聖武天皇の皇子)病のため夭逝

729年-05:30|インド| ||<即位>パラヴァ朝君主「Paramesvaravarman2世」(~731年死去)

729年-01:00|イタリア| ||<死去>パトリク「テオドル1世」

729年-01:00|イタリア| ||<即位>パトリク「ゲオルグ」(~739年死去)

729年 00:00|イギリス| ||<死去>ノザンブリア王「Osríc Ealdfrithes sunu」

729年 00:00|イギリス| ||<即位>ノザンブリア王「Ceolwulf」(~737年退位)

729年2月3日-09:00|日本|長崎県壱岐市|神亀6年|行基が刈田院覚音寺[立石西触]を開く

729年3月10日-08:00|中国| ||唐・開元17年2月6日|ス州都督の張審素が雲南の昆明城・塩城を落とした

729年3月16日-09:00|日本| ||神亀6年2月12日|<死去>葛木王(不明)長屋王の子。長屋王の変の際に縊死

729年3月16日-09:00|日本| ||神亀6年2月12日|<死去>吉備内親王(不明)草壁皇子の子、長屋王の妃。長屋王の変の際に縊死

729年3月16日-09:00|日本| ||神亀6年2月12日|<死去>桑田王(不明)長屋王の子。長屋王の変の際に縊死

729年3月16日-09:00|日本| ||神亀6年2月12日|<死去>膳夫王(不明)長屋王の子。長屋王の変の際に縊死

729年3月16日-09:00|日本| ||神亀6年2月12日|<死去>長屋王(46歳)高市皇子の子、左大臣。謀反を企てたとして攻められ、服毒自殺

729年3月16日-09:00|日本| ||神亀6年2月12日|<死去>鉤取王(不明)長屋王の子。長屋王の変の際に縊死

729年3月21日-09:00|日本| ||神亀6年2月17日|長屋王と親交があった上毛野宿奈麻呂ら7人、流罪

729年4月3日-09:00|日本| ||神亀6年3月|班田収公を実施し、京・畿内の班田司を任ずる

729年4月10日-08:00|中国| ||唐・開元17年3月8日|張守珪が吐蕃と大同軍で戦い、これを破った

729年4月26日-08:00|中国| ||唐・開元17年3月24日|朔方節度使・信安王・李愬が吐蕃の石堡城を攻撃し、これを抜いた

0800迄 (2112件)

729年5月5日-09:00|日本| ||神亀6年4月3日|異端幻術厭魅呪詛を禁じる
729年6月3日-08:00|中国| ||唐・開元17年5月3日|十道及び京、都兩畿の按察使を再び設置
729年9月2日-09:00|日本| ||天平1年8月5日|「天平」と改元
729年9月7日-09:00|日本| ||神亀6年8月10日|藤原光明子が聖武天皇皇后になる(初の民間皇后)
729年9月27日-09:00|日本| ||天平1年9月|<任命>鎮守府将軍「大野東人」(~不詳)
729年10月9日-09:00|日本| ||天平1年9月13日|皇太子(基王)没
729年10月27日-08:00|中国| ||唐・開元17年10月1日|朔、日食があった
730年-07:00|カンボジア| ||<即位>チェンラ王「サンブウアルマン」(~760年)
730年-05:30|インド| ||<即位>プラーティハール朝国王「ナガパティ1世」建国(~760年)
730年-04:00|ロシア| ||<建国>アヴァール国(正式には首都の名にちなんでクザフ)
730年-02:00|フィンランド/スウェーデン| ||オランダ 諸島はスウェーデンの一部
730年-01:00|ノルウェー| ||<即位>ハーストフォルド王「Halvdan Oysteinsson "den milde og den madilde"」(~784年)
730年-01:00|パキスタン/トルコ| ||第1次聖像崇拜禁止運動がはじまり、東西教会の対立が激化へ
730年-01:00|イタリア| ||ロンゴバルド、ピサを取得
730年 00:00|イギリス| ||<即位>ケント王「Aethelberht Wihtraedes sunu」(~762年死去)
730年 00:00|イギリス| ||<即位>タウエト王「Tewdos アフ・ライン」⇒「マレイト・アフ・Teuder」(~798年)
730年1月23日-09:00|日本|東京都台東区|天平2年|日本武尊を奉って上野忍ヶ岡(台東区)に下谷神社創建
730年1月23日-09:00|日本|東京都千代田区|天平2年|武蔵国豊島郡芝崎村に入植した出雲系の氏族が神田神社(神田明神)創建
730年1月23日-08:00|中国| ||唐・開元18年|召固、可突干に殺される/屈烈、立てられ、可汗と称す
730年4月20日-09:00|日本|奈良県奈良市|天平2年3月29日|奈良・薬師寺の三重塔(東塔)が建立
730年5月8日-09:00|日本| ||天平2年4月17日|皇后宮職に施薬院を設置/病人や孤児の保護・治療・施薬を行った
730年5月19日-09:00|日本|奈良県奈良市|天平2年4月28日|光明皇后が興福寺に五重塔を建立
730年6月15日-08:00|中国| ||唐・開元18年5月26日|奚・契丹が突厥について
730年10月15日-09:00|日本/朝鮮| ||天平2年8月29日|渤海から引田虫麻呂が帰国し、渤海と日本の外交関係が始まる
730年10月16日-09:00|日本| ||天平2年9月|行基集団の活動に対して再び禁令出る
730年11月12日-09:00|日本| ||天平2年9月28日|諸国の防人を停止
730年11月15日-08:00|中国| ||唐・開元18年10月|吐蕃王・ティグツェンは、大臣・論名悉獵を皇甫惟明へ随行させて入貢
730年12月14日-08:00|中国| ||唐・開元18年11月|突騎施(トルキッシュ)が使者を派遣して入貢
731年-07:00|ベトナム| ||<死去>チャンハ王「グイクラングアルマン2世」
731年-07:00|ベトナム| ||<即位>チャンハ王「ルトラウアルマン2世」(~758年死去)
731年-05:30|インド| ||<建国>デカール国
731年-05:30|インド| ||<死去>ハラウア朝君主「Paramesvaravarman2世」
731年 00:00|イギリス| ||ベータが「イギリス教会史」を著す
731年2月11日-01:00|パキスタン| ||<死去>第89代ローマ教皇「グレゴリウス2世」
731年3月18日-01:00|パキスタン| ||<就任>第90代ローマ教皇「グレゴリウス3世」(~07411128死去)
731年4月17日-09:00|日本|長野県|天平3年3月7日|諏方国→信濃国に合併して元に復した
731年5月11日-09:00|韓国/日本| ||新羅・聖徳王30年4月|日本の戦船300艘が新羅の東部海岸に攻め寄せて辺境を襲ったがこれを撃破
731年8月31日-09:00|日本| ||天平3年7月25日|<死去>大伴旅人(政治家・歌人、67歳)
731年9月6日-09:00|日本| ||天平3年8月|行基集団に対して、男子61歳以上、女子55歳以上の者に出家を許可する詔勅を出す
731年12月25日-09:00|日本| ||天平3年11月22日|畿内に惣管を、諸道に鎮撫使を設置
732年-08:00|インドネシア| ||<即位>古マタラム王国国王「サンジャヤ」(~746年)
732年-08:00|インドネシア| ||<即位>スタガール王国マハラジャ「Rakeyan Panaraban/Tamperan Barmawi jaya」(~739年)
732年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプラ王国国王「Kassapa3世」Aggabodhi5世の兄弟(~738年)
732年-05:30|インド| ||<即位>ハラウア朝君主「ナデイクアルマン2世」KadavakulaのHiranyavarmanの息子(~796年)
732年-01:00|イタリア| ||<死去>ベネチア公「ロムアルド2世」
732年-01:00|イタリア| ||<即位>ベネチア公「アウテラン」(~733年)
732年 00:00|イギリス| ||<即位>ヒクト王「Oenghus mac Ferghusa (Angus1世)」(~761年死去)
732年2月20日-09:00|日本/韓国| ||天平4年1月20日|聖武天皇が、従五位下の角の朝臣家主を、遣新羅使に任命/8月11日、帰還
732年2月22日-09:00|日本/韓国| ||新羅・聖徳王31年1月22日|新羅使のコンョウソウ等40人が来朝/6月26日、新羅使、帰還
732年3月1日-08:00|中国| ||唐・開元20年2月1日|朔、日食があった
732年4月25日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|天平4年3月26日|難波宮の工事が一段落
732年4月25日-08:00|中国| ||唐・開元20年3月26日|信安郡王李伊が奚・契丹と薊州で戦い、これを破った
732年8月25日-08:00|中国| ||唐・開元20年8月1日|朔、日食があった
732年9月10日-09:00|日本| ||天平4年8月17日|鎮撫使を改め、東海・東山・山陰・西海に節度使を設置
732年9月28日-08:00|中国/朝鮮| ||唐・開元20年9月5日|渤海が唐・登州を襲撃し、両国に戦端が開かれる

0800迄 (2112件)

- 732年10月10日-01:00|フランス/イラク| || |フランク王国の宮宰カール・マルテル(44)の歩兵軍が、トゥールとポアティエでウマイヤ朝イスラム軍を破る(トゥール・ポアティエ間の戦い)
- 733年-05:30|インド| || |<即位>チャール7朝国王「ウイクラマデティヤ2世」(~744年)
- 733年-01:00|イタリヤ| || |<即位>ベネチア公「グレゴリー」(~740年死去)
- 733年 00:00|イギリス| || |<死去>ダリア王「Eochaidh mac Echdhaigh」
- 733年 00:00|イギリス| || |<即位>ダリア王「Muiredhach mac Ainbhcellaigh」(~736年)
- 733年1月21日-09:00|日本| || |天平5年|<死去>山上憶良(貴族・歌人、74)
- 733年1月21日-09:00|日本|静岡県浜松市|天平5年|行基、龍潭寺創建<井伊家歴代墓地>
- 733年1月21日-09:00|日本|東京都調布市|天平5年|満功上人、深大寺創建<法相宗→天台宗>
- 733年1月21日-08:00|中国/朝鮮| || |唐・開元21年1月|玄宗皇帝が、大門芸を幽州へ派遣して、兵を發して渤海王・大武芸を討伐させた
- 733年1月31日-09:00|日本| || |天平5年1月11日|<死去>県犬養三千代(橘三千代)(69歳)美努王・藤原不比等の妻、橘諸兄・光明皇后の母
- 733年3月20日-09:00|日本| || |天平5年2月30日|「出雲風土記」が完成
- 733年4月24日-08:00|中国| || |唐・開元21年閏3月6日|幽州副総管の郭英傑が契丹と都山で戦い、郭英傑はここに死んだ
- 733年5月20日-09:00|日本/中国| || |天平5年4月3日|第9次遣唐使渡唐/多治比広成、中臣名代、秦朝元、栄叡・普照・玄朗・玄法ら
- 733年8月14日-09:00|韓国/朝鮮| || |新羅・聖徳王32年7月|唐から勅を受けて渤海の南部を攻めた/新羅軍の大半は死亡し功績を挙げることなく退却
- 733年8月14日-08:00|中国| || |唐・開元21年7月1日|朔、日食があった
- 734年-03:30|イラン| || |この年、ムジャブ派のジャム・ブン・サフワーンがホラサンで反乱(746年鎮圧)
- 734年 00:00|アイルランド| || |<即位>アイルランド上王「アーエド・フラン・マック・フェルガイル」(~743年)
- 734年 06:00|ガアメラ| || |<即位>ティカル王「イキン・チャン・カウール」(~766年頃)
- 734年2月4日-09:00|日本|秋田県|天平5年12月26日|雄勝村に郡をたてる
- 734年2月4日-09:00|日本|秋田県秋田市|天平5年12月26日|庄内地方(山形県)にあった出羽柵を秋田村(秋田市)に移す
- 734年2月9日-08:00|中国| || |唐・開元22年|この年、過折、泥礼(遼の始祖)に殺される/刺乾(過折の子)、左驍衛將軍を拜す
- 734年2月18日-09:00|日本|奈良県奈良市|天平6年1月11日|光明皇后、母橘三千代の菩提供養のため興福寺西金堂建立
- 734年3月17日-09:00|日本| || |天平6年2月8日|<死去>天智天皇皇女泉内親王(母:忍海色夫古娘、第12代伊勢斎王)
- 734年3月19日-08:00|中国| || |唐・開元22年2月10日|秦州にて地震が続いた/吏民の死者は四千余人
- 734年4月-03:30|イラン| || |北アフリカの総督「イト・アッラーフ」がチュニスにサトゥーナ・モスクを建設
- 734年5月14日-09:00|日本| || |天平6年4月7日|<天平6年畿内七道地震>大地が大きく震え、天下の百姓(万民、民衆)の家が倒壊し圧死者が多く出た/山が崩れ川を埋めた/大地があちらこちらで裂けた
- 734年5月28日-09:00|日本| || |天平6年4月21日|諸道の節度使、廃止
- 734年5月30日-08:00|中国| || |唐・開元22年4月23日|北庭都護の劉渙が反乱を計画し、処刑された
- 734年8月10日-09:00|日本| || |天平6年7月7日|聖武天皇が宮中の相撲節会を観る。最古の相撲節会の記録
- 734年8月10日-09:00|日本| || |天平6年7月7日|聖武天皇が七夕の詩を作らせる(七夕の初め)
- 734年12月30日-08:00|中国| || |唐・開元22年12月|<死去>突厥第二可汗国第3代可汗「昆伽可汗(ヒルケカガ)、默棘連」大臣の梅録嚙に毒を盛られる
- 734年12月30日-08:00|中国| || |唐・開元22年12月|<即位>突厥第二可汗国第4代可汗「伊然可汗(イラカガ)」(~すぐ(に病死)昆伽可汗の子=><即位>突厥第二可汗国第5代可汗「登利可汗(テングリカガ)」(~741年殺)伊然可汗の弟
- 734年12月30日-08:00|中国| || |唐・開元22年12月1日|朔、日食があった
- 735年-05:30|インド| || |<即位>パルティヤ朝君主「マラヴァルマン・ラーゼヤンハ1世」(~765年)
- 735年-05:30|インド| || |<即位>ラシュトラクータ朝国王「ダントディウルガ」(~756年)
- 735年-02:00|エジプト| || |<就任>ウマイヤ朝エジプト第18代アミール:アブド・アルマン・イブン・カリト・アルファミ(~737解任)
- 735年-01:00|フランス| || |<死去>アキテーヌ公「ウード(大公)」
- 735年-01:00|フランス| || |<就任>ポワティエ伯「Hatton」(~778年)
- 735年-01:00|フランス| || |<即位>アキテーヌ公「ウナル1世」(~745年)
- 735年1月4日-08:00|中国/韓国| || |新羅・聖徳王33年12月6日|新羅の貢調使の級伐キウ(六頭品・9位)のコンソウイ(金相貞)等が筑紫に来泊
- 735年1月16日-08:00|中国| || |唐・開元22年12月18日|幽州節度使・張守珪が契丹と戦い、これを破り、その王の屈烈を殺した
- 735年1月29日-09:00|日本| || |天平7年|豌豆瘡(天然痘)が流行し、死者多数(4月に帰国した遣唐使一行が感染していたとも)
- 735年2月27日-08:00|中国/韓国/朝鮮| || |唐・開元23年2月|唐が新羅の大同江以南の地の領有を認める
- 735年5月21日-08:00|中国/日本| || |天平7年4月25日|吉備真備らが帰国し、唐・文物を献上
- 735年5月26日 00:00|イギリス| || |イングランドのキリスト教聖職者・歴史家・聖人・教会博士の称号を持つ、ベネディクトゥスに死す

0800迄 (2112件)

735年10月20日-09:00|日本| ||天平7年9月30日|<死去>新田部親王(奈良時代の皇族・天武天皇の第十皇子)
735年10月21日-08:00|中国| ||唐・開元23年冬|東都の人の劉普会がそむき、処刑された
735年11月15日-08:00|中国| ||唐・開元23年10月26日|突騎施が辺境を寇した
735年12月2日-09:00|日本| ||天平7年11月14日|<死去>舎人親王(天武天皇の皇子)
735年12月19日-08:00|中国| ||唐・開元23年閏11月1日|朔、日食があった
736年-01:00|イタリヤ| ||<即位>イタリヤ・ランゴバルド王「ヒルデブランド」(1.28まで共同統治~744年9月没)
736年-01:00|ドイツ/オーストリア| ||<即位>ハイルン公「オディロ」ゴットフリートの息子・テオトの外孫(~07480118死去)
736年 00:00|イギリス| ||ダールリアをヒクトが統治(~750年)
736年2月16日-09:00|日本/韓国| ||天平8年|新羅より学生審祥来日/本邦華嚴宗の初祖
736年2月16日-09:00|日本| ||天平8年|朝廷が浮浪人帳を作成
736年2月16日-08:00|中国| ||唐・開元16年|<即位>ホーチン王「尉遲達」(~739年)
736年3月12日-08:00|中国| ||唐・開元24年1月26日|北庭都護の蓋嘉運が突騎施と戦い、これを破った
736年4月16日-08:00|中国| ||唐・開元24年3月|張守珪が、平盧討撃使・左驍衛將軍の安祿山に奚・契丹の造反者を討伐させたが安祿山は虜に敗北
736年5月31日-09:00|日本/韓国| ||天平8年4月17日|遣新羅使、阿倍継麻呂ら出発
736年6月25日-09:00|日本| ||天平8年5月12日|諸国調庸布の制を定める/調の麻布は長さ二丈八尺・幅一尺九寸、庸の麻布は長さ一丈四尺・幅一尺九寸を一端と規定
736年7月10日-08:00|中国| ||唐・開元24年5月27日|醴泉の人の劉志誠がそむき、処刑された
736年12月23日-09:00|日本| ||天平8年11月17日|葛城王が橘諸兄に改名(王を辞めて臣下に)
737年-02:00|エジプト| ||<就任>ウマイヤ朝エジプト第19代アミール・ハンダール・イブン・サワーン・アルカヒビ(~741.10)
737年-01:00|スペイン| ||<死去>アストゥリアス王「ペラヨ」
737年-01:00|スペイン| ||<即位>アストゥリアス王「ファビウ」(~739年死去)
737年 00:00|イギリス| ||<即位>ノーザンブリア王「Eadberht Eates sunu」(~758.9)
737年 00:00|イギリス| ||<退位>ノーザンブリア王「Ceolwulf」
737年2月4日-08:00|中国| ||唐・開元25年|<死去>渤海「大武芸王」
737年2月4日-08:00|中国| ||唐・開元25年|<即位>渤海「大欽茂(文王)」
737年2月4日-08:00|中国| ||唐・開元25年|唐で募兵制の長征健児制採用
737年2月4日-08:00|中国| ||唐・開元25年1月|初めて玄学博士を設置
737年3月6日-09:00|韓国| ||新羅・聖徳王36年2月|<死去>新羅王「聖徳王」
737年3月6日-09:00|韓国| ||新羅・孝成王1年2月|<即位>新羅王「孝成王」(~742年)
737年4月15日-08:00|中国| ||唐・開元25年3月11日|張守珪が契丹と捺祿山で戦い、これを破った
737年4月21日-08:00|中国| ||唐・開元25年3月17日|河西節度副大使の崔希逸が吐蕃と青海で戦い、これを破った
737年5月-02:00|ブルガリア| ||<即位>ブルガリア帝国ハ「コルシシ」(~754年2月)
737年5月21日-09:00|日本| ||天平9年4月17日|<死去>藤原房前(57/藤原北家始祖)天然痘に罹り
737年7月13日-09:00|日本| ||天平9年6月11日|<死去>大宰少貳小野老(貴族・歌人)
737年7月20日-09:00|日本| ||天平9年6月18日|<死去>長田王(不明)近江守、衛門督、摂津大夫
737年8月5日-09:00|日本| ||天平9年7月5日|<死去>大野王(不明)散位
737年8月13日-09:00|日本| ||天平9年7月13日|<死去>参議藤原麻呂(43/藤原京家始祖)天然痘に罹り
737年8月17日-09:00|日本| ||天平9年7月17日|<死去>百濟王郎虞(77歳)百濟王族、散位
737年8月25日-09:00|日本| ||天平9年7月25日|<死去>左大臣藤原武智麻呂(58/藤原南家始祖)天然痘に罹り
737年9月3日-09:00|日本| ||天平9年8月5日|<死去>参議藤原宇合(44/藤原式家始祖)天然痘に罹り
737年9月18日-09:00|日本| ||天平9年8月20日|<死去>水主内親王(不明)天智天皇の皇女
737年9月29日-08:00|中国| ||唐・開元25年9月|唐で律令格式を發布(開元25年律令)
737年10月19日-09:00|日本| 福岡県|天平9年9月21日|筑紫の防人を廃止
737年10月20日-09:00|日本| ||天平9年9月22日|諸国にある臣家の稲を出挙することを禁止
737年10月26日-09:00|日本| ||天平9年9月28日|鈴鹿王が知太政官事に就任
738年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプーラ王国国王「Mahinda1世」Kassapa3世の弟(~741年死去)
738年-04:00|ロシア| ||<建国>下ダールギン国家カイタク
738年 00:00|イギリス| ||<死去>エックス王「Swæfþryht」
738年1月11日 06:00|ロシア| ||<即位>コパン王「カック・ホフ・ラフ・チャン・カウール」(~07490204)
738年1月21日-09:00|日本| ||天平9年12月27日|大倭国を大養徳国と改名
738年1月25日-09:00|日本| ||天平10年|天然痘が大流行
738年1月25日-09:00|日本| 神奈川県足柄下郡箱根町|天平10年|釈浄定坊が「惣湯」発見/箱根湯本温泉
738年1月25日-09:00|日本| 奈良県吉野郡|天平10年以降|芳野監廃止→大和国
738年1月25日-08:00|中国| ||渤海・仁安19年|<死去>渤海国王「武王大武芸」
738年1月25日-08:00|中国| ||唐・開元26年|<即位>南詔王「皮羅閣」(~748年)南詔建国
738年1月25日-08:00|中国| ||渤海・仁安19年|<即位>渤海国王「文王大欽茂」(~大興56年(793年)死去)
738年1月25日-08:00|中国| ||渤海・大興1年|渤海、大欽茂が大興(-794年)と改元
738年1月25日-09:00|日本/韓国| ||新羅・孝成王2年1月|新羅使来朝/新羅の級伐キウ(級キウ、六頭品・9位)のソツジュン(金想純)等147人/6月24日、新羅使の入京を許さず、大宰府より放還
738年1月29日-08:00|中国| ||唐・開元26年1月5日|潮州刺史の陳思挺が反乱を計画し、処刑された

0800迄 (2112件)

- 738年4月18日-08:00|中国| ||唐・開元26年3月25日|吐蕃が河西を寇し、崔希逸がこれを破り、ゼン州都督の杜希望が其新城を落とした
- 738年5月3日 06:00|ホンヅ ヌス| |||<死去>コパン王「ワシヤク・ラフン・ウハク・カイール」キリガア王カック・テリウ・チャン・ヨアト(「カウク空」)によって捕らえられ斬首される
- 738年5月25日-09:00|日本| ||天平10年5月3日|諸国の健児を停止(北陸・南海道を除く)
- 738年7月30日-09:00|日本| ||天平10年7月10日|大伴子虫、長屋王を誣告した中臣宮処東人を斬殺
- 738年10月18日-08:00|中国| ||唐・開元26年9月1日|朔、日食があった
- 738年10月22日-08:00|中国| ||唐・開元26年9月5日|益州長史の王昱が吐蕃と安戎城で戦い、敗れた
- 738年11月16日-08:00|中国| ||唐・開元26年10月|玄宗皇帝が、南詔の王の皮羅閣を雲南王に封じる(-748)
- 739年-08:00|インドネシア| |||<即位>スダ王国マハラジャ「Rakeyan Banga/Hariang Banga」(~766年)
- 739年-01:00|スペイン| |||<死去>アストゥリアス王「ファビラ」
- 739年-01:00|イタリヤ| |||<死去>ネリ公「ケオル」
- 739年-01:00|イタリヤ| |||<死去>フリウーリ領主「ペッモ」
- 739年-01:00|イタリヤ| |||<就任>フリウーリ領主「ラキス」(⇒744年ランゴバルド王)
- 739年-01:00|スペイン| |||<即位>アストゥリアス王「アルフォンソ1世」(~757年死去)
- 739年-01:00|イタリヤ| |||<即位>スレート公「ヒルリック」(~740. 12殺される)
- 739年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ネリ公「ケレオリ1世」(~755年死去)
- 739年-01:00|アルジェリア/モロッコ| |||タンジールでハワリジュ派のベルベル人が反乱、モロッコ、アルジェリアを支配
- 739年2月13日-08:00|中国| ||唐・開元27年|唐がトルコ系のチルクシ族を征服
- 739年5月10日-09:00|日本| ||天平11年3月28日|石上乙麻呂と藤原宇合の正室久米若女との不義が発覚し、乙麻呂は土佐国へ若女は下総国へ配流
- 739年5月18日-09:00|日本| ||天平11年4月7日|<死去>多治比広成(公卿・漢詩人)
- 739年6月11日-09:00|日本| ||天平11年5月|三関国・大宰府管内諸国などを除き、諸国兵士を暫く停止(類聚三代格)
- 739年8月21日-09:00|日本/中国| ||天平11年7月13日|渤海使来着
- 739年9月22日-08:00|中国| ||唐・開元27年8月15日|磧西節度使の蓋嘉運が突騎施を賀邏嶺で破り、その可汗の吐火仙を捕らえた
- 739年9月29日-08:00|中国| ||唐・開元27年8月22日|吐蕃が辺境を寇し、河西・隴右節度使の蕭昊がこれを破った
- 740年-05:30|インド| |||チャールヤ朝がハルヴァア国を攻撃し、カンチを占領
- 740年-05:30|インド| |||ハッタダールのヴァールハークシヤ寺院が建立
- 740年-03:30|イラン| |||<死去>ダブト朝「Dadburzmihr」
- 740年-03:30|イラン| |||<即位>ダブト朝「Khurshid」(~760年)
- 740年-01:00|イタリヤ| |||<死去>ベネント公「ケレオリ」
- 740年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ベネント公「コテスカルク」(~743年暗殺される)
- 740年-01:00|アルバニア| |||<即位>ミラネ朝(アルバニア)大公「Narseh-Dzndak」(~770年)
- 740年 00:00|イギリス| |||<即位>ウェセックス王「クスレド」(~756年死去)
- 740年 00:00|イギリス| |||<即位>テイバト王「Maredudd ap Tewdwr」(~797年死去)
- 740年1月12日-03:00|イラク| |||イラム派のザイブがクーファで反乱をおこすが鎮圧される
- 740年2月2日-08:00|中国| ||唐・開元28年|<即位>ホーチン王「尉遲珪」(~744年)仏教の迫害を始める
- 740年2月14日-09:00|日本/朝鮮/中国| ||天平12年1月13日|大伴犬養、遣渤海大使に任じられる/10月5日、来帰
- 740年4月1日-08:00|中国| ||唐・開元28年3月1日|朔、日食があった
- 740年4月26日-08:00|中国| ||唐・開元28年3月26日|益州司馬の章仇兼瓊が吐蕃を破り、安戎城を落とした
- 740年5月2日-09:00|日本/韓国| ||天平12年4月2日|遣新羅使、外従五位下の紀の朝臣必登等が出発/10月15日、帰還
- 740年6月16日-08:00|中国| ||唐・開元28年5月18日|吐蕃が安戎城を寇し、章仇兼瓊がまたこれを破った
- 740年7月13日-09:00|日本| ||天平12年6月15日|天下泰平により大赦。久米若女、帰京を許される
- 740年8月27日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・孝成王4年8月|先妃の父である波珍サの永宗が反乱を起こしこれを誅殺
- 740年9月15日-09:00|日本|大阪府|天平12年8月20日|和泉監を合併→河内国
- 740年9月28日-09:00|日本| ||天平12年9月3日|藤原広嗣が太宰府管下の兵を動員する(広嗣の乱)
- 740年10月17日-09:00|日本|福岡県北九州市小倉北区|天平12年9月22日|朝廷軍と太宰府の藤原広嗣軍が衝突(広嗣の乱)朝廷軍勅使佐伯常人、阿倍虫麻呂が隼人24人、兵4,000人を率いて渡海して、板櫃鎮(豊前国企救郡)を攻略/登美、板櫃、京都三鎮の兵1767人と兵器多数を鹵獲
- 740年11月16日-09:00|日本| ||天平12年10月23日|藤原広嗣が政府軍に敗れ捕らえられる
- 740年11月24日-09:00|日本|長崎県五島市|天平12年11月1日|藤原広嗣・綱手兄弟、肥前国松浦郡家で処刑(広嗣の乱の終結)
- 740年12月-01:00|イタリヤ| |||<死去>スレート公「ヒルリック」殺される
- 740年12月-01:00|イタリヤ| |||<復位>スレート公トランセント2世(2度目~742年)
- 741年-05:30|スリランカ| |||<即位>アヌラダプラ王国国王「Aggabodhi 6世」Kassapa3世の息子(~781年死去)
- 741年-01:00|ドイツ| |||この年、ハイル部族法典が成立(~744)
- 741年1月6日-09:00|日本|京都府木津川市|天平12年12月15日|聖武天皇が山背国相楽郡の恭仁宮へ遷都
- 741年1月22日-09:00|日本|岡山県総社市|天平13年|聖武天皇の発願で鎮護国家を目的に備中国分寺創建

0800迄 (2112件)

741年1月22日-09:00|日本|滋賀県愛知郡愛荘町|天平13年|行基, 金剛輪寺創建<天台宗>
741年2月12日-09:00|日本| ||天平13年1月22日|藤原広嗣の乱に際し、広嗣軍に加わった者を処断/死罪26人、流罪47人
741年4月18日-09:00|日本| ||天平13年3月28日|<死去>泊瀬部内親王(天武天皇皇女、母: 穴人(木殼)媛、天智天皇皇子川嶋皇子妃)
741年5月4日-09:00|日本| ||天平13年閏3月15日|平城京への高官の居住を禁止/五位以上の官人が、特別な許可無く平城京に留まることを禁止。事実上の平城京棄都である
741年6月18日-02:00|トルコ| ||<死去>東ローマ帝国(イサリア朝) 皇帝「レオン3世イサロス」
741年6月18日-02:00|トルコ| ||<即位>東ローマ帝国(イサリア朝) 皇帝「コンスタンティノス5世コプロニウス」レオン3世の子(~07750914死去)
741年8月16日-08:00|中国| ||唐・開元29年7月|<即位>突厥第二可汗国第5代可汗「登利可汗(テングリカガシ)」殺される
741年8月16日-08:00|中国| ||唐・開元29年7月|<即位>突厥第二可汗国第6代可汗「骨咄葉護(クツヤブケ)」(~742年殺)
741年9月11日-08:00|中国| ||唐・開元29年7月27日|東都で洛水が溢れ千余一が溺死
741年10月-02:00|エジプト| ||<就任>ウマイヤ朝エジプト第20代アミール:ハス・イブン・アルワリド・イブン・ユサフ・アルハドゥラミ(~744)
741年10月-01:00|フランス| ||カール・マルテル、死の直前にサント・ニ修道院で育った息子に王国を分割/カルマンに東部。ピピンに西部。残りは共通宗主権領地
741年10月1日-08:00|中国| ||唐・開元29年8月17日|禄山を営州都督、充平盧軍使として、両蕃、渤海、黒水の四府を経略させた
741年10月12日-09:00|日本| ||天平13年8月28日|平城京内の東市と西市を新都に移転/経済的にも平城京は棄都された
741年10月22日-01:00|フランス| ||<死去>カール・マルテル/53歳(誕生:0688)714年以来フランク王国の宮宰職にあった
741年11月28日-01:00|バチカン| ||<死去>第90代ローマ教皇「グレゴリウス3世」
741年12月7日-08:00|中国| ||唐・開元29年10月25日|北庭と安西を分けて二節度とする
741年12月10日-01:00|バチカン| ||<就任>第91代ローマ教皇「ザカリアス」(~07520322死去)
742年-02:00|シリア・アラブ| ||ウマイヤ朝が税務の公用語を全土でアラビア語とする
742年-01:00|イタリヤ| ||<就任>ヴェネツィア共和国第4代ドージェ(元首)「テオドート・イハート」(~755年)
742年-01:00|イタリヤ| ||<即位>スレート公「アキッパランド」(~744年)
742年1月2日-09:00|日本| ||天平13年11月21日|天皇、新都を「恭仁京」と名付ける/正式名「大養徳恭仁京」
742年1月7日-08:00|中国| ||唐・開元29年12月6日|吐蕃が石堡城を陥した
742年1月20日-09:00|日本| 千葉県|天平13年12月10日|安房国→上総国に合した
742年1月20日-09:00|日本| ||天平13年12月10日|能登国→越中国に併合
742年2月 00:00|モロッコ| ||北アフリカ総督ハンザラがハワリジュ派の反乱を鎮圧
742年2月10日-08:00|中国| ||唐・天寶1年|<死去>突厥第二可汗国第6代可汗「骨咄葉護(クツヤブケ)」突厥の拔悉密、回乞、葛邏祿の三部が共に攻撃して殺した
742年2月10日-08:00|中国| ||唐・天寶1年|<即位>突厥第二可汗国可汗「頡跌伊施可汗(イルティシカガシ)」(~744年殺)拔悉密部の長/突厥の拔悉密、回乞、葛邏祿の三部が推して
742年2月10日-08:00|中国| ||唐・天寶1年|<即位>突厥第二可汗国第7代可汗「烏蘇米施可汗(オスマシカガシ)」(~744年殺)判闕特勒の子/突厥の余衆が立てる
742年2月10日-08:00|中国| ||唐・天寶1年1月1日|朔、唐・玄宗が天寶(-756年)と改元
742年2月14日-09:00|日本| 福岡県|天平14年1月5日|大宰府を廃し、筑前国と併合(天平17年6月に復活)
742年2月15日-08:00|中国| ||唐・天寶1年1月6日|平盧を分離して別の節度とし、安祿山を節度使とした
742年3月6日-08:00|中国| ||唐・天寶1年1月25日|三門運渠が完成
742年3月13日-09:00|日本/韓国| ||天平14年2月3日|新羅使来朝/新羅使の沙キウ(六頭品・8位)のコンキエイ(金欽英)等187人が来朝/新京未完成の理由で入京を許さず、筑紫より放還
742年3月31日-08:00|中国| ||唐・天寶1年2月21日|侍中を改めて左相とし、中書令を右相とし、東都を東京とし、北都を北京とし、州を郡とし、刺史を太守とした
742年6月-02:00|トルコ| ||<即位>東ローマ帝国(イサリア朝) 皇帝「アルタヴァストス」(~07431102)
742年6月-02:00|トルコ| ||<退位>東ローマ帝国(イサリア朝) 皇帝「コンスタンティノス5世コプロニウス」義理の兄弟アルタヴァストスの反乱で皇位を追われる
742年6月8日-09:00|韓国| ||新羅・孝成王6年5月|<死去>新羅王「孝成王」
742年6月8日-09:00|韓国| ||新羅・孝成王6年5月|<即位>新羅王「景德王」(~765年)
742年8月5日-08:00|中国| ||唐・天寶1年7月1日|朔、日食があった
742年11月18日-09:00|日本| ||天平14年10月17日|塩焼王を伊豆国三嶋へ、女孺らを上総・常陸・佐渡・隠岐・土佐の諸国へそれぞれ配流
742年12月3日-09:00|日本| ||天平14年11月2日|<死去>大野東人(公卿・武人/従三位、参議、大野果安の子)
743年-01:00|イタリヤ| ||<死去>ベネチア公「ゴッテスカルク」暗殺される
743年-01:00|フランス/ベルギー-ドイッチェン/オランダ| ||<即位>フランク王国(メロヴィング朝) 国王キルク3世(~751年)
743年-01:00|イタリヤ| ||<即位>ベネチア公「ギサル2世」(~749年)
743年 00:00|アイルランド| ||即位>アイルランド 上王「ドナル・マック・ムルチャダ」(~7631120没)
743年1月27日-08:00|中国| ||唐・天寶1年12月27日|隴右節度使の皇甫惟明が吐蕃と青海で戦い、これを破った

0800迄 (2112件)

- 743年1月29日-08:00|中国| ||唐・天寶1年12月29日|河西節度使の王暉が吐蕃の漁海・遊珙軍に勝利/朔方軍節度使の王忠嗣が奚と紫乾河で戦い、これを破り、そのまま突厥を討伐
- 743年2月6日-02:00|シリア・アラブ| ||<死去>ウマイヤ朝カリフ「ヒシャム」
- 743年2月6日-02:00|シリア・アラブ| ||<即位>ウマイヤ朝カリフ「ワリード 2世」(~07440417死去)
- 743年3月11日-09:00|日本|新潟県|天平15年2月11日|佐渡国(佐州、渡州)→越後国に合同
- 743年5月8日-08:00|中国| ||唐・天寶2年4月10日|皇甫惟明が吐蕃の洪濟城を落とした
- 743年5月23日-09:00|日本/韓国| ||天平15年4月25日|新羅使の沙キユ(薩キユ、六頭品・8位)のゴジ ョイ(金序貞)等が来朝/以後、天平勝宝4年まで10年間新羅使来朝は途絶、日新は国交断絶状態
- 743年6月23日-09:00|日本| ||天平15年5月27日|三世一身の法を廃し、位階に応じた面積の墾田の私有を認める(墾田永年私財法)
- 743年11月2日-02:00|トルコ| ||<廃位>東ローマ帝国(イサリア朝)皇帝「アルカウ アストス」コンスタンティノス5世コッロニユスに敗れる
- 743年11月2日-02:00|トルコ| ||<復位>東ローマ帝国(イサリア朝)皇帝「コンスタンティノス5世コッロニユス」(~07750914)
- 744年-08:00|中国| ||<即位>回鶻可汗国第1代可汗「懐仁可汗(骨力裴羅)キョル・ビルケ・ガン」(~747年)
- 744年-02:00|エジプト| ||<就任>ウマイヤ朝エジプト第21代アミール:ハサン・イブン・アトビヤ(~744)→同年<再任>第22代アミール:ハサン・イブン・アルワリド・イブン・ユサフ・アルハド・ラミ(~745)
- 744年-01:00|イタリヤ| ||<就任>フリウリ領主「アストゥルフ」(⇒749年ランゴバルド王)
- 744年-01:00|イタリヤ| ||<復位>スレート公「トランスモンド 2世」(3度目~745年)
- 744年 00:00|モロッコ| ||ハルガワがタメサ周辺のベルベル王国を支配(~1058年)
- 744年1月6日-08:00|中国| ||唐・天寶2年12月17日|海賊の呉令光が永嘉郡を寇した
- 744年1月15日-09:00|日本| ||天平15年12月26日|廃止された大宰府に代わり、筑紫国に鎮西府を設置
- 744年1月20日-09:00|日本|東京都八王子市|天平16年|聖武天皇の勅命により東国鎮護の祈願寺として行基菩薩により高尾山薬王院創建<真言宗智山派>
- 744年1月20日-09:00|日本|長崎県壱岐市|天平16年|壱岐は国分寺を新たに建立せず、壱岐直の氏寺を壱岐国分寺[壱岐嶋分寺]と改める
- 744年1月20日-08:00|中国| ||唐・天寶3載1月1日|朔、唐で年次表記を年を載と改める
- 744年1月28日-01:00|イタリヤ| ||<死去>イタリヤ・ランゴバルド王「リウトランド」
- 744年3月1日-09:00|日本| ||天平16年閏1月13日<死去>安積親王(聖武天皇の第二皇子)17歳(藤原仲麻呂が毒殺?)
- 744年3月1日-08:00|中国| ||唐・天寶3載2月13日|河南尹の裴敦復・晋陵郡太守の劉同昇・南海郡太守の劉巨鱗が海賊の呉令光を討った
- 744年4月13日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|天平16年2月26日|聖武天皇が恭仁宮から難波宮に遷都
- 744年4月17日-02:00|シリア・アラブ| ||<死去>ウマイヤ朝カリフ「ワリード 2世」
- 744年4月17日-02:00|シリア・アラブ| ||<即位>ウマイヤ朝カリフ「ヤズィート 3世」(~10.4死去)
- 744年5月17日-08:00|中国| ||唐・天寶3載4月|裴敦復が海賊の呉令光を破り、これを捕らえる
- 744年9月-01:00|イタリヤ| ||<死去>イタリヤ・ランゴバルド王「ヒルデブランド」無能さから諸侯の反乱を受け、強制的に退位させられる
- 744年9月-01:00|イタリヤ| ||<即位>イタリヤ王・ランゴバルド王「ラリス」諸公爵の一人(1回目~07490704退位)
- 744年9月11日-08:00|モンゴル| ||ウイグル族が東突厥を滅ぼしモンゴル草原を支配
- 744年9月26日-08:00|中国| ||唐・天寶3載8月16日<死去>突厥第二可汗国可汗「頡跌伊施可汗(イルティシカガン)」忠嗣が回乞、葛邏祿と共に殺す/<死去>突厥第二可汗国第7代可汗「烏蘇米施可汗(ホシシカガン)」抜悉蜜に殺される
- 744年9月26日-08:00|中国| ||唐・天寶3載8月16日<即位>突厥第二可汗国第8代可汗「白眉可汗(鶻隴匄)」(~745年殺)烏蘇米施可汗の弟(745年、ウイグルによって東突厥滅ぶ)
- 744年10月-03:00|イラク| ||イラクのハッラーン総督マルワンが挙兵
- 744年10月4日-02:00|シリア・アラブ| ||<死去>ウマイヤ朝カリフ「ヤズィート 3世」
- 744年10月4日-02:00|シリア・アラブ| ||<即位>ウマイヤ朝カリフ「イブラヒム」(~12.4退位~07500125死去)
- 744年12月4日-02:00|シリア・アラブ| ||<即位>ウマイヤ朝カリフ「マルワン2世」(~07500125退任~07500806死去)
- 744年12月4日-02:00|シリア・アラブ| ||<退位>ウマイヤ朝カリフ「イブラヒム」(~07500125死去)
- 745年-02:00|エジプト| ||<就任>ウマイヤ朝エジプト第23代アミール:アルハウタラ・イブン・スハイル・アルバ・イリ(~749解任)
- 745年-01:00|フランス| ||<即位>アキテーヌ公「ワイファリ」(~768年死去)
- 745年-01:00|イタリヤ| ||<即位>スレート公「ラパス」(~751年)
- 745年2月6日-09:00|日本|栃木県足利市|天平17年|最勝寺創建(大岩毘沙門天)
- 745年2月6日-08:00|中国| ||唐・天寶4年<即位>ホーカン王「尉遲勝」(~763年)
- 745年2月6日-08:00|中国| ||唐・天寶4載|唐・景教寺院波斯寺が大秦寺と改称
- 745年2月6日-08:00|中国| ||唐・天寶4載1月<死去>突厥第二可汗国第8代可汗「白眉可汗(鶻隴匄)」ウイグル懐仁可汗によって殺され、東突厥滅ぶ/その土地は、全て回乞に奪われた
- 745年2月6日-09:00|日本|滋賀県甲賀市|天平17年1月1日<遷都>志香樂宮
- 745年3月5日-08:00|中国| ||唐・天寶4年1月28日|王忠嗣が突厥と薩河内山で戦い、これを破った
- 745年4月-01:00|チュニジア| ||アッラマーンがカイワーンに進出しチュニジアの支配権を得る
- 745年5月20日-09:00|日本| ||天平17年4月15日|塩焼王、罪を許され帰京
- 745年6月1日-09:00|日本|岐阜県|天平17年4月27日<天平17年美濃国地震>美濃国を中心に推定マグニチュード7.9という大地震/余震も含め3日3晩揺れた/国府の櫓も館も倉庫も倒壊したほか仏寺の御堂や塔、民家など多くが倒壊

0800迄(2112件)

745年6月15日-09:00|日本|奈良県奈良市|天平17年5月11日|聖武天皇が都を平城京に戻す
745年7月8日-09:00|日本|福岡県太宰府市|天平17年6月5日|大宰府を復活させる
745年9月30日-08:00|中国| ||唐・天寶4載9月|契丹・奚がともにその公主を殺して叛き禄山は叛逆した奚と契丹を討って破った
745年10月3日-09:00|日本| ||天平17年9月4日|<死去>知太政官事鈴鹿王(父:天武天皇皇子高市皇子、母:天智天皇皇女御名部皇女、兄:長屋王)
745年12月24日-09:00|日本| ||天平17年11月27日|公廩稲制度, 始まる
746年-05:30|インド| ||<即位>チャールキ7朝国王「キールティヴァルマン2世」(~753年)
746年 00:00|イギリス| ||<死去>イェックス王「Saelraed Sigebeorhtes sunu」
746年 00:00|イギリス| ||<即位>イェックス王「Swithraed Sigemundes sunu」(~758年死去)
746年1月26日-09:00|日本|福岡県太宰府市|天平18年|天智天皇, 観世音寺創建(福岡県太宰府市)
746年2月21日-09:00|日本| ||天平18年1月27日|<死去>牟漏女王(不明)美努王の娘、藤原房前の妻
746年4月29日-09:00|日本| ||天平18年4月5日|七道に対して鎮撫使を再置
746年5月25日-08:00|中国| ||唐・天寶5年5月1日|朔、日食があった
746年9月20日-09:00|日本| ||天平18年9月|<死去>大伴書持(不明)歌人
747年-08:00|中国| ||<死去>回鶻可汗国初代可汗「懷仁可汗(骨力裴羅)キョル・ビルク・カガン」
747年-08:00|中国| ||<即位>回鶻可汗国第2代可汗「葛勒可汗・英武威遠可汗(磨延啜)テングリテ・ホルシユ・イル・イトミシュ・ビルク・カガン」(~乾元2年(759年)4月)
747年-02:00|キプロス/トルコ| ||ビザンティン帝国がキプロスをイラムから奪還
747年1月25日-09:00|日本| ||天平18年12月10日|鎮撫使停止/全国の軍団兵士制が復活/兵士制を維持していた陸奥国にも新たに小田団増設
747年2月14日-09:00|日本|滋賀県大津市|天平19年|聖武天皇の発願により良弁が石山寺創建<真言宗>
747年4月14日-09:00|日本|奈良県奈良市|天平19年3月|この月、聖武天皇皇后藤原光明子、新薬師寺を建立
747年4月29日-09:00|日本| ||天平19年3月16日|大養徳国の国名を元の大倭国に戻す
747年6月9日-03:30|イラン| ||ホラサンでアッバース革命軍が蜂起
747年9月9日-08:00|中国| ||唐・天寶6年8月|安西副都護の高仙芝が小勃律国と戦い小没律王及び吐蕃公主を捕らえて帰国
748年-05:45|ネパール| ||<即位>リッチャビ朝国王「Shankaradeva2世」(~749年)
748年-04:00|ジョージア| ||<就任>イバリア公「アタルナーゼ3世」(~760年)
748年-01:00|フランス| ||<即位>メヌ公「ケリフオ」(~749年)
748年 00:00|イギリス| ||<即位>ケウト王「Eardwulf Eadberhtes sunu」共同統治者(~765年)
748年1月18日-01:00|ドイツ/オーストリア| ||<死去>ハイルン公「オティロ」
748年1月18日-01:00|ドイツ/オーストリア| ||<即位>ハイルン公「ケリフオ」カール・マルテルの息子、篡奪者⇒「タシロ3世」(~788年カール大帝はタシロ3世に対して反逆罪の罪で死刑を宣告/タシロ3世は修道院に入る事と、フランクフルト=アム=マインを放棄する事で794年に許しを得た)
748年2月-03:30|イラン| ||アッバース革命軍がホラサンの首都メルグ(マシュハド)を占領
748年2月4日-08:00|中国| ||唐・天寶7年|<死去>南詔王「皮羅閣」
748年2月4日-08:00|中国| ||唐・天寶7年|<即位>南詔王「閣羅鳳」(~779年)
748年5月22日-09:00|日本| ||天平20年4月21日|<死去>元正上皇(第44代元正天皇)/69歳(誕生:(天武)8(680))
748年7月3日-09:00|日本| ||天平20年6月4日|<死去>聖武天皇夫人藤原南夫人没(父:藤原武智麻呂)
748年12月26日-08:00|中国| ||唐・天寶7年12月2日|會昌県を昭應と改称し、新豊県を廢して昭應へ編入
749年-02:00|エジプト| ||<就任>ウマイヤ朝エジプト第24代アミール「アルムヒラ・ヒン・ウバ・イド・アルファザリ」(~749死去)→同年<就任>第25代アミール「アブド・アルマリク・ヒン・マワ、ヒン・ムサ、ヒン・サイル」(~749アッバース朝により解任)
749年-01:00|イタリア| ||<就任>フリウリ領主「アンセルム」(~751年~806年死去)
749年-01:00|イタリア| ||<即位>ベネチント公「リウトブランド」(~758年)
749年-01:00|イタリア| ||<退位>イタリア王・ランゴバルド王「ラキス」
749年 00:00|イギリス| ||<死去>イーストアングリア王「Alfwald Ealdwulfes sunu」
749年 00:00|イギリス| ||<即位>イーストアングリア王「Beorna」(~769年死去)、「Athelberht Athelraedes sunu」(~07940520死去)
749年 00:00|モロッコ| ||<即位>ネール王国スラーン「al-Mu'tasim」
749年1月23日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・景德王8年|新羅、天文博士・漏刻博士を置く
749年1月26日-09:00|日本| ||天平21年1月4日|陸奥国から日本で初めて産出された黄金が献上される
749年2月18日 06:00|ホッジュラス| ||<即位>コパン王「カク・ヒヤフ・チャン・カウール」
749年2月23日-09:00|日本| ||天平21年2月2日|<死去>行基/社会事業に活躍した
749年5月4日-09:00|日本| ||天平感宝1年4月14日|天平感宝に改元
749年7月4日-01:00|イタリア| ||<即位>イタリア王・ランゴバルド王「アイストウル」ラキスの弟(~756年12月, デジテール家の反乱で殺害される)
749年7月4日-01:00|イタリア| ||<退位>イタリア王・ランゴバルド王「ラキス」
749年7月11日-08:00|中国| ||唐・天寶8年6月22日|隴右節度使の哥舒翰が吐蕃と石堡城で戦い、これを破った
749年7月12日-09:00|日本|奈良県奈良市|天平感宝1年間5月23日|聖武天皇、薬師寺の宮に還御、御座所となす
749年8月19日-09:00|日本| ||天平勝宝1年7月2日|<譲位>「45代聖武天皇」
749年8月19日-09:00|日本| ||天平勝宝1年7月2日|<即位>「46代孝謙天皇」皇太子・阿倍内親王(~07580801)

0800迄 (2112件)

- 749年8月19日-09:00|日本| ||天平勝宝1年7月2日|天平勝宝に改元
- 749年8月30日-09:00|日本| ||天平勝宝1年7月13日|諸寺墾田地限が定められ、下野薬師寺は奈良の法隆寺や四天王寺、崇福寺、新薬師寺、建興寺、筑紫の観世音寺などと並んで500町とされた。国分金光明寺は4,000町、大安寺、薬師寺、興福寺、法華寺、諸国分金光明寺は寺毎に1,000町、諸国法華寺は寺毎に400町、定額寺は各寺100町とされている
- 749年10月22日-09:00|日本| ||天平勝宝1年9月7日|聖武天皇皇太后藤原光明子の為に紫微中台の官位を制定
- 749年11月15日-08:00|中国| ||唐・天寶8年10月|この月、特進の何履光が十道の兵を率いて雲南を討伐した
- 749年12月8日-09:00|日本|奈良県奈良市|天平勝宝1年10月24日|東大寺盧舎那仏本体の鑄造が終わる
- 750年-05:30|インド| ||<建国>パナリ国
- 750年-05:30|インド| ||<即位>パナリ朝国王「コナラ1世」パナリで建国 (~774年)
- 750年-05:30|インド| ||<即位>パナリ朝国王ナガパナリ1世 (~780年)
- 750年-02:00|ウクライナ| ||クリミアはハザールが支配 (~900年)
- 750年 00:00|イギリス| ||<即位>ダリア王「Aedh find mac Eochadha」 (~778年死去)
- 750年 00:00|モロッコ| ||モロッコはアッバース朝の一部 (~789年)
- 750年1月25日-03:00|イラク| ||<即位>ハガダート・アッバース朝カリフ「サッファフ」 (~07540610病没)
- 750年1月25日-03:00|イラク/シリア/アラブ| ||<廃位>ウマイヤ朝カリフ「マルワーン2世」サファフ河畔の戦いでアッバース革命軍にウマイヤ朝軍が破れエジプトに逃亡 (~8.6逃亡先で暗殺される)ウマイヤ朝は滅亡しアッバース朝が誕生
- 750年2月11日-09:00|日本|北海道|天平勝宝2年|北海道で擦紋土器文化が登場(続縄文文化)
- 750年2月11日-08:00|中国| ||唐・天寶9載|この年、雲南蛮が雲南郡を陥し、都督の張虔陀がここに死んだ
- 750年7月2日-09:00|日本| ||天平勝宝2年5月24日|中山の寺振動、塔と歩廊が焼失
- 750年8月9日-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第1代アミール「アリー・イブン・アリー・イブン・アブ・ダラ・イブン・アルアッバース」 (~751.3)
- 751年-04:00|オマーン| ||<即位>オマーン(元首)イマム「アルジュラナ・イブン・マスト」
- 751年-04:00|オマーン/イラク| ||オマーンはアッバース朝カリフの一部 (~793年)
- 751年-01:00|フランス| ||<就任>パリ伯「ケリフ」カール・マルテルの子 (~753年)
- 751年-01:00|イタリヤ| ||<就任>フリウリ領主「ベトルス」 (~774年)
- 751年-01:00|イタリヤ| ||ナポリ、東ローマ帝国ナポリ公区からロンゴバルド系「ナポリ」公国に
- 751年-01:00|イタリヤ| ||ランゴバルド王国がエナ占領。中部イタリヤに於ける東ローマ支配の終末
- 751年2月1日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・景德王10年|新羅の大相の金大城が仏国寺を創建
- 751年2月1日-08:00|中国/インド| ||唐・天寶10年|唐・玄宗、張韜光らをカミールに送る
- 751年2月24日-08:00|中国| ||唐・天寶10載1月24日|安西四鎮節度使の高仙芝が突騎施可汗および石国王を捕らえた
- 751年2月25日-09:00|日本| ||天平勝宝3年1月25日|<死去>天武天皇皇女多紀内親王(母:穴人(木穀)媛娘、第11代伊勢斎王)
- 751年3月-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第2代アミール「アブ・オウン・アブド・アルマリク・イブン・ヤジド」 (~753)
- 751年5月29日-08:00|中国| ||唐・天寶10年4月30日|劍南節度使の鮮于仲通が雲南蛮と戦い、大敗し、大将の王天運が死に、雲南都護府が陥落
- 751年7月27日-05:00|キルギス/中国/イラク| ||唐・天寶10載7月|唐軍とイスラムのアッバース軍がタラス河畔で決戦し、唐軍が大敗
- 751年8月26日-08:00|中国| ||唐・天寶10載8月|范陽節度副大使の安祿山が契丹と吐護真河で戦い、敗れた
- 751年11月-01:00|フランス/ベルギー-ドイッ/ルクセンブルク/オランダ| ||<死去>フランク王国(カロリング朝)国王「キルトリク3世」
- 751年11月-01:00|フランス/ベルギー-ドイッ/ルクセンブルク/オランダ| ||<即位>フランク王国(カロリング朝)国王「ピピン」 (~07680928)
- 751年11月22日-09:00|日本| ||天平勝宝3年11月|この月「懷風藻」(現存する最古の日本漢詩集)成立
- 751年12月-05:00|ウズベキスタン| ||アブー・ガフナフルに遠征し、ブハラ、サマルカントに駐屯
- 752年-01:00|フランス| ||<就任>パリ伯「ジュラール1世」 (~778年)
- 752年-01:00|イタリヤ| ||<即位>スピレート公「ウルフ」→「アスタルフ」 (~756.12死去)
- 752年-01:00|イタリヤ| ||トリエステはランゴバルド王国の一部 (~774年)
- 752年 00:00|イギリス| ||<死去>ストラスカイト王「Teudebur map Beli」
- 752年 00:00|イギリス| ||<即位>ストラスカイト王「Dumnagual (Dyfnwal ap Tewdwr)」 (~760年死去)
- 752年 07:00|メキシコ| ||マヤのヤシュチランで鳥ハグアル王が即位
- 752年1月21日-08:00|中国| ||南詔・賛普鐘1年|南詔の閣羅鳳が賛普鐘(-768年)と改元
- 752年2月14日-09:00|日本/韓国| ||天平勝宝4年1月25日|孝謙天皇が、正七位下の山口の忌寸人麻呂を、遣新羅使に任命
- 752年3月12日-08:00|中国| ||唐・天寶11載2月22日|突厥の部落の阿布思が辺境を寇した
- 752年3月22日-01:00|パチン| ||<死去>第91代ローマ教皇「ザカリアス」
- 752年3月22日-01:00|パチン| ||<就任>第92代ローマ教皇「ステファヌス2世」 (~3.25死去)
- 752年3月25日-01:00|パチン| ||<死去>第92代ローマ教皇「ステファヌス2世」
- 752年3月26日-01:00|パチン| ||<就任>第93代ローマ教皇「ステファヌス3世」 (~07570426死去)
- 752年4月16日-08:00|中国| ||唐・天寶11載3月28日|吏部を文部、兵部を武部、刑部を憲部と改める
- 752年4月27日-08:00|中国/日本| ||天平勝宝4年閏3月9日|第10次遣唐使派遣/藤原清河、大伴古麻呂、吉備真備、藤原刷雄、大伴御笠、巨万大全、布勢人主ら

0800迄 (2112件)

- 752年5月10日-09:00|日本/韓国| ||天平勝宝4年閏3月22日|新羅の王子・大阿キョウ(韓阿キョウ、真骨・5位)のキナイン(金泰廉)・貢調使の大使のキケン(金暄)・王子の送迎役のキヒツゲン(金弼言)等700余人が、船7艘に乗船し、来訪・停泊したと、大宰府が報告
- 752年5月18日-09:00|日本/中国| ||天平勝宝4年4月|原清河・大伴古麻呂らの遣唐使が出航
- 752年5月26日-09:00|日本|奈良県奈良市|天平勝宝4年4月9日|東大寺の本尊・蘆舎那大仏が開眼
- 752年7月22日-08:00|中国| ||唐・天寶11載6月7日|御史大夫兼劍南節度使の楊国忠が吐蕃を雲南で破り、故洪城を落とした
- 752年7月29日-09:00|日本/韓国| ||天平勝宝4年6月14日|新羅の使王子金康廉ら朝貢
- 752年8月23日-09:00|日本/韓国| ||天平勝宝4年7月10日|<死去>三原王(父:天武天皇皇子舍人親王)
- 752年9月12日-08:00|中国| ||天宝11年8月|唐・安祿山、契丹を攻める
- 752年10月12日-08:00|中国| ||唐・天寶11載9月|阿布思が入寇し、永清柵を包圍/柵使張元軌が、これを撃退
- 752年11月4日-09:00|日本/中国| ||天平勝宝4年9月24日|渤海使、越後国佐渡島に来着(13年ぶりの渤海使)
- 752年12月12日-09:00|日本|新潟県佐渡市|天平勝宝4年11月3日|越後国→佐渡国(佐州、渡州)分離/元に復した
- 753年3月18日-09:00|日本/韓国| ||天平勝宝5年2月9日|第23次遣新羅使/孝謙天皇が、従五位下の小野の朝臣枚床を遣新羅大使に任命
- 753年4月8日-09:00|日本/中国| ||天平勝宝5年3月|第12回遣唐使(藤原清河)派遣。副使として大伴古麻呂、吉備真備
- 753年6月6日-08:00|中国| ||唐・天寶12載5月|安祿山は阿布思の部落を誘って降伏させた
- 753年6月30日-09:00|日本/中国| ||天平勝宝5年5月25日|渤海使、拜朝。貢納品を献上
- 753年10月8日-02:00|エジプト| ||<就任>アッパース朝エジプト第3代アミール:カリ・ヒベン・Ali・ヒベン・アブ・ダラ・ヒベン・アルアッパース(~07550221解任)
- 753年10月17日-08:00|中国| ||唐・天寶12載9月16日|葛邏祿の葉護が阿布思を捕らえた
- 754年 00:00|イギリス| ||<死去>ゲウイネト王「Rhodri Molwynog ap Idwal」
- 754年 00:00|イギリス| ||<即位>ゲウイネト王「Caradog ap Meirchion」(~798年死去)
- 754年1月3日-08:00|中国/日本/ベトナム| ||天平勝宝5年12月6日|南風が吹いた為、遣唐使船(第二船)は出航。第二船は以後行方不明となる。第一船は安南(ベトナム)に漂着するが現地人の襲撃により180名余りの乗船員のうち僅か10数名が生き残り、2年後長安に辿り着く
- 754年1月17日-09:00|日本/中国| ||天平勝宝5年12月20日|鑑真が帰国する遣唐使船に乗り来日
- 754年1月28日-08:00|中国| ||唐・天寶13載|唐が戸部人口調査を実施、5288万人となる
- 754年2月-02:00|ブルガリア| ||<即位>ブルガリア帝国ハ「ヒンク」(~760年)
- 754年3月29日-08:00|中国| ||唐・天寶13載3月|隴右・河西節度使の哥舒翰が吐蕃を破り、河源九曲を回復
- 754年4月14日-01:00|バチカン| ||フランク王国ピピン(小)の寄付によりローマカトリック教会の教皇のための教皇国家を建国
- 754年4月27日-09:00|日本|奈良県奈良市|天平勝宝6年4月|鑑真、東大寺に戒壇を築き公認の受戒制度を確立
- 754年6月10日-03:00|イラク| ||<死去>バゲダート・アッパース朝初代カリ「サッファーフ」
- 754年6月10日-03:00|イラク| ||<即位>バゲダート・アッパース朝カリ「ムスール」(~07751006死去) 首都バゲダートを造営
- 754年6月25日-08:00|中国| ||唐・天寶13載6月1日|劍南節度留後の李ヒツが雲南蛮と西ジ河で戦い、李ワは捕らえられ、軍は全滅
- 754年6月25日-08:00|中国| ||唐・天寶13載6月1日|朔、日食があった
- 754年8月11日-09:00|日本| ||天平勝宝6年7月19日|<死去>宮子太皇太后(文武天皇の夫人/藤原不比等の長女)
- 754年11月-02:00|シリア・アラブ| ||アッパース朝第2代カリ、ムスールの叔父アブド・アッラーフがカリを自称し、シリアで反乱
- 754年11月2日-09:00|日本| ||天平勝宝6年10月14日|官人及び百姓の双六を禁じる
- 755年-05:30|インド| ||<即位>東チャールキヤ朝君主「Vijayaditya1世」(~772年)
- 755年-03:30|イラン| ||<死去>バハント朝太守「Mihir Mardan」
- 755年-03:30|イラン| ||<即位>バハント朝太守「Surkhab2世」(~772年死去)
- 755年-01:00|イタリア| ||<死去>ハトリ公「グレゴリ1世」
- 755年-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国第5代ドージェ(元首)「カッラ・ガウ」(~756年)
- 755年-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ第5代カッラ・ガウ(~756年)
- 755年-01:00|イタリア| ||<即位>ハトリ公「ステファン2世」(~766年)
- 755年 00:00|イギリス| ||<死去>ホイス王「Elisedd ap Gwylog」
- 755年 00:00|イギリス| ||<即位>ケリウイシング王「Rhys ap Ithel」ケウエント王の息子(~785年)
- 755年 00:00|イギリス| ||<即位>ホイス王「Brochfael ap Elisedd」(~773年死去)
- 755年1月13日-09:00|日本| ||天平勝宝6年11月27日|天平勝宝元年に出された宇佐八幡宮の神託が偽りであった為、禰宜尼大神社女を日向に、大神多麻呂を多(執)島に配流
- 755年2月16日-08:00|中国| ||唐・天寶14年|<死去>吐蕃ツェンポ「ティン・ツグツェン(尺帯珠丹)」
- 755年2月16日-08:00|中国| ||唐・天寶14年|<即位>吐蕃ツェンポ「ティン・テツェン(赤松德贊)」(~797年死去)
- 755年2月21日-02:00|エジプト| ||<再任>アッパース朝エジプト第4代アミール:アブ・オウン・アブド・アルマリク・ヒベン・ヤズド(~758解任)
- 755年3月-03:30|イラン/イラク| ||イラン人のスパーートがアッパース朝に対して反乱
- 755年5月8日-08:00|中国| ||唐・天寶14載3月23日|安祿山、契丹を攻める破った
- 755年10月10日-09:00|日本|奈良県奈良市|天平勝宝7年9月|鑑真、東大寺に戒壇院を設置
- 755年12月16日-08:00|中国| ||唐・天寶14載11月9日|節度使安祿山、史思明が蜂起/唐が内乱状態となる(安史の乱)

0800迄 (2112件)

- 756年-05:45|パール| |||<即位>リッチャビ朝国王「Manadeva3世」
- 756年-05:30|インド| |||<即位>ラシュトク朝国王「クリシュナ1世」建国 (~774年)
- 756年-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェネツィア共和国第6代ドージェ(元首)「トメニコ・モカリア」(~764年)
- 756年-01:00|フランス/パキスタン/イタリア| |||フランク王ピピンがランゴバルドを制圧、ヴァンナを教皇に寄進
- 756年 00:00|イギリス| |||<死去>ウェセックス王「クヌット」
- 756年 00:00|イギリス| |||<即位>ウェセックス王「シヘルト」(~757年)
- 756年 00:00|イギリス| |||ストラスカイトはピクトに従う
- 756年1月8日-08:00|中国| ||唐・天寶14載12月2日|安禄山が靈昌郡を陥した
- 756年1月12日-08:00|中国| ||唐・天寶14載12月6日|安禄山が陳留郡を陥し、太守の郭納を捕らえ、張介然がここに死んだ
- 756年1月14日-08:00|中国| ||唐・天寶14載12月8日|安禄山がイ陽郡を陥し、太守の崔無比がここに死んだ
- 756年1月17日-08:00|中国| ||唐・天寶14載12月11日|封常清が安禄山とイ子谷で戦い、敗れた
- 756年1月18日-08:00|中国| ||唐・天寶14載12月12日|禄山は東京を落とす/河南尹の達奚珣が叛いて安禄山に降った
- 756年1月20日-08:00|中国| ||唐・天寶14載12月14日|恒山郡太守の顔杲卿が何千年を破り、これを捕らえ、趙・鉅鹿・広平・清河・河間・景城・楽安・博平・博陵・上谷・文安・信都・魏・ギョウの十四郡を落とした
- 756年1月25日-08:00|中国| ||唐・天寶14載12月19日|郭子儀が安禄山の将の高秀巖と河曲で戦い、これを破った
- 756年2月5日-09:00|日本| ||天平勝宝8年|聖武・孝謙両天皇の勅願により唐からの渡来僧で鑑真の弟子にあたる虚瀧により円成寺創建(奈良県)
- 756年2月5日-08:00|中国| ||唐・天寶15載|この年、吐蕃がス州を陥落させ、嶺南溪のリョウの梁崇奉が容州を陥落させた
- 756年2月5日-08:00|中国| ||唐・天寶15載|ホクワン王Yuchi Shengは政権を弟Shihu Yaoに譲る
- 756年2月5日-08:00|中国| ||唐・天寶15載1月|南陽節度使を設置
- 756年2月5日-08:00|中国| ||燕・聖武1年1月1日|<即位>燕初代皇帝「雄武皇帝安禄山」(~757年1月29日)洛陽にて即位し、国号を燕とし、元号を「聖武」(-757年)と改元
- 756年2月12日-08:00|中国| ||唐・天寶15載1月8日|安禄山が恒山郡を陥し、顔杲卿・袁履謙を捕らえ、ギョウ・廣平・鉅鹿・趙・上谷・博陵・文安・魏・信都の九郡を陥した
- 756年2月15日-08:00|中国| ||唐・天寶15載1月11日|乙丑、安禄山がその子慶緒へ潼関を襲撃させたが哥舒翰が撃退
- 756年3月20日-08:00|中国| ||唐・天寶15載2月15日|嗣吳王李祗が安禄山の将の謝元同と陳留で戦い、これを破った/李光弼が常山郡を落とし、郭子儀が李光弼と合流し、安禄山の将の史思明と戦い、これを破った/常山の連隊兵三千人が胡兵を殺して安思儀を捕らえ、降伏A075603212
- 756年4月4日-08:00|中国| ||唐・天寶15載3月|顔真卿が魏郡を落とした
- 756年4月5日-08:00|中国| ||唐・天寶15載3月2日|張巡が安禄山の将の令狐潮と雍丘で戦い、これを破った
- 756年4月15日-08:00|中国| ||唐・天寶15載3月12日|李光弼が趙郡を落とした
- 756年5月14日-08:00|中国| ||唐・天寶15載4月11日|九門城南にて、子儀、光弼と史思明が戦い、思明は大敗し趙郡へ逃げる/蔡希徳は鉅鹿へ逃げた
- 756年5月15日-01:00|スペイン| |||<即位>後ウマイヤ朝初代アミール「アブド・アッラフマン1世」コルドバを都にして独立(~07880930死去)
- 756年5月20日-08:00|中国| ||唐・天寶15載4月17日|子儀、光弼は趙郡を攻め一日で城は降伏/子儀は沙河にて再び敗る
- 756年6月4日-09:00|日本| ||天平勝宝8年5月2日|<死去>「45代聖武天皇」56歳(誕生:大宝1(701))
- 756年6月6日-08:00|中国| ||唐・天寶15載5月4日|魯炆が安禄山と赤水で戦い、敗れ、南陽に逃れた
- 756年7月1日-08:00|中国| ||唐・天寶15載5月29日|李光弼が嘉山にて、史思明軍を大いに破った
- 756年7月2日-08:00|中国| ||唐・天寶15載6月1日|顔真卿が安禄山の将の袁知泰と堂邑で戦い、これを破った/賀蘭進明が信都を落とした
- 756年7月5日-08:00|中国| ||唐・天寶15載6月4日|哥舒翰が安禄山と靈宝西原で戦い、敗れた/この日、郭子儀・李光弼が史思明と嘉山で戦い、これを破った
- 756年7月9日-08:00|中国| ||唐・天寶15載6月8日|官軍は乾祐と会戦/官軍は大敗
- 756年7月10日-08:00|中国| ||唐・天寶15載6月9日|蕃将の火抜師仁が哥舒翰を捕らえ、叛いて安禄山に降り、そのまま潼関・上洛郡を陥した
- 756年7月14日-08:00|中国| ||唐・天寶15年6月13日|哥舒翰率いる官軍が、安禄山の本隊に大敗北、玄宗は京師を逃げ出す/平盧節度使劉正臣が范陽を襲撃しようとしたが、子思明が逆襲し正臣は大敗
- 756年7月15日-08:00|中国| ||唐・天寶15年6月14日|馬嵬で楊貴妃、楊国忠らが殺される
- 756年7月16日-08:00|中国| ||唐・天寶15載6月15日|張巡が安禄山の将の尹伯玉と白沙埒で戦い、これを破った
- 756年7月18日-08:00|中国| ||唐・天寶15載6月17日|安禄山が京師を陥した
- 756年7月20日-08:00|中国| ||唐・天寶15載6月19日|閑廐使の任沙門が叛いて安禄山に降った
- 756年7月22日-09:00|日本|奈良県奈良市|天平勝宝8年6月21日|東大寺大仏殿に薬を置き、病人の救済にあてる
- 756年7月23日-09:00|日本| ||天平勝宝8年6月22日|聖武天皇の遺品を七七忌に東大寺や法隆寺の18寺に収める事が始まる(正倉院創立)
- 756年7月23日-09:00|日本|福岡県糸島市|天平勝宝8年6月22日|吉備真備に筑前国怡土城を築城させる
- 756年7月27日-08:00|中国| ||唐・天寶15載6月26日|扶風の民康景龍等の義勇軍が、賊の宣慰使薛総を撃ち、二百

0800迄 (2112件)

余級の首を斬る

- 756年7月29日-08:00|中国| ||唐・天寶15載6月28日|陳倉令薛景仙が賊の守將を殺し、扶風に勝って、これを守る
- 756年8月12日-08:00|中国| ||唐・至徳1載7月12日|<即位>唐第10代皇帝「肅宗李亨」(~宝応元年4月18日(762年5月16日)死去)至徳元載(~758年)と改元
- 756年8月12日-08:00|中国| ||唐・至徳1載7月12日|<退位>唐第9代皇帝「玄宗李隆基」上皇となる
- 756年8月22日-08:00|中国| ||唐・至徳1載7月22日|安禄山が扶風を寇し、太守の薛景仙がこれを破った
- 756年9月8日-08:00|中国| ||唐・至徳1載8月10日|史思明が再度九門を攻撃し勝ち、数千人を殺す
- 756年9月8日-08:00|中国| ||唐・至徳1載8月10日|張巡が安禄山の將の李廷望と雍丘で戦い、これを破った
- 756年9月18日-08:00|中国| ||唐・至徳1載8月20日|史思明が藁城を落とした
- 756年10月3日-08:00|中国| ||唐・至徳1載9月5日|史思明が趙郡を包圍し常山城を落とす
- 756年10月28日-08:00|中国| ||唐・至徳1載10月|この月、永王李璣がそむき、丹徒郡太守の閻敬之が李と伊婁で戦い、ここに死んだ
- 756年10月28日-08:00|中国| ||唐・至徳1載10月|思明は河間を陥落、また、景城を陥した/思明は、平原の兵で清河、博平を攻撃しどちらも陥落/饒陽城も陥落/河北は皆平定
- 756年10月28日-08:00|中国| ||唐・至徳1載10月1日|朔、日食があった
- 756年10月31日-08:00|中国| ||唐・至徳1載10月4日|令狐潮、王福德が歩騎万余を率いて、また玳丘を攻めたが張巡が大いに破る
- 756年11月7日-08:00|中国| ||唐・至徳1載10月11日|河南節度副使の張巡が令狐潮と雍丘で戦い、これを破った
- 756年11月17日-08:00|中国| ||唐・至徳1載10月21日|房カが中軍・北軍をもって安禄山の衆と陳濤斜で戦い、敗れた
- 756年11月19日-08:00|中国| ||唐・至徳1載10月23日|房カがまた南軍をもって戦い、敗れた
- 756年12月-01:00|イタリヤ| ||<死去>イタリヤ王・ランゴバルド王「アストルフト」デジデーリオの反乱で殺害される
- 756年12月-01:00|イタリヤ| ||<死去>スレート公「アイタルフ」
- 756年12月-01:00|イタリヤ| ||<即位>イタリヤ王・ランゴバルド王「ラチス」(2回目~07570303)
- 756年12月-01:00|イタリヤ| ||<即位>スレート公「ラチス」(~757年)
- 756年12月4日-08:00|中国| ||唐・至徳1載11月8日|郭子儀が回コツを率いて安禄山と河上で戦い、これを破った
- 756年12月7日-08:00|中国| ||唐・至徳1載11月11日|榆林河北にて同羅及び叛胡と戦い、これを大いに破る/河曲は皆平定
- 756年12月26日-08:00|中国| ||唐・至徳1載12月|この月、安禄山が魯・東平・濟陰三郡を陥落させた
- 756年12月26日-08:00|中国| ||唐・至徳1載12月|楊朝宗が寧陵城の西北へ到着/張巡と許遠はこれと戦い大いに破る
- 756年12月26日-08:00|中国| ||唐・至徳1載12月|令狐潮が万余の衆を率いて玳丘城北へ布陣/張巡はこれを攻撃して大いに破る
- 757年-07:00|ヘトナム| ||<即位>チャンバ王「フリティヴイートラヴァルマン」(~770年)
- 757年-05:30|スリランカ| ||スリランカの都アヌラダプラがタミル人の手に帰する
- 757年-01:00|スペイン| ||<死去>アストゥリアス王「アルフォンソ1世」
- 757年-01:00|スペイン| ||<即位>アストゥリアス王「アルエラ1世残酷王」(~7680114死去)
- 757年-01:00|イタリヤ| ||<即位>スレート公「アルホイン」(~759年)
- 757年 00:00|イギリス| ||<死去>マーシア王「イセルバルト・Alweowes sunu」
- 757年 00:00|イギリス| ||<即位>ウェセックス王「ケネウルフ」(~786年死去)
- 757年 00:00|イギリス| ||<即位>マーシア王「Beornraed」(~同年オッファに廃位される)⇒「オッファ・Thingfrithes sunu」(~07960726死去)
- 757年1月3日-08:00|中国| ||唐・至徳1載12月9日|安禄山が潁川を陥落させ、太守の薛愿および長史の堅を捕らえた
- 757年1月25日-09:00|日本| 神奈川県足柄下郡箱根町|天平勝宝9年|万巻上人が箱根神社創建(神奈川県)
- 757年1月25日-08:00|中国| ||唐・至徳2載1月|この月、河西兵馬使蓋庭倫と武威九姓の商胡安門物等が節度使周泌を殺し五つの城を占拠したが支度判官崔称と中使劉日新が二城の兵で攻め、十七日で平定
- 757年1月25日-08:00|中国| ||唐・至徳2載1月|永王李璣が陽郡を陥落させた
- 757年1月25日-08:00|中国| ||唐・至徳2年2年1月|玄志は兵馬使董秦へ兵を与え大將田神功と共に平原、樂安を攻撃し下す
- 757年1月29日-08:00|中国| ||燕・載緒1年1月5日|<死去>燕初代皇帝「雄武皇帝安禄山」子の安慶緒が側近とともに殺害
- 757年1月29日-08:00|中国| ||燕・載緒1年1月5日|<即位>燕第2代皇帝「晋王安慶緒」(~759年4月10日), 載緒と改元
- 757年1月30日-09:00|日本| ||天平勝宝9年1月6日|<死去>橘諸兄(廷臣、歌人、生年684年)
- 757年2月8日-08:00|中国| ||唐・至徳2載1月15日|劍南の健児の賈秀がそむき、処刑された
- 757年2月10日-08:00|中国| ||唐・至徳2載1月17日|河西兵馬使の孟庭倫がその節度使の周泌を殺し、武威郡をもつてそむいた
- 757年2月10日-08:00|中国| ||唐・至徳2載1月17日|劍南兵の賈秀等五千人が造反/將軍席元慶、臨コ太守柳奕が討って、これを誅した
- 757年2月19日-08:00|中国| ||唐・至徳2載1月26日|安慶緒の將の尹子奇が陽郡を寇し、張巡がこれを破った
- 757年2月23日-08:00|中国| ||唐・至徳2載2月|郭子儀が洛交から兵を率いて河東へ進軍し兵を分けて馮翊を取

る

- 757年2月23日-08:00|中国| ||燕・天成1年2月|中国・唐代安史の乱の指導者安慶緒が天成(-759年)と改元
- 757年2月23日-08:00|中国| ||唐・至徳2載2月|李光弼は決死隊を率いて、蔡希徳を撃ち大いに破る
- 757年3月3日-01:00|イタリヤ| ||<即位>イタリヤ王・ランゴバルド王「デジデリウス」諸公爵の一人。ラキスとアストルフォの兄弟を討ち取って王位を獲得(~07740605、ランゴバルド・マニョの遠征軍に滅ぼされた)
- 757年3月4日-08:00|中国| ||唐・至徳2載2月10日|李光弼が安慶緒の衆と太原で戦い、これを破った
- 757年3月5日-08:00|中国| ||唐・至徳2載2月11日|夜、河東司戸韓旻等が河東城を翻って官軍を迎え賊を千人近く殺す/崔乾裕は城北の兵を発して城を攻め官軍を拒んだが郭子儀がこれを撃破
- 757年3月13日-08:00|中国| ||唐・至徳2載2月19日|関西節度兵馬使の郭英乂が安慶緒と武功で戦い、敗れた/安慶緒が馮翊郡を陥落させ、太守の蕭賁がここに死んだ
- 757年3月16日-08:00|中国| ||唐・至徳2載2月22日|郭子儀はその子干及び兵馬使李韶光、大将王祚へ潼関を攻撃させ破る
- 757年3月18日-08:00|中国| ||唐・至徳2載2月24日|河西判官の崔称が武威郡を落とし、孟庭倫が処刑された
- 757年3月20日-08:00|中国| ||唐・至徳2載2月26日|郭子儀が安慶緒と永豊倉で戦い、これを破り、大将の李韶光・王祚がここに死んだ
- 757年3月25日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・景德王16年3月|官僚への俸給制度を廃止して禄邑制度を復活
- 757年3月25日-08:00|中国| ||唐・至徳2載3月|尹子奇が再び大軍で佳陽を攻撃し賊は大いに潰れた
- 757年4月16日-08:00|中国| ||唐・至徳2載3月23日|安守忠が騎兵二万を率いて河北へ来寇、郭子儀は撃退
- 757年4月26日-01:00|パチン| ||<死去>第93代ローマ教皇「ステファヌス3世」
- 757年5月-01:00|チュニジア| ||北アフリカ総督ハビブがベルベル人反乱軍との戦闘で戦死
- 757年5月5日-08:00|中国| ||唐・至徳2載4月13日|郭子儀が安慶緒の将の李帰仁と劉運橋で戦い、これを破った
- 757年5月23日-09:00|日本| ||天平勝宝9年5月|養老律令を施行
- 757年5月28日-08:00|中国| ||唐・至徳2載5月6日|郭子儀が安慶緒の将の安守忠と清渠で戦い、敗れた
- 757年5月29日-01:00|パチン| ||<就任>第94代ローマ教皇「パウルス1世」(~07670628死去)
- 757年5月30日-09:00|日本|石川県|天平勝宝9年5月8日|越中国→能登国分離(能登郡→鹿島郡へと改められた)
- 757年5月30日-09:00|日本|大阪府|天平勝宝9年5月8日|河内国[大鳥郡、和泉郡、日根郡]を和泉国として再び分立
- 757年5月30日-09:00|日本|千葉県|天平勝宝9年5月8日|上総国[平群郡、安房郡、朝夷郡、長狭郡]→安房国設立
- 757年6月11日-09:00|日本| ||天平勝宝9年5月20日|紫微内相を置く
- 757年6月12日-09:00|日本| ||天平勝宝9年5月21日|養老律令を施行
- 757年6月29日-09:00|日本| ||天平勝宝9年6月9日|治安維持についての勅五条を制定
- 757年7月6日-09:00|日本| ||天平勝宝9年6月16日|<任命>鎮守府将軍「大伴古麻呂」(~7.24(同年7月4日)罪死)
- 757年7月11日-08:00|中国| ||唐・至徳2載6月21日|南充郡の民の何滔がその太守の楊齊曾を捕らえてそむいたので、劍南節度使の盧元裕がこれを破った
- 757年7月21日-08:00|中国| ||唐・至徳2載7月|河南節度使賀蘭進明が高密、琅邪に勝ち、賊二万余人を殺す
- 757年7月22日-08:00|中国| ||唐・至徳2載7月2日|夜、蜀郡の兵郭千仞等が造反し六軍兵馬使陳玄禮、劍南節度使李亘がこれを討って誅する
- 757年7月24日-09:00|日本| ||天平勝宝9年7月4日|<橘奈良麻呂の変>橘奈良麻呂の謀叛が発覚、黄文王(父:長屋王、名を多夫礼と改名)・孝謙天皇廢太子道祖王(父:天武天皇皇子新田部親王、名を麻度比と改名)・大伴古麻呂・多治比檮養・小野東人・賀茂角足(名を乃呂志と改名)ら惨殺され、安宿王(父:長屋王)とその妻子は佐渡に、佐伯大成は信濃国に、大伴古慈斐は土佐国に配流/佐伯全成、尋問の後自尽
- 757年7月24日-09:00|日本| ||天平勝宝9年7月4日|<死去>鎮守府将軍「大伴古麻呂」藤原仲麻呂打倒の謀議が発覚し罪死
- 757年7月24日-08:00|中国| ||唐・至徳2載7月4日|行營の健児の李季がそむき、処刑された
- 757年7月31日-08:00|中国| ||唐・至徳2載7月11日|安慶緒の将の安武臣が陝郡を陥落させた
- 757年8月13日-08:00|中国| ||唐・至徳2載7月24日|劍南の健児の郭千仞がそむき、処刑された
- 757年9月6日-09:00|日本| ||天平宝字1年8月18日|天平宝字に改元
- 757年9月26日-08:00|中国| ||唐・至徳2載閏8月9日|安慶緒が好時を寇し、渭北節度使李光進がこれを破った
- 757年10月13日-08:00|中国| ||唐・至徳2載閏8月26日|御史大夫崔光遠が駱谷にて賊を破った/光遠の行軍司馬王伯倫、判官李椿が二千人を率いて中渭橋を攻撃し、橋を守っている賊兵千人を殺した
- 757年10月14日-09:00|日本| ||天平宝字1年閏8月27日|東国の防人をやめ西国兵士をあてる
- 757年10月19日-08:00|中国| ||唐・至徳2載9月2日|安慶緒が上党郡を陥落させ、節度使の程千里を捕らえた
- 757年11月13日-08:00|中国| ||唐・至徳2載9月27日|広平郡王李俶が安慶緒と杻水で戦い、これを破った
- 757年11月14日-08:00|中国| ||唐・至徳2載9月28日|郭子儀が賊軍を破り、西京(長安)を取り戻す/安慶緒が陝郡に逃れた
- 757年11月19日-08:00|中国| ||唐・至徳2載10月4日|広平郡王李俶が安慶緒と新店で戦い、これを破り、陝郡を落としした
- 757年11月23日-08:00|中国| ||唐・至徳2載10月8日|東京を奪回し、安慶緒は河北に逃れた/興平軍兵馬使の李奂が安慶緒の衆と武関で戦い、これを破り、上洛郡を落としした/吐蕃が西平郡を陥落させた
- 757年11月24日-08:00|中国| ||唐・至徳2載10月9日|安慶緒が雋陽を陥落させ、太守の許遠および張巡・姚閻・南霁雲はみなここに死んだ
- 757年12月4日-08:00|中国| ||唐・至徳2載10月19日|陳留の人が尹子奇を殺して郡を挙げて降伏
- 757年12月6日-08:00|中国| ||唐・至徳2載10月21日|郭子儀が、左兵馬使張用濟、右武鋒使渾瑊之へ兵を与え、河

0800迄(2112件)

- 陽及び河内を攻略させた/嚴莊が来降/陳留の人が尹子奇を殺して郡を挙げて降伏
757年12月10日-08:00|中国| ||唐・至徳2載10月25日|関内節度使王思礼が安慶緒と絳郡で戦い、これを破った
757年12月17日-08:00|中国| ||唐・至徳2載11月2日|張鎰が、四鎮伊西北庭行營兵馬使の李嗣業・陝西節度使の来
テ・河南都知兵馬使の嗣吳王李祗を率いて河南の郡県を落とす
758年-07:00|ベトナム| ||<死去>チャンパ王「ルトラヴァマン2世」
758年-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第5代アミールム・サ・イブン・カーフ(~759解任)
758年-01:00|イタリヤ| ||<即位>スレート公「デシテリウス」(~759年)
758年-01:00|イタリヤ| ||<即位>ベネチア公「アキズ2世」(→774年、ベネチア大公~787年)
758年 00:00|イギリス| ||<死去>イェックス王「Swithraed Sigemundes sunu」
758年 00:00|イギリス| ||<即位>イェックス王「ゲリック」Saelredの息子(~798年放棄)
758年 00:00|モロッコ| ||ジリマサは独立したベルベル王国(~1055年)
758年2月4日-08:00|中国| ||唐・至徳2載12月22日|史思明が降った
758年2月13日-09:00|日本|奈良県奈良市|天平宝字2年|<竣工>東大寺大仏殿
758年2月13日-08:00|中国| ||唐・至徳3年|この年、振武軍節度使を設置し、鎮北大都護府と麟、勝二州を領有さ
せる/又、陝、か、華及び豫、許、汝に節度使を設置
758年2月13日-08:00|中国/ベトナム| ||唐・至徳3年|安南都護府を鎮南郡護府に改める
758年2月13日-08:00|中国| ||唐・至徳3年|唐が塩法を初めて施行し塩を専売化、塩梟の跋扈をまねく
758年3月14日-08:00|中国| ||唐・乾元1年2月1日|安慶緒麾下の北海節度使能元皓が、領地ごと来降
758年3月18日-08:00|中国| ||唐・乾元1年2月5日|唐第10代皇帝「肅宗李亨」が乾元(~760年)と改元、としの数え
方が「載」から「年」に戻された
758年4月2日-09:00|日本| ||天平宝字2年2月20日|乱を未然に防ぐ為、飲酒集会を禁止
758年5月3日-08:00|中国| ||唐・乾元1年3月22日|北庭兵馬使王惟良が造反を謀った/嗣業と裨將荔非元禮が、こ
れを討って誅する
758年5月12日-08:00|中国| ||唐・乾元1年4月|蔡希徳と崔乾祐へ歩騎二万を与えて、沁水を渡って攻撃させたが
勝てずに帰る
758年5月25日-08:00|中国| ||唐・乾元1年4月14日|史思明が范陽節度副使の烏承恩を殺してそむいた
758年6月-01:00|チュニジア| ||アルハッターブがベルベル人反乱軍からカイワーンを奪取
758年6月21日-08:00|中国| ||唐・乾元1年5月12日|采訪使を廃止し、黜陟使を觀察使と改称
758年7月26日-08:00|中国| ||唐・乾元1年6月17日|始めて穎曆を施行
758年8月9日-08:00|中国| ||唐・乾元1年7月|党項羌が辺境を寇した
758年8月24日-08:00|中国| ||唐・乾元1年7月16日|一枚で十銭に相当する大銭を初めて鑄造する「乾元重寶」
758年9月 00:00|イギリス| ||<即位>ノザンツリア王「Oswulf Eadberhtes sunu」(~07590724殺害される)
758年9月7日-08:00|中国| ||唐・乾元1年8月|郭子儀が兵を率いて杏園から河を渡り、東進して獲嘉へ到着し安
太清を破る/子儀は兵を返し慶緒は大敗、衛州を抜いた/慶緒は愁思岡にて拒戦するが、敗れる/崔光遠が、魏州
を抜く
758年9月7日-09:00|日本| ||天平宝字2年8月1日|<譲位>「46代孝謙天皇」
758年9月7日-09:00|日本| ||天平宝字2年8月1日|<即位>「47代淳仁天皇」舎人親王の第七王子大炊王(~07641009
)
758年9月30日-09:00|日本| ||天平宝字2年8月24日|新羅の僧俗74人を武蔵国の閑地に移し、新羅郡を置く
758年10月1日-09:00|日本| ||天平宝字2年8月25日|太政大臣以下の官名を改定(太師、太保)
758年10月24日-09:00|日本/中国| ||天平宝字2年9月18日|渤海使来朝/遣渤海使小野田守が渤海大使ら23名を
伴い帰国
758年11月30日-09:00|日本| ||天平宝字2年10月25日|国司交替を4年から6年に改正/巡察使の派遣は3年毎とす
る
758年12月8日-08:00|中国| ||唐・乾元1年11月4日|王思礼が安慶緒と相州で戦い、これを破った
759年-03:30|イラン| ||アッバース朝によるカスピスタン(カスピ海南)の征服開始
759年-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第6代アミールムハンマド・イブン・アルアシヤス・アルクサイ(~760解任)
759年-01:00|イタリヤ| ||<即位>スレート公「ギサルフ」(~763年)
759年-01:00|フランス| ||フランク王ピピンが南フランスのイスラム教徒の拠点を征服
759年1月9日-08:00|中国| ||唐・乾元1年12月6日|浙江西道節度使を置き、蘇、潤等十州を領有させた
759年1月15日-08:00|中国| ||唐・乾元1年12月12日|浙江東道節度使を置き、越、睦等八州を領有させる
759年2月1日-08:00|中国| ||唐・乾元1年12月29日|史思明が魏州を陥落させた
759年2月2日-09:00|日本| ||天平宝字3年1月|万葉集/完成
759年2月3日-08:00|中国| ||燕・応天1年1月|唐代の安史の乱の指導者安慶緒が応天と改元
759年2月3日-08:00|中国| ||唐・乾元2年1月2日|郭子儀が安慶緒と愁思岡で戦い、これを破った
759年2月4日-09:00|日本/中国| ||天平宝字3年1月3日|渤海使朝貢/渤海との国交正常化なる
759年3月4日-09:00|日本/中国| ||天平宝字3年2月|第11次遣唐使派遣/高元度、内蔵全成、羽栗翔(藤原清河を迎
えるための遣使)/渤海を経由して唐へ向かうが、安史の乱の影響で所期の目的を果たさず帰国
759年3月18日-08:00|中国| ||唐・乾元2年2月15日|皆既月食が起こった
759年4月7日-08:00|中国| ||唐・乾元2年3月6日|九節度の師がワ水で潰滅
759年4月10日-08:00|中国| ||燕・応天1年3月9日|<死去>燕第2代皇帝「晋王安慶緒」父の部下史思明に殺される
759年5月2日-08:00|中国| ||唐・乾元2年4月|<死去>回鶻可汗国第2代可汗「葛勒可汗・英武威遠可汗(磨延啜)テソク

0800迄 (2112件)

- 759年5月2日-08:00|中国| ||燕・順天1年4月|<即位>燕第3代皇帝「応天皇帝史思明」(~761年4月18日)順天(-761年)と改元
- 759年5月2日-08:00|中国| ||唐・乾元2年4月|<即位>回鶻可汗国第3代可汗「牟羽可汗・英義建功可汗(移地健)テノ」
759年5月5日-08:00|中国| ||唐・乾元2年4月4日|澤口節度使王思禮が直千嶺で史思明の将楊旻を破った
- 759年5月9日-08:00|中国| ||唐・乾元2年4月8日|陳、鄭、亳節度使を設置
- 759年6月8日-09:00|日本| ||天平宝字3年5月9日|藤原仲麻呂、飢饉対策として米価を調節する常平倉を設置し、常平倉を掌握する為に左右平準署を置く
- 759年7月21日-08:00|中国| ||唐・乾元2年6月23日|朔方を分けて、フン、寧等九州節度使を設置
- 759年7月24日 00:00|イギリス| ||<死去>ノザンブリア王「Oswulf Eadberhtes sunu」殺害される
- 759年7月24日 00:00|イギリス| ||<即位>ノザンブリア王「Athelwald Moll」(~07651030廃位)
- 759年8月-01:00|イギリス| ||<即位>イリア王・ランゴバルド王「アタ・ルース」共同統治(~07740605)
- 759年8月2日-09:00|日本| ||天平宝字3年7月5日|<死去>聖武天皇夫人広岡古那可智(父:橘佐為、号:橘少夫人)
- 759年8月29日-09:00|日本| ||天平宝字3年8月3日|<建立>唐律招提寺(後の唐招提寺/唐僧・鑑真が新田部親王(天武天皇第7皇子)の旧・宅跡を朝廷から譲り受け戒律を学ぶための寺とした)
- 759年9月7日-08:00|中国| ||唐・乾元2年8月12日|襄州防禦の将の康楚元・張嘉延がそむき、その刺史の王政を追放
- 759年9月26日-09:00|日本|秋田県横手市|天平宝字3年9月|出羽国雄勝城できる
- 759年9月26日-09:00|日本|宮城県石巻市|天平宝字3年9月|陸奥国桃生城できる
- 759年9月26日-08:00|中国| ||唐・乾元2年9月1日|張嘉延が荊州を陥落させた
- 759年9月30日-08:00|中国| ||唐・乾元2年9月5日|絳州へ、乾元重寶の大錢を改鑄させた/重輪を銜えて、一枚を五十錢とする
- 759年10月22日-08:00|中国| ||燕・順天1年9月27日|史思明が東京および齊・汝・鄭・滑の四州を陥落させた
- 759年11月6日-08:00|中国| ||唐・乾元2年10月12日|李光弼が史思明と河陽で戦い、これを破った
- 759年11月25日-08:00|中国| ||唐・乾元2年11月|第五琦が乾元錢、重輪錢を造り、開元錢と併せて三種類の錢が流通
- 759年12月25日-09:00|日本| ||天平宝字3年12月2日|授刀衛を設置
- 760年-08:00|インドネシア| ||<即位>シャイレント朝・古マタラム王国国王「ライ・パ・ナカラン」(~775年)
- 760年-07:00|カンボジア| ||<即位>チェンラウ王「ラジ・エン・ラガ・アルマン1世」(~780年)
- 760年-05:30|インド| ||<即位>プラーティハール朝国王「Kakustha」Devaraja」(~780年)
- 760年-04:00|シリア| ||<就任>イバリア公「ルス」(~772年)
- 760年-02:00|エジプト| ||<就任>アッハース朝エジプト第7代アミール:フアト・ヒン・カタハ(~762解任)
- 760年-02:00|ブルガリア| ||<即位>ブルガリア帝国ハン「テレ」(~763年9月)
- 760年-01:00|フランス| ||<就任>オベルニュ伯「Blandin」(~763年)
- 760年-01:00|フランス/スペイン| ||フランス王国アキタニアの公国を滅ぼす
- 760年-01:00|モロコ/フランス| ||モロコはフランス王国の一部(~843年8月)
- 760年 00:00|イギリス| ||<死去>ストラスクライド王「Dumnagal (Dyfnwal ap Tewdwr)」
- 760年 00:00|イギリス| ||<即位>ストラスクライド王「Eugen」(~780年)
- 760年 00:00|モロコ| ||<即位>セウル王国ムターン「Sa'id1世」(~803年)
- 760年 00:00|モロコ| ||<退位>セウル王国ムターン「Idris1世」
- 760年1月5日-08:00|中国| ||唐・乾元2年12月13日|史思明が陝州を寇し、神策軍将の衛伯玉がこれを破った
- 760年1月23日-08:00|中国| ||唐・乾元3年|この年、吐蕃が廓州を陥落させた
- 760年1月23日-08:00|中国| ||唐・乾元3年|西原蛮が辺境を寇すると、桂州経略使のケイ済がこれを破った
- 760年1月23日-09:00|日本| ||天平宝字4年1月|<任命>鎮守府将軍「藤原惠美朝獵」(~不詳)
- 760年1月26日-09:00|日本| ||天平宝字4年1月4日|惠美押勝、太師に就任
- 760年2月20日-09:00|日本| ||天平宝字4年1月29日|<死去>聖武天皇夫人藤原北夫人(父:藤原房前)
- 760年3月3日-08:00|中国| ||唐・乾元3年2月11日|李光弼が懷州を攻め、沁水の上にて救援に来た史思明を迎撃し破る
- 760年3月22日-08:00|中国| ||唐・乾元3年3月|襄州の将張維珩、曹が、節度使のサイを殺し造反
- 760年4月6日-09:00|日本| ||天平宝字4年3月16日|和同開珎の偽作が出回った為、万年通宝(銅)・太平元宝(銀)・開基勝宝(金)を鑄造
- 760年4月13日-08:00|中国| ||唐・乾元3年3月23日|蒲州を河中府と改称
- 760年4月19日-08:00|中国| ||唐・乾元3年3月29日|李光弼が、懷州城下で安太清を破った
- 760年4月21日-08:00|中国| ||唐・乾元3年4月2日|河陽西の渚で史思明を破る
- 760年5月7日-08:00|中国| ||唐・乾元3年4月18日|山南東道の将の張維瑾がそむき、その節度使の史がを殺した
- 760年5月16日-08:00|中国| ||唐・乾元3年4月27日|彗星が婁・胃に出現した
- 760年5月20日-08:00|中国| ||唐・上元1年閏4月1日|彗星が西方に出現
- 760年6月7日-08:00|中国| ||唐・上元1年閏4月19日|唐・肅宗が上元(-761年9月)と改元
- 760年7月23日-09:00|日本| ||天平宝字4年6月7日|<死去>聖武天皇皇太后藤原光明子(60/父:藤原不比等、孝謙天皇生母)
- 760年7月23日-08:00|中国| ||唐・上元1年6月7日|鳳翔節度使の崔光遠が羌・渾・党項と涇・隴で戦い、これを破つ

0800迄 (2112件)

た

- 760年8月12日-08:00|中国| ||唐・上元1年6月27日|鳳翔節度使の崔光遠がまた羌・渾・党項と普潤で戦い破った
- 760年10月20日-08:00|中国| ||唐・上元1年9月7日|荊州へ南都を置く/荊州を江陵府とし、永平団練兵三千人を置き、呉、蜀の抑えとする
- 760年10月29日-09:00|日本/韓国| ||新羅・景德王19年9月16日|新羅国が、級伐キウ(級キウ、六頭品・9位)のキョウヨウカ(金貞巻)を派遣・朝貢/天平勝宝5年の折の遣新羅大使小野田守に対する新羅の対応の無礼などを責め、追いつ返す
- 760年12月1日-08:00|中国| ||唐・上元1年10月19日|青、キ等五州節度使を設置
- 760年12月19日-08:00|中国| ||唐・上元1年11月8日|揚州長史の劉展がそむき、潤州を陥落させた
- 760年12月21日-08:00|中国| ||唐・上元1年11月10日|揚州長史の劉展が昇州を陥落させた
- 761年 00:00|イギリス| ||<死去>ヒ°外王「Oenghus mac Ferghusa (Angus1世)」
- 761年 00:00|イギリス| ||<即位>ヒ°外王「Bruide mac Ferghusa (Bridei5世)」(~763年死去)
- 761年1月6日-08:00|中国| ||唐・上元1年11月26日|李かと淮南節度使の鄧景山が劉展と淮上で戦い、敗れた
- 761年1月11日-08:00|中国| ||唐・上元1年12月|賊帥郭イ等が諸キウ、胡を率いて秦隴節度使韋倫を破り、監軍使を殺す
- 761年2月10日-08:00|中国| ||唐・上元2年1月|江南の淡、岳、リ、邵、永、道、連、黔中をハイ州として、全て荊南へ隸属させた
- 761年2月10日-08:00|中国| ||燕・順天3年1月|史思明が李光弼と僕固懷恩を大いに破る/河陽、懷州は全て賊の手に落ちた
- 761年3月14日-08:00|中国| ||唐・上元2年2月4日|奴刺・党項羌が宝?を寇し、大散関を焚き、鳳州を寇し、刺史の蕭?がここに死に、鳳翔尹の李鼎がこれを破った
- 761年4月2日-08:00|中国| ||燕・順天3年2月23日|史思明が河陽を陥落させた
- 761年4月2日-08:00|中国| ||唐・上元2年2月23日|李光弼が史思明と北ホウで戦い、敗れた
- 761年4月9日-08:00|中国| ||唐・上元2年2月30日|来テンが史思明と魯山で戦い、これを破った
- 761年4月18日-08:00|中国| ||唐・上元2年3月9日|史朝義が陝州を寇し、神策軍節度使の衛伯玉がこれを破った
- 761年4月22日-08:00|中国| ||燕・顕聖1年3月13日|<死去>燕第3代皇帝「応天皇帝史思明」息子史朝義に殺害される
- 761年4月22日-08:00|中国| ||燕・顕聖1年3月13日|<即位>燕第4代皇帝「懷王史朝義」(~763年)、顕聖(-763年)と改元
- 761年5月3日-09:00|日本|鹿兒島県熊毛郡|天平宝字5年3月24日|茅原王を多禰嶋に流す
- 761年5月29日-08:00|中国| ||唐・上元2年4月21日|青密節度使の尚衡が史朝義と戦い、これを破った
- 761年5月31日-08:00|中国| ||唐・上元2年4月23日|エンウ節度使の能元皓が史朝義の兵を破った
- 761年6月-01:00|チュニジア/イラク| ||アッハース朝軍がチュニジアの支配を確立
- 761年6月5日-08:00|中国| ||唐・上元2年4月28日|梓州刺史段子璋が造反、梁王と自称し、黄龍と改元/綿州を陥落し龍安府と改称、また劍州を落とす
- 761年6月17日-08:00|中国| ||唐・上元2年5月10日|史朝義の將の令狐彰が滑州をもって降った
- 761年6月21日-08:00|中国| ||唐・上元2年5月14日|平盧節度使侯希逸が史朝義の范陽の兵を撃ち、これを破る
- 761年6月23日-08:00|中国| ||唐・上元2年5月16日|劍南節度使の崔光遠が東川を落とし、段子璋が処刑された
- 761年7月7日-08:00|中国| ||唐・上元2年6月1日|能元皓が史朝義の將李元遇を破る
- 761年8月5日-08:00|中国| ||唐・上元2年6月1日|朔、皆既日食が起こる
- 761年11月14日-09:00|日本|滋賀県大津市|天平宝字5年10月13日|淳仁天皇と孝謙上皇が平城京から保良宮(保良京)に行幸
- 761年12月2日-08:00|中国| ||唐・元年建子月1日|朔、「上元」の号を去り、元年を称し、11月を建子月として、年の初めとし、他の月は全て干支で数えることにする/以後、元の月に戻すまで、一年が二ヶ月ずれることになる
- 761年12月13日-08:00|中国| ||唐・元年建子月12日|曹州刺史の常休明が史朝義の將の薛?と戦い、これを破った
- 761年12月26日-08:00|中国| ||唐・元年建子月25日|衛伯玉が史朝義と永寧で戦い、これを破った
- 762年-03:30|イラン| ||<即位>ハダスハニト朝君主「Shahriyar1世 ibn Paduspan」(~791年)
- 762年-02:00|エジプト| ||<就任>アッハース朝エジプト第8代アミール:ヤジド・ヒン・ハタミ・アルムハビ(~769解任)
- 762年 00:00|イギリス| ||<死去>ケント王「Athelberht Wihtraedes sunu (Adelberht2世)」
- 762年 00:00|イギリス| ||<即位>ケント王「Eadberht Athelberhtes sunu」(~763年死去)、「Sigeræd」(~763年死去)
- 762年1月8日-08:00|中国| ||唐・元年建丑月8日|来テンが史朝義と汝州で戦い、これを破った
- 762年1月24日-08:00|中国| ||唐・元年建丑月24日|侯希逸が史朝義の將の李懷仙と范陽で戦い、これを破った
- 762年2月22日-08:00|中国| ||唐・元年建寅月24日|李光弼が許州を落とし史朝義から任命された潁川太守李春を捕らえる
- 762年2月24日-08:00|中国| ||唐・元年建寅月26日|李光弼が救援に来た史朝義の將史参を城下にて戦い、又破る
- 762年2月26日-08:00|中国| ||燕・顕聖2年1月29日|史朝義が營州を陥落させた
- 762年3月1日-08:00|中国| ||唐・元年建卯月1日|京兆府を上都とし、河南府を東都とし、鳳翔府を西都とし、江陵府を南都とし、太原府を北都とした
- 762年3月2日-08:00|中国| ||唐・元年建卯月2日|羌・渾・奴刺が梁州を寇した
- 762年3月3日-08:00|中国| ||唐・元年建卯月3日|河東軍で乱が起こり、その節度使の鄧景山を殺して、都知兵馬使の辛雲京が節度使を自称
- 762年3月11日-09:00|日本| ||天平宝字6年2月12日|健児の制を復活

0800迄 (2112件)

- 762年3月15日-08:00|中国| ||唐・元年建卯月15日|河中軍で乱が起こり、李国貞およびその節度使のイ非元礼を殺した
- 762年3月15日-08:00|中国| ||唐・元年建卯月15日|絳州にて王元振が乱を作った
- 762年3月18日-08:00|中国| ||唐・元年建卯月18日|淮西節度使の王仲昇が史朝義の将の謝欽讓と申州で戦い、敗れた
- 762年3月22日-08:00|中国| ||唐・元年建卯月22日|7州刺史の成公意が党項と戦い、これを破った
- 762年4月13日-08:00|中国| ||唐・元年建辰月14日|奴刺が梁州へ来寇し観察使李勉は城を棄てて逃げる
- 762年4月29日-08:00|中国| ||唐・寶應1年4月1日|朔、史朝義が沢州を寇し、刺史の李抱玉がこれを破った
- 762年5月3日-08:00|中国| ||唐・寶應1年4月5日|<死去>唐上皇(第9代皇帝)「玄宗李隆基」神龍殿にて崩御[685年8月5日生](享年76)
- 762年5月16日-08:00|中国| ||唐・寶應1年4月18日|<死去>唐第10代皇帝「肅宗李亨」
- 762年5月18日-08:00|中国| ||唐・寶應1年4月20日|<即位>唐第11代皇帝「代宗李豫」(~大曆14年5月21日(779年6月10日)死去)、宝応(~763年6月)と改元
- 762年5月28日-08:00|中国| ||唐・寶應1年5月|代宗皇帝は乾元の大小錢を全て一枚一錢とする
- 762年6月14日-08:00|中国| ||唐・寶應1年5月18日|李光弼が史朝義と宋州で戦い、これを破った
- 762年6月19日-09:00|日本|奈良県奈良市|天平宝字6年5月23日|淳仁天皇と孝謙上皇の不仲により都が保良宮(保良京・大津)から平城京に戻る。孝謙上皇は出家
- 762年6月27日-08:00|中国| ||唐・寶應1年6月|吐蕃、臨州を陥落させる
- 762年7月26日-09:00|日本|滋賀県大津市|天平宝字6年7月|この月、近江国石山寺建立
- 762年7月30日-03:00|イラク| ||バグダット(当時はマディナ アル サラムと呼ばれていた)が、アッバース朝カワフのアル・マンスールによって設立された
- 762年8月10日-08:00|中国| ||唐・寶應1年7月16日|劍南西川兵馬使の徐知道がそむいた
- 762年9月17日-08:00|中国| ||唐・寶應1年8月25日|台州の人の袁?がそむいた
- 762年10月4日-08:00|中国| ||唐・寶應1年9月12日|鳳州刺史の呂日将が党項羌と三嗟谷で戦い、これを破った
- 762年10月22日-08:00|中国| ||唐・寶應1年10月|李白死去/(誕生:0701)。唐・詩人
- 762年10月22日-09:00|日本/中国/朝鮮| ||天平宝字6年10月1日|遣渤海使、渤海国使王新福を伴い越前国に漂着
- 762年10月31日-08:00|中国| ||唐・寶應1年10月10日|温・明の二州が陥落
- 762年11月4日-09:00|日本| ||天平宝字6年10月14日|<死去>聖武天皇の夫人、県犬養広刀自(父:県犬養唐、子:光仁天皇皇后井上内親王・不破内親王・安積親王)
- 762年11月18日-08:00|中国| ||唐・寶應1年10月28日|雍王李?が懷州を落とす
- 762年11月19日-08:00|中国| ||唐・寶應1年10月29日|史朝義を横水で破り、河陽・東都を落とし、史朝義の将の張獻誠がベソ州をもって降った
- 762年12月-03:00|サウジアラビア| ||アッバース朝のムハンマドがマディナで反乱するが殺される
- 762年12月2日-08:00|中国| ||唐・寶應1年11月12日|史朝義の将の薛嵩が相・衛・冀・邢の四州をもって降った
- 762年12月12日-08:00|中国| ||唐・寶應1年11月22日|史朝義の将の張忠志が趙・定・深・恒・易の五州をもって降った
- 762年12月20日-08:00|中国| ||唐・寶應1年12月|河中防禦使を節度使(蒲、絳等七州)に昇格/劍南を分けて東川(梓、遂等十二州)、西川節度とする/荊州節度(荊、豊等五州)を設置/峽節度(峽、峡等五州)を設置/安西を鎮西と改称
- 763年-08:00|中国| ||<死去>燕第4代皇帝「懷王史朝義」自害し燕は滅亡
- 763年-01:00|フランス| ||<就任>オベール1世「Chilping」(~765年)
- 763年-01:00|イタリア| ||<即位>スレート公「セオドシウス」(~773年)
- 763年-01:00|スペイン| ||アッバース朝の支援でアル・アラブが西ウイグル朝に反乱し蜂起
- 763年 00:00|イギリス| ||<死去>ケント王「Eadberht Athelberhtes sunu」
- 763年 00:00|イギリス| ||<死去>ケント王「Sigeraed」
- 763年 00:00|イギリス| ||<死去>ヒール王「Bruide mac Ferghusa(Bridei5世)」
- 763年 00:00|アイルランド| ||<即位>アイルランド 上王「ニール・マック・ファガイル」(~770年)
- 763年 00:00|イギリス| ||<即位>ケント王「Eanmund」(~764年死去)
- 763年 00:00|イギリス| ||<即位>ヒール王「Cinaedh mac Feradaigh(Kenneth2世)」(~775年死去)
- 763年1月18日-08:00|中国| ||唐・寶應1年12月30日|李光弼が袁晃と衢州で戦い、これを破った
- 763年1月28日-08:00|中国| ||唐・寶應2年1月10日|史朝義が自殺し、その将の李懷仙が幽州をもって降り、田承嗣が魏州をもって降った/安史の乱が終結
- 763年2月-03:00|サウジアラビア| ||アッバース朝のムハンマドの弟アブ・ラヒームがバスラで反乱するが失敗、クファ近郊で処刑
- 763年2月19日-09:00|日本/中国/朝鮮| ||天平宝字7年1月3日|渤海国使、朝貢
- 763年3月22日-09:00|日本/韓国| ||新羅・景德王22年2月4日|新羅使、朝貢のため来日
- 763年4月21日-08:00|中国| ||唐・寶應2年3月4日|李光弼が袁晃と戦い、これを破った
- 763年5月8日-08:00|中国| ||唐・寶應2年3月21日|党項羌が同州を寇し、郭子儀が黄堆山でこれを破った
- 763年6月21日-09:00|日本| ||天平宝字7年5月6日|<死去>鑑真、端座しながら/76歳(誕生:(持統)2(688))中国の名僧
- 763年6月30日-02:00|ブルガリア/トルコ| ||コンスタンティン5世が、アンキアスでブルガリア王テリツ汗を破る
- 763年7月2日 06:00|ボスニア| ||<即位>コパン王「ヤシュ・ハツワ・チャン・ヨアト」
- 763年7月10日-08:00|中国| ||唐・寶應2年5月25日|河北諸州を分割/幽、莫、イ、檀、平、薊を幽州の管轄、恒、定、趙、

0800迄 (2112件)

深、易を成徳軍の、相、貝、ケ、名を相州の、魏、博、徳を魏州の、滄、棣、冀、瀛を青の、懐、衛、河陽を沢路の管轄とする

- 763年7月16日-08:00|中国| ||唐・寶應2年6月|代宗、牟羽可汗に称号を追加して、登里靺咄登密施含俱録英義建功毘伽可汗にし、可敦にも称号を追加して婆墨光親麗華毘伽可敦とする
- 763年8月24日-08:00|中国| ||唐・廣徳1年7月11日|吐蕃が隴右の諸州を陥落させた
- 763年8月24日-08:00|中国| ||唐・廣徳1年7月11日|唐・代宗が廣徳(-764年12月)と改元
- 763年9月-02:00|ブルガリア| ||以降|<即位>ブルガリア帝国ハ「サヒン」(~765年5月)
- 763年9月12日-08:00|中国| ||唐・廣徳1年8月|僕固懷恩がそむいた
- 763年9月29日-09:00|日本| ||天平宝字7年8月18日|儀鳳曆を廃止/大衍曆を用いる
- 763年9月29日-09:00|日本| ||天平宝字7年8月18日|山陽・南海兩道の節度使を廃止
- 763年11月5日-08:00|中国| ||唐・廣徳1年9月25日|涇州刺史の高暉が叛いて吐蕃についた
- 763年11月10日-08:00|中国| ||唐・廣徳1年10月1日|吐蕃が岷州を陥落させた
- 763年11月11日-08:00|中国| ||唐・廣徳1年10月2日|吐蕃が奉天、武功へ来寇
- 763年11月13日-08:00|中国| ||唐・廣徳1年10月4日|渭北行營兵馬使の呂日将が吐蕃とチュウツで戦い、これを破った
- 763年11月15日-08:00|中国| ||唐・廣徳1年10月6日|渭北行營兵馬使の呂日将が吐蕃とまたチュウツで戦い、敗れた
- 763年11月18日-08:00|中国| ||唐・廣徳1年10月9日|吐蕃が京師を陥落させ、広武郡王李承宏を立てて皇帝とした
- 763年11月21日-08:00|中国| ||唐・廣徳1年10月12日|吐蕃は潰え、郭子儀が京師を奪回
- 763年11月21日-08:00|中国| ||唐・廣徳1年10月12日|南山五穀の人の高玉がそむいた
- 763年12月12日-08:00|中国| ||唐・廣徳1年11月3日|広州市舶使の呂太一がそむき、その節度使の張休を追放
- 764年-01:00|イタリヤ| ||<就任>ヴェネツィア共和国第7代ドージェ(元首)「マウツィオ・ガルバイオ」(~787年)
- 764年 00:00|イギリス| ||<死去>ケント王「Eanmund」
- 764年 00:00|イギリス| ||<即位>ケント王「Heaberht Athelberhtes sunu」(~765年死去)、「Ecgerht Athelberhtes sunu」(~784年死去)
- 764年6月20日-08:00|中国| ||唐・廣徳2年5月17日|唐で初めて五紀曆を施行
- 764年7月4日-08:00|中国| ||唐・廣徳2年6月1日|汾州に星が落ちた
- 764年8月6日-08:00|中国| ||唐・廣徳2年7月5日|天下から青苗錢とゆう税を取り、これで百官の棒給を払った
- 764年8月18日-09:00|日本| ||天平宝字8年7月17日|東海道節度使を廃止
- 764年8月20日-09:00|日本/韓国| ||新羅・景德王23年7月19日|新羅使、博多に来朝
- 764年9月28日-08:00|中国| ||唐・廣徳2年8月28日|吐蕃が岷州を寇し、岷寧節度使の白孝徳が宜禄でこれを破った
- 764年10月10日-09:00|日本| ||天平宝字8年9月11日|恵美押勝(藤原仲麻呂)の乱/孝謙上皇の寵臣・道鏡を除こうと上皇孝謙女帝に対して天皇方として兵を挙げる
- 764年10月17日-09:00|日本|滋賀県|天平宝字8年9月18日|近江国琵琶湖船上にて太師恵美押勝(元名:藤原仲麻呂)、偽帝氷上塩焼(元名:塩焼王)、斬殺
- 764年10月21日-09:00|日本| ||天平宝字8年9月22日|恵美押勝の改めた官名を元に戻す
- 764年10月24日-08:00|中国| ||唐・廣徳2年9月25日|劍南節度使の嚴武が吐蕃と當狗城で戦い、これを破った
- 764年10月28日-09:00|日本| ||天平宝字8年9月29日|<任命>鎮守府將軍「田中多太麻呂」(~不詳)
- 764年10月29日-09:00|日本| ||天平宝字8年10月|僧都の山林修行を禁止
- 764年10月29日-08:00|中国| ||唐・廣徳2年10月|この月、突厥が豊州を寇し、守將の馬望がここに死んだ
- 764年10月30日-09:00|日本| ||天平宝字8年10月2日|放鷹司を廃止し放生司を設置
- 764年10月31日-08:00|中国| ||唐・廣徳2年10月3日|吐蕃が岷州を寇した
- 764年11月1日-08:00|中国| ||唐・廣徳2年10月4日|吐蕃が奉天を寇した
- 764年11月4日-08:00|中国| ||唐・廣徳2年10月7日|嚴武が吐蕃の塩川城を落とした
- 764年11月5日-08:00|中国| ||唐・廣徳2年10月8日|朔方兵馬使の郭晞が吐蕃と岷西で戦い、これを破った
- 764年11月6日-09:00|日本| ||天平宝字8年10月9日|<即位>第48代「称徳天皇」元孝謙天皇(阿倍) (~07700804)
- 764年11月6日-09:00|日本| ||天平宝字8年10月9日|<廢位>第47代「淳仁天皇」藤原仲麻呂と共謀したとして
- 764年11月6日-09:00|日本| ||天平宝字8年10月9日|淳仁天皇の兄弟にあたる船王を隱岐国へ、池田王を土佐国に配流
- 764年11月11日-09:00|日本|兵庫県淡路市|天平宝字8年10月14日|淳仁天皇(淡路廢帝)が淡路島に流される
- 764年11月29日-08:00|中国| ||唐・廣徳2年11月2日|吐蕃軍は潰えた/河西節度使の楊志烈が僕固懷恩と靈州で戦い、敗れた
- 764年12月9日-09:00|日本| ||天平宝字8年11月12日|西海道節度使を廃止
- 764年12月24日-08:00|中国| ||唐・廣徳2年11月27日|山南西道節度使張獻誠が玉を捕らえて献上/余盜も悉く平定
- 764年12月27日-09:00|日本|鹿児島県|天平宝字8年12月|<桜島天平宝字8年の噴火>大隅と薩摩兩國の境に当たる場所で煙のような雲によって天地が真っ暗闇となり、稲妻が飛び交った/七日後ようやく空は晴れたが、鹿児島島の信爾村の海では溶岩が固まって三つの島が出現/島々が連なってあずまやの屋根のようになった/島ができるとき埋められてしまった民家は62棟80余人
- 764年12月30日-08:00|中国| ||唐・廣徳2年12月4日|多くの星が落ちた
- 765年-05:30|インド| ||<建国>スリナガ

0800迄 (2112件)

765年-05:30|インド| |||<即位>パ・ンデヤ朝君主「Parantaka Nedunjadaiyan」(~815年)
765年-03:30|イラン| |||<即位>カリウアント王朝君主「Vindadhurmuzd」(~809年死去)
765年-01:00|フランス| |||<就任>オーベルニュ伯「Bertmond」(~778年)
765年 00:00|イギリス| |||<死去>ケント王「Heaberht Athelberhtes sunu」
765年 00:00|イギリス| |||<即位>サセックス王「Oslac」(~780年)、「Alfwald」(~772年)、「Ealdwulf」(~791年)
765年1月26日-09:00|日本| ||天平宝字9年|称徳天皇の勅願により常騰が西大寺創建(奈良県)<真言律宗総本山>
765年1月26日-08:00|中国| ||唐・永泰1年1月1日|朔、唐・代宗が永泰(-766年11月)と改元
765年2月1日-09:00|日本| ||天平神護1年1月7日|天平宝字から天平神護に改元
765年2月26日-09:00|日本| ||天平神護1年2月3日|授刀衛を近衛府と改め、外衛府の官員を定め、初めて内厩寮を設置
765年3月12日-08:00|中国| ||唐・永泰1年2月17日|党項羌が富平を寇した
765年3月30日-09:00|日本| ||天平神護1年3月5日|王臣の兵器私蔵を禁止
765年5月-02:00|ブルガリア| |||<即位>ブルガリア帝国ハン「ウメル」(~6月)
765年6月-02:00|ブルガリア| |||<即位>ブルガリア帝国ハン「トクトク」(~766年)
765年6月23日-09:00|韓国| ||新羅・景德王24年6月|<死去>新羅王「景德王」
765年6月23日-09:00|韓国| ||新羅・恵恭王1年6月|<即位>新羅王「恵恭王」8歳(~780年死去)太后が摂政となった
765年8月21日-09:00|日本| 京都府相楽郡|天平神護1年8月1日|和気王、謀叛により伊豆国配流の途上の山城国相楽郡にて絞殺。巫鬼紀益女、綴喜郡松井村にて絞殺
765年9月10日-08:00|中国| ||唐・永泰1年8月21日|僕固懐恩が吐蕃・回コツ・党項羌・渾・奴刺とともに辺境を寇した
765年9月27日-09:00|日本| ||天平神護1年9月8日|新銭神功開宝を鑄造
765年10月4日-08:00|中国| ||唐・永泰1年9月15日|吐蕃が醴泉・奉天を寇し、党項羌が同州を寇し、渾・奴刺がチュウツを寇した
765年10月17日-08:00|中国| ||唐・永泰1年9月28日|同華節度使の周智光が吐蕃と澄城で戦い、これを破った
765年10月19日-08:00|中国| ||唐・永泰1年10月|僕固懐恩の乱が平定された
765年10月19日-08:00|中国| ||唐・永泰1年10月1日|吐蕃が岷州にいたり、回コツとともに辺境を寇した
765年10月21日-08:00|中国| ||唐・永泰1年10月3日|吐蕃が奉天を寇した
765年10月23日-08:00|中国| ||唐・永泰1年10月5日|吐蕃が同州を寇した
765年10月25日-08:00|中国| ||唐・永泰1年10月7日|吐蕃が興平を寇した
765年10月30日 00:00|イギリス| |||<即位>ノーザンブリア王「Ealhraed Eanwines sunu」(~774.4廃位追放)
765年10月30日 00:00|イギリス| |||<廃位>ノーザンブリア王「Athelwald Moll」
765年11月2日-08:00|中国| ||唐・永泰1年10月15日|郭子儀が吐蕃と靈台で戦い、これを破った
765年11月10日-09:00|日本| ||天平神護1年10月23日|<死去>47代淳仁天皇/33歳(誕生:天平5(733))廃帝
765年11月19日-09:00|日本| ||天平神護1年閏10月2日|道鏡を太政大臣禪師とする
765年11月20日-08:00|中国| ||唐・永泰1年閏10月3日|朔方副将の李懐光が靈州を落とした
765年12月10日-08:00|中国| ||唐・永泰1年閏10月23日|劍南西山兵馬使崔加がそむき、成都を寇し、節度使の郭英又は靈池に逃れ、普州刺史の韓澄がこれを殺した
766年-08:00|インドネシア| |||<即位>スンダ王国マハラジャ「Rakeyan Medang Prabu Hulukujang」(~783年)
766年-02:00|ブルガリア| |||<即位>ブルガリア帝国ハン「バカン」(~767年)
766年3月15日-08:00|中国| ||唐・永泰2年2月|吐蕃が遣使して来朝
766年4月14日-09:00|日本| 栃木県日光市|天平神護2年3月|勝道上人、四本竜寺創建
766年5月11日-08:00|中国| ||唐・永泰2年3月28日|劍南東川節度使の張献誠が崔加と梓州で戦い、敗れた
766年7月16日-09:00|日本| 鹿児島県|天平神護2年6月5日|これより前大隅神造新島で地震/民多く流亡/桜島噴火
766年11月5日-08:00|中国| ||唐・永泰2年9月28日|吐蕃が原州を陥落させた
766年12月18日-08:00|中国| ||唐・大暦1年11月12日|唐・代宗が大暦(-779)と改元
767年-08:00|インドネシア/ベトナム| |||シャイレンドラ朝(中部ジャワ)ベトナム北部に侵入、放火・掠奪を働く
767年-02:00|ブルガリア| |||<即位>ブルガリア帝国ハン「テリグ」(~777年死去)
767年-01:00|イタリア| |||<即位>パトリク「ケレゴリ-2世」(~794年死去)
767年1月26日-08:00|中国| ||唐・大暦1年12月22日|周智光がそむき、加州刺史の杓充を殺した
767年2月4日-08:00|中国| ||唐・大暦2年|<即位>ホーケン王「尉遲曜」(~802年))
767年2月11日-08:00|中国| ||唐・大暦2年1月8日|同華の将の李漢恵が同州をもって降った
767年2月16日-08:00|中国| ||唐・大暦2年1月13日|周智光が処刑された
767年4月22日-09:00|日本| ||天平神護3年3月20日|法王宮職を設置
767年5月16日-09:00|日本| 奈良県奈良市|天平神護3年4月14日|東院の玉殿完成/瑠璃瓦を葺き、時の人は玉宮という
767年6月28日-01:00|パチン| |||<死去>第94代ローマ教皇「パウル1世」
767年7月5日-01:00|パチン| |||<就任>対立ローマ教皇「コンスタンティヌス2世」(~768/730廃位)
767年7月30日-08:00|中国| ||唐・大暦2年秋|桂州の山リョウがそむいた
767年7月30日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||新羅・恵恭王3年7月|金隠居を唐に朝貢使として派遣
767年8月8日-09:00|日本| ||天平神護3年7月10日|内堅省を設置
767年9月13日-09:00|日本| ||神護景雲1年8月16日|天平神護から神護景雲に改元

0800迄 (2112件)

767年10月4日-08:00|中国| ||唐・大暦2年9月7日|吐蕃が靈州を寇した
767年10月5日-08:00|中国| ||唐・大暦2年9月8日|吐蕃がヒ州を寇した
767年10月28日-08:00|中国| ||唐・大暦2年10月2日|朔方軍節度使の路嗣恭が吐蕃と靈州で戦い、これを破った
767年11月10日-09:00|日本|宮城県栗原市|神護景雲1年10月15日|陸奥国伊治城完成
768年-01:00|フランス| ||<死去>アキテーヌ公「ワイファリ」
768年-01:00|フランス| ||<即位>アキテーヌ公「ウナル2世」(~769年)
768年-01:00|フランス/パチカン| ||フランク王国が十分の一税を導入、ローマ教会の財政基盤とする
768年 06:00|グアテマラ| ||<即位>ティカル王「ヤシュ・ヌン・アイン2世」(~790年)
768年-01:00|フランス| ||フランク王国、アキタニアを統合
768年1月14日-01:00|スペイン| ||<死去>アストゥリアス王「フルエラ1世残酷王」
768年1月14日-01:00|スペイン| ||<即位>アストゥリアス王「アウレオ」(~774年死去)
768年1月24日-08:00|中国/インドネシア| ||唐・大暦3年|訶陵国の中国への朝貢が再開される(~870年)
768年3月-03:30|イラン| ||イラン系豪族のハリードがタハリスターの太守に就任
768年3月21日-09:00|日本|福岡県糸島市|神護景雲2年2月28日|筑前国怡土城完成
768年3月23日-08:00|中国| ||唐・大暦3年3月1日|朔、日食があった
768年7月30日-01:00|パチカン| ||<廃位>対立ローマ教皇「コンスタンティヌス2世」
768年7月31日-01:00|パチカン| ||<就任>対立ローマ教皇「フィリップス」
768年8月6日-01:00|パチカン| ||<廃位>対立ローマ教皇「フィリップス」
768年8月7日-01:00|パチカン| ||<就任>第95代ローマ教皇「ステファヌス4世」(~7720114死去)
768年8月17日-09:00|韓国| ||新羅・恵恭王4年7月|新羅、一吉サ(7等官)大恭・阿サ(6等官)大廉の兄弟の反乱/王都を33日間包囲するが王の軍隊が平定
768年8月17日-08:00|中国| ||唐・大暦3年7月1日|瀘州刺史楊子琳がそむき、成都を陥すと、劍南節度留後の崔寛がこれを破り、成都を落とした
768年8月23日-08:00|中国| ||唐・大暦3年7月7日|吐蕃が遣使して来朝した
768年9月23日-08:00|中国| ||唐・大暦3年8月8日|吐蕃が靈州を寇した
768年9月24日-01:00|フランス| ||<死去>フランク王「ハロ」3世(短身王)|カリング家(誕生714年)
768年9月28日-01:00|フランス/ベルギー/ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| ||<死去>フランク王(共同統治)「カールマン」(フランクンティア・レマニア・南オーストリア~771年),「カール大帝シャルルマーニュ」(ネウストリア・アキテーヌ・北オーストリア→774年ランゴバルト王→800年皇帝~814年)
768年10月11日-08:00|中国| ||唐・大暦3年8月26日|吐蕃がヒ州を寇した
768年10月12日-08:00|中国| ||唐・大暦3年8月27日|ヒ寧節度使の馬引が吐蕃と戦い、これを破った
768年10月18日-09:00|日本| ||神護景雲2年9月4日|<任命>鎮守府將軍「石川名足」(~不詳)
768年10月26日-08:00|中国| ||唐・大暦3年9月12日|吐蕃が靈州を寇し、朔方の將の白元光がこれを破った
768年11月5日-08:00|中国| ||唐・大暦3年9月22日|朔方の將の白元光が吐蕃をまた靈武で破った
768年12月22日-09:00|日本|奈良県奈良市|神護景雲2年11月9日|左大臣藤原永手が藤原氏の氏社として春日大社創建
769年-05:30|スリランカ| ||シハラ王のアガホーディ4世が、アヌラダプラからポロンナルワに政府を移す
769年-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第9代アミール「アブダラ・イブン・アブド・アルマン・イブン・ムアウィヤ・イブン・フグアイ・アルツビ」(~772)
769年 00:00|イギリス| ||<死去>イーストアングリア王「Beorna」
769年2月2日-08:00|中国| ||唐・大暦3年12月21日|涇原兵馬使の王童之が反乱を計画し、処刑された
769年2月11日-08:00|中国| ||南詔・長寿1年|南詔の閣羅鳳が長寿(-779年)と改元
769年3月29日-09:00|日本|宮城県石巻市|神護景雲3年2月17日|陸奥国桃生城完成
769年7月3日-09:00|日本| ||神護景雲3年5月25日|称徳天皇呪詛の罪により聖武天皇皇女不破内親王、厨真人厨女として京外追放/子の氷上志計志麻呂、土佐国に配流
769年7月7日-09:00|日本| ||神護景雲3年5月29日|県犬養姉女、巫蠱の罪により犬部姉女に名を改められ、配流
769年7月16日-09:00|日本|宮城県|神護景雲3年6月9日|陸奥国に栗原郡が置かれる
769年9月17日-09:00|日本| ||神護景雲3年8月14日|下総国猿嶋郡の正倉穀物六千四百余斛が焼失/次いで、入間郡出雲伊波比神の祟りにより郡の正倉や糶穀が焼失
769年10月27日-09:00|日本| ||神護景雲3年9月25日|道鏡の皇位への野望を宇佐八幡の神託で退けた和氣清麻呂が、稱徳天皇の怒りを買って別部稚麻呂と名を改めさせられ大隈国に配流/姉・法均は別部広虫売と名を改めさせられ備後国に配流
769年12月1日-09:00|日本|大阪府八尾市|神護景雲3年10月30日|河内国由義宮を西京とする
769年12月12日-08:00|中国| ||唐・大暦4年11月11日|吐蕃が靈州を寇し、朔方軍節度留後の常謙光がこれを破った
769年12月14日-09:00|日本/韓国| ||新羅・恵恭王5年11月12日|新羅使来朝
770年-07:00|ベトナム| ||<即位>チャンパ王「サティウアルマン」(~787年)
770年-05:30|インド| ||インド、エローのカラサナータ寺院開掘
770年-01:00|アルバニア| ||<即位>ミラネ朝(アルバニア)大公「Gagikh」(~790年)
770年 00:00|アイルランド| ||<即位>アイルランド上王「ドンチャド・マック・ドムネイル」(~7970206没)
770年 00:00|アイスランド| ||このころ、ノルマン人「アイキング」がアイスランドへ移住
770年2月1日-09:00|日本|京都府京都市左京区|神護景雲4年|鑑真の高弟鑑禎が毘沙門天を祀って鞍馬寺創建<鞍馬弘教総本山>

0800迄 (2112件)

770年2月1日-09:00|日本|和歌山県和歌山市|神護景雲4年|唐僧・為光上人によって紀三井寺創建<救世観音宗総本山>
770年2月1日-08:00|中国| ||唐・大暦5年|杜甫が放浪の旅先の湖南省湘江の舟の中で病気のため死去/58歳(誕生:0712)。唐・詩人
770年2月1日-08:00|中国/日本| ||神護景雲4年1月|<死去>阿倍仲麻呂(73歳)遣唐留学生/玄宗皇帝に重用され長安で没
770年5月25日-09:00|日本| ||神護景雲4年4月26日|<完成>百万塔陀羅尼(世界最古の印刷物)
770年6月15日-08:00|中国| ||唐・大暦5年5月18日|彗星が北方に出現
770年8月25日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・恵恭王6年8月|金融の反乱
770年8月28日-09:00|日本| ||神護景雲4年8月4日|<死去>第48代「称徳天皇」(46代孝謙天皇)/53歳(誕生:養老2(718))女帝
770年9月14日-09:00|日本|栃木県下野市|神護景雲4年8月21日|道鏡が失脚し下野・薬師寺別当に配流
770年9月15日-09:00|日本|高知県|神護景雲4年8月22日|弓削清人らを土佐国に配流
770年9月26日-09:00|日本| ||神護景雲4年9月3日|令外官が多い為、要司を除き廃止
770年9月29日-09:00|日本| ||神護景雲4年9月6日|大隅国へ配流されていた和氣清麻呂が道鏡失脚に伴い都に召還
770年10月9日-09:00|日本| ||神護景雲4年9月16日|<任命>鎮守府将軍「坂上苺田麻呂」(~不詳)
770年10月23日-09:00|日本| ||宝亀1年10月1日|<即位>第49代「光仁天皇」天智天皇の孫・白壁王(~07810403)
770年10月23日-09:00|日本| ||宝亀1年10月1日|「寶亀」に改元
771年-01:00|フランス| ||<就任>カールマートワ伯「Fulrad」⇒「Guntard」(~833年)
771年3月21日-08:00|中国| ||唐・大暦6年3月|王杳が梁崇奉を破り、容州を落とした
771年4月2日-09:00|日本| ||宝亀2年3月13日|藤原良継が内臣に就任
771年4月20日-09:00|日本| ||宝亀2年閏3月1日|<任命>鎮守府将軍「佐伯美濃」(~不詳)
771年6月9日-08:00|中国| ||唐・大暦6年4月22日|王杳が藍田の西原の地を陥落させた
771年7月9日-09:00|日本|大分県速見郡|宝亀2年5月23日|豊後速見郡敵見で山崩れ/川を堰止め、十余日後に決壊/百姓47人が漂流し家43区が埋没
771年8月12日-09:00|日本/中国/朝鮮| ||宝亀2年6月27日|渤海使、出羽国の賊地野代湊に着く
771年12月4日-01:00|フランス/ベネチア/ドイツ/イタリア/オランダ| ||<死去>フランク共同統治王カールマン死去→カール大帝の単独統治
771年12月7日-09:00|日本| ||宝亀2年10月27日|武蔵国は東山道より東海道の属する
771年12月11日-09:00|日本| ||宝亀2年11月|西南に星隕
772年-05:30|インド| ||<即位>東チャールキヤ朝君主「Vishnuvardhana4世」(~808年)
772年-03:30|イラン| ||<死去>パハント朝太守「Surkhab2世」
772年-03:30|イラン| ||<即位>パハント朝太守「Sharwin1世」(~817年死去)
772年-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第10代アミール:ムハマト・ヒベン・アブド・アルマン・ヒベン・ムアウヤ・ヒベン・フグイ・アルヒビ(~772死去)→同年<就任>第11代アミール:ムサ・ヒン・アリ・ヒン・ラバール・アルフミ(~778)
772年-01:00|フランス/ドイツ| ||フランク王国のカール大帝がザクセンに遠征し、ザクセン人の聖地イルミナルを破壊
772年 00:00|イギリス| ||セックスをマリアが併合。公爵の知事として王朝継続(~825年)
772年1月14日-01:00|パチカン| ||<死去>第95代ローマ教皇「ステファヌス4世」
772年2月1日-01:00|パチカン| ||<就任>第97代ローマ教皇「ハドリアヌス1世」(~07951226死去)
772年3月9日-09:00|日本| ||宝亀3年2月|内賢省を廃止
772年4月9日-09:00|日本| ||宝亀3年3月2日|藤原百川の密告により、巫蠱厭魅大逆の罪で光仁天皇皇后井上内親王、廃后/粟田広上・安都堅石女、遠流
772年5月13日-09:00|日本|栃木県下野市|宝亀3年4月7日|道鏡/下野で没
772年6月12日-09:00|日本| ||宝亀3年5月7日|藤原浜成、「歌経標式(浜成式)」撰上
772年7月5日-09:00|日本| ||宝亀3年6月|京師に隕石
772年7月5日-09:00|日本| ||宝亀3年6月1日|日蝕
772年8月12日-09:00|日本| ||宝亀3年7月9日|<死去>衣縫内親王(父:天智天皇皇子施基親王)
772年10月31日-09:00|日本| ||宝亀3年10月|朝廷が墾田永年私財法を撤廃し、寺院以外の開墾の禁を解除
773年 00:00|イギリス| ||<死去>ホイス王「Brochfael ap Elisedd」
773年 00:00|イギリス| ||<即位>ホイス王「Cadell ap Brochfael」(~808年死去)
773年1月10日-09:00|日本| ||宝亀3年12月13日|星が雨のように降る
773年1月20日-09:00|日本| ||宝亀3年12月23日|彗星が南に現れる
773年3月3日-09:00|日本|栃木県|宝亀4年2月6日|下野国で火災があり、正倉14宇、穀糶23,400斛が焼失
773年3月24日-09:00|日本|奈良県奈良市|宝亀4年2月27日|楊梅宮、完成/高麗福信が造営を指揮
773年4月10日-09:00|日本| ||宝亀4年3月14日|穀物騰貴のため常平法を定める
773年5月26日-09:00|日本| ||宝亀4年5月|南北に各一つずつ星隕あり
773年6月25日-09:00|日本| ||宝亀4年6月1日|日蝕
773年7月6日-09:00|日本/朝鮮/中国| ||宝亀4年6月12日|渤海使、能登国に漂着/24日、渤海使の非礼により却還
773年8月13日-09:00|日本| ||宝亀4年7月21日|<任命>鎮守府将軍「大伴駿河麻呂」(~7760726(宝亀7年7月7日))
773年9月7日-08:00|中国| ||唐・大暦8年8月16日|吐蕃が靈州を寇し、郭子儀が七級渠でこれを破った
773年9月30日-08:00|中国| ||唐・大暦8年9月10日|循州刺史の哥舒晃がそむき、嶺南節度使の呂崇賁を殺した

0800迄 (2112件)

- 773年11月3日-09:00|日本| ||宝亀4年10月14日|<死去>難波内親王(父:天智天皇皇子施基親王、光仁天皇同母姉)
- 773年11月7日-08:00|中国| ||唐・大曆8年10月18日|吐蕃、岷州、岷州に侵入
- 773年11月8日-09:00|日本|奈良県五條市|宝亀4年10月19日|難波内親王を呪詛し殺害した巫蠱・厭魅の罪で、井上内親王と連座した他戸親王は庶人に落とされ、大和国宇智郡の没官の邸に幽閉された
- 773年11月13日-08:00|中国| ||唐・大曆8年10月24日|朔方兵馬使の渾シが吐蕃と宜禄で戦い、敗れた/涇原節度使の馬リが吐蕃と潘原で戦い破った
- 774年-08:00|インドネシア/ベトナム| ||シャイレント朝(中部ジャワ)はチャンパ-を襲撃、シヴァ神殿を掠奪
- 774年-05:30|インド| ||<即位>ハ-ラ朝国王「タムハ-ラ」(~806年)
- 774年-05:30|インド| ||<即位>ラ-シュトラク-タ朝国王「ゴ-ウ-ンダ」2世(~780年)
- 774年-01:00|スペイン| ||<死去>アストゥリアス王「アウレオ」
- 774年-01:00|イタリヤ| ||<就任>フリウリ領主「フロトガウト」(~776年)
- 774年-01:00|スペイン| ||<即位>アストゥリアス王「シロアルフォンソ」1世の娘で自身の妻であるアトシダを介して王位を継承(~783年死去)首都をブルゴシアに移転
- 774年-01:00|イタリヤ| ||<即位>スレート公「ヒルテフランド」(~789年)
- 774年-01:00|クロアチア/フランス| ||タムチアはフランク王国領化
- 774年 00:00|イギリス| ||<即位>グウェント王「Athrwys ap Ffernfael」(~810年)
- 774年2月16日-08:00|中国| ||渤海・宝曆1年|渤海の大欽茂が宝曆に改元
- 774年3月18日-08:00|中国| ||唐・大曆9年2月2日|徐州の兵が乱を起こし、その刺史の梁乗を追放
- 774年4月 00:00|イギリス| ||<即位>ノザンブリア王「Athelraed Athelwaldes sunu (Athelred1世)」(1期目~779. 2廃位)
- 774年4月 00:00|イギリス| ||<廃位>ノザンブリア王「Ealhraed Eanwines sunu」追放
- 774年4月19日-09:00|日本/韓国| ||新羅・恵恭王10年3月4日|新羅使、藤原清河の書を持参し大宰府に到着するも非礼あって放還/5月17日、大宰府に命じ放還させる
- 774年6月5日-01:00|イタリヤ/フランス| ||<死去>イタリヤ王・ランゴバルド王「テジデ-リオ」フランク王カロ・マーニョの遠征軍に滅ぼされた
- 774年7月10日-01:00|イタリヤ/フランス| ||<即位>イタリヤ王・ランゴバルド王「カロ1世マクス」(~07810415)、代行「ベネント公アリチ」(~07810415)
- 774年9月5日-09:00|日本|宮城県石巻市|宝亀5年7月25日|朝廷が陸奥国桃生郡に築いた城柵である桃生城を反乱を起こした海道蝦夷が襲撃/戦闘状態が続く
- 774年10月10日-09:00|日本|宮城県|宝亀5年9月頃|鎮守大將軍大伴駿河麻呂が海道蝦夷の拠点のひとつである陸奥国遠山村を征圧
- 774年11月12日-09:00|日本| ||宝亀5年10月4日|鎮守將軍大伴駿河麻呂、蝦夷平定
- 775年-08:00|インドネシア| ||<即位>古マラム王国国王「ライハ-ンガラン」(~800年)
- 775年-08:00|インドネシア| ||<即位>シャイレント朝国王「タラントラ」(~800年)
- 775年-04:00|ジョージア| ||<再任>イバ-リア公「ネリス」(~779年)
- 775年 00:00|イギリス| ||<死去>ヒ-外王「Cinaedh mac Feradaigh (Kenneth2世)」
- 775年 00:00|イギリス| ||<即位>ヒ-外王「Ailpin mac Feradaigh (Alpin2世)」(~780年死去)
- 775年1月27日-09:00|日本| ||宝亀5年12月22日|<死去>円方女王(父:長屋王、母:藤原長娥子、第15代伊勢斎王)
- 775年2月7日-08:00|中国| ||唐・大曆10年1月3日|昭義軍兵馬使の裴志清がその節度使の薛がクを追放し、叛いて田承嗣についた
- 775年2月18日-08:00|中国| ||唐・大曆10年1月14日|田承嗣がそむいた
- 775年2月25日-08:00|中国| ||唐・大曆10年1月21日|劍南西川節度使の崔寧が吐蕃と西山で戦い、これを破った
- 775年3月7日-08:00|中国| ||唐・大曆10年2月2日|田承嗣が衛州を陥落させ、刺史の薛雄がここに死んだ/また孫知古に迫って磁州、相州を降した
- 775年3月18日-08:00|中国| ||唐・大曆10年2月13日|河陽軍で乱が起こり、三城使の常休明を追放
- 775年4月5日-08:00|中国| ||唐・大曆10年3月1日|陝州軍で乱が起こり、その觀察使の李国清を追放
- 775年5月30日-09:00|日本| ||宝亀6年4月27日|井上内親王・他戸親王母子が幽閉先で急死(同じ日に二人が亡くなるという不自然な死には暗殺説も根強い)。これによって天武天皇の皇統は完全に絶えた
- 775年6月5日-08:00|中国| ||唐・大曆10年5月3日|魏博の將の霍栄国が磁州をもって降った
- 775年6月21日-08:00|中国| ||唐・大曆10年5月19日|李宝臣が德州を攻めてこれを攻略
- 775年7月3日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・恵恭王11年6月|金隱居の反乱
- 775年7月11日-08:00|中国| ||唐・大曆10年6月9日|田承嗣は裴志清をやって冀州を攻めたが裴志清は李宝臣に降ってしまった
- 775年7月14日-08:00|中国| ||唐・大曆10年6月12日|田承嗣は自ら冀州を攻めて困んだが張孝忠がやってくることを知ると輜重を焼き捨てて退却
- 775年8月31日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・恵恭王11年8月|廉相、侍中の正門が反乱を企てたことが発覚して誅滅された
- 775年9月14日-02:00|トルコ/バルバトス| ||<死去>東ローマ帝国(イウリア朝)皇帝「コンスタンティノス5世コプロニウス」/57歳(誕生719年)
- 775年9月14日-02:00|トルコ/バルバトス| ||<即位>東ローマ帝国(イウリア朝)皇帝「レオン4世ハサロス」コンスタンティノス5世とイレネ-の子(~07800908死去)

0800迄 (2112件)

775年9月21日-09:00|日本| ||宝亀6年8月22日|<宝亀6年東海風水害>伊勢、尾張、美濃三国が暴風雨に襲われ、木曾川水系が大洪水になり、百姓(農民)300余人、馬や牛が1000頭余が流された/国分寺(諸国を鎮護する国立の寺)ならびにその他の寺でらの堂塔19か所が崩壊

775年10月6日-03:00|イラク| ||<死去>バグダート・アッバース朝第2代カリフ「マンスール」病死

775年10月6日-03:00|イラク| ||<即位>バグダート・アッバース朝第3代カリフ「マフディー」(~07850724死去)

775年10月20日-08:00|中国| ||唐・大暦10年9月21日|吐蕃が臨湟を寇した

775年10月21日-08:00|中国| ||唐・大暦10年9月22日|吐蕃が隴州を寇した

775年10月24日-08:00|中国| ||唐・大暦10年9月25日|鳳翔節度使の李抱玉が義寧で吐蕃軍を破った

775年10月25日-08:00|中国| ||唐・大暦10年9月26日|馬リツがまた百里城で吐蕃軍を破った

775年10月29日-08:00|中国/日本| ||宝亀6年;唐・大暦10年10月1日|朔、日食があった

775年10月30日-09:00|日本| ||宝亀6年10月2日|<死去>吉備真備(83、学者・政治家)

775年11月1日-08:00|中国| ||唐・大暦10年10月4日|昭義軍節度使の李承昭が田承嗣と清水で戦い、これを破った

775年11月10日-09:00|日本| ||宝亀6年10月13日|初めて天長節を行う

775年12月4日-08:00|中国| ||唐・大暦10年11月7日|田承嗣の将の呉希光が瀛州をもって降った

775年12月14日-08:00|中国| ||唐・大暦10年11月17日|嶺南節度使の路嗣恭が廣州を落とし叛乱した哥舒晃が処刑された

775年12月27日-08:00|中国| ||唐・大暦10年12月|ウイグル軍千騎が夏州に威嚇攻撃し梁栄宗が烏水にてこれを破った/郭子儀もまた三千騎でこれを追うとウイグル兵は遁走

776年-03:30|イラン| ||ムンナーが隠れメシアとしてのアブームスリムの再臨を説いてホーサンに反乱(~783)

776年-01:00|イタリヤ| ||<即位>フウリカ「マルカウス」(~787年)

776年-01:00|アルジェリア| ||<即位>ムスリム朝イマム「アブドゥッラフマン・イブン・ムスタム」建国(~788年)

776年1月24日-09:00|日本| ||宝亀7年|出羽国の蝦夷反乱し下総・下野・常陸などの騎兵を発してこれを討つ

776年1月24日-09:00|日本| ||宝亀7年|陸奥国、軍士2万人を発して山海二道のエシを攻める。胆沢のエシを討つ

776年1月26日-08:00|中国| ||唐・大暦11年1月3日|田承嗣が降った

776年2月16日-08:00|中国| ||唐・大暦11年1月24日|唐・劍南節度使・崔寧、突厥、吐谷渾などの軍20万を破る

776年4月21日-09:00|日本| ||宝亀7年4月1日|日蝕

776年5月20日-08:00|中国| ||唐・大暦11年5月|李靈耀がそむき、濮州刺史の孟鑿を殺した

776年5月21日-09:00|日本| ||宝亀7年5月2日|出羽国志波村で賊が反逆したため応戦したが官軍が不利となり、下野国ほか下総、常陸等から発した国騎兵がこれを征伐

776年7月24日-08:00|中国| ||唐・大暦11年7月7日|田承嗣が滑州を寇し、永平軍節度使の李勉を攻撃してこれを破った

776年10月27日-08:00|中国| ||唐・大暦11年9月13日|淮西節度使の李忠臣と河陽三城使の馬燧が李靈耀と鄭州で戦い、敗れた

776年11月16日-08:00|中国| ||唐・大暦11年10月3日|李忠臣と馬燧が李靈耀と中牟で戦い、これを破った

776年11月23日-08:00|中国| ||唐・大暦11年10月10日|李忠臣はまた西梁固で李靈耀を破った

776年12月3日-08:00|中国| ||唐・大暦11年10月20日|淮南節度使の陳少遊が李靈耀とペン州で戦い、これを破った

776年12月7日-08:00|中国| ||唐・大暦11年10月24日|田承嗣が兵をもって李靈耀を救援し、李忠臣が匡城でこれを破った

776年12月15日-08:00|中国| ||唐・大暦11年11月2日|李忠臣は李靈耀を捕らえて処刑

777年-02:00|ブルガリア| ||<死去>ブルガリア帝国ハ「テリグ」

777年-02:00|ブルガリア| ||<即位>ブルガリア帝国ハ「カルダム」(~796年)

777年1月8日-09:00|日本|岩手県|宝亀7年11月26日|陸奥国の軍で胆沢の賊を討つ

777年2月2日-09:00|日本/朝鮮/中国| ||宝亀7年12月22日|渤海使来朝

777年4月12日-09:00|日本| ||宝亀8年2月30日|日蝕あり

777年5月27日-08:00|中国| ||唐・大暦12年4月16日|吐蕃が黎・雅の二州を寇し、崔寧がこれを破った

777年6月2日-09:00|日本/中国| ||宝亀8年4月22日|小野石根を唐に派遣(第11回遣唐使)

777年7月2日-09:00|日本/中国/朝鮮| ||宝亀8年5月23日|高麗殿継、遣渤海使に任じられる/翌年9月、帰国

777年10月23日-09:00|日本| ||宝亀8年9月18日|<死去>内大臣藤原良継(62)

777年10月27日-08:00|中国| ||唐・大暦12年9月22日|吐蕃が坊州を寇した

777年12月8日-08:00|中国| ||唐・大暦12年11月4日|山南西道節度使の張獻恭が吐蕃と岷州で戦い、これを破った

778年-04:00|ロシア| ||<建国>ラク国家がゾムク

778年-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第12代アミール・イ・イブン・ルクマン(~779解任)

778年-01:00|フランス| ||<就任>オベルニュ伯「Icterius」

778年-01:00|フランス| ||<就任>トウルーズ伯「トロン」(~790年、シャルルマーニュにより廃位)

778年-01:00|フランス| ||<就任>パリ伯「エティエンヌ」(~811年)

778年 00:00|イギリス| ||<死去>ダールアタ王「Aedh find mac Eochadha」

778年 00:00|イギリス| ||<即位>ダールアタ王「Fergus mac Eochadha」(~781年死去)

778年1月4日-09:00|日本| ||宝亀8年12月|<任命>鎮守府将軍「紀広純」(~不詳)

778年1月12日-08:00|中国| ||唐・大暦12年12月10日|崔寧が吐蕃と西山で戦い、これを破った

0800迄 (2112件)

778年1月17日-09:00|日本|岩手県|宝亀8年12月14日|出羽国軍、蝦夷志波村の賊徒に敗退
778年1月29日-09:00|日本| ||宝亀8年12月26日|出羽国の蝦夷叛乱/官軍利なく器仗損失
778年2月22日-08:00|中国| ||唐・大暦13年1月21日|回コツが并州を寇した
778年2月27日-08:00|中国| ||唐・大暦13年1月26日|河東節度留後の鮑防が回コツと陽曲で戦い、敗れた
778年3月6日-08:00|中国| ||唐・大暦13年2月3日|代州刺史の張光晟が回コツと羊虎谷で戦い、これを破った
778年4月4日-09:00|日本| ||宝亀9年3月3日|藤原魚名が内臣に就任
778年5月29日-08:00|中国| ||唐・大暦13年4月28日|吐蕃が靈州を寇し、常謙光がこれを破った
778年6月26日-09:00|日本| ||宝亀9年5月27日|<死去>坂合部内親王(父:天智天皇皇子施基親王、光仁天皇異母姉)
778年8月-01:00|フランス/スペイン| |||カル大帝がイスパニアへ遠征し、サラゴサを攻撃
778年8月15日-01:00|フランス| |||<死去>ナント伯「Roland」
778年8月27日-09:00|日本| ||宝亀9年8月1日|日蝕
778年12月1日-09:00|日本| ||宝亀9年11月8日|遣唐使船第一船、難破/遣唐副使小野石根及び唐使ら溺死
779年-04:00|ジョージア| |||<再任>イェリア公「ステファン3世」(~786年)
779年-03:00|イラク/トルコ| |||アッバース朝ハールンがビザンティンへ遠征
779年-02:00|エジプト| |||<就任>アッバース朝エジプト第13代アミール:ウァデーイー(~779解任)→同年<就任>第14代アミール:マナー・ビーン・ヤズド・ビーン・マンスール(~779解任)→<就任>第15代アミール:ヤーヤ・ビーン・サイド・アルハラシ(~780解任)
779年-01:00|フランス/ドイツ| |||カル大帝がザクセン人の反乱を鎮圧
779年1月22日-08:00|中国| ||唐・大暦14年|<死去>回鶻可汗国第3代可汗「牟羽可汗・英義建功可汗(移地健)テガリテ・クトホルミシュ・イル・トクトミシュ・アルフ・キュルク・ビルク・カゴン」宰相の頓莫賀達干(トクバガ・トルカシ)によりその近親者および九姓胡(ソグド人)ら2千人とともに殺害
779年1月22日-08:00|中国| ||唐・大暦14年|<即位>回鶻可汗国第4代可汗「武義成功可汗・長寿天親可汗(頓莫賀達干)アルフ・クトルク・ビルク・カゴン」(~貞元5年(789年)12月)
779年1月26日-09:00|日本/中国/朝鮮| ||宝亀10年1月5日|渤海使朝貢
779年2月 00:00|イギリス| |||<即位>ノザンブリア王「Alfwald Oswulfes sunu(Alfwald1世)」(~07880923殺害される)
779年2月 00:00|イギリス| |||<廃位>ノザンブリア王「Aethelraed Aethelwaldes sunu(Athelred1世)」
779年2月28日-09:00|日本| ||宝亀10年2月8日|淡海三船「唐大和上東征伝」(鑑真和上の伝記)撰上
779年3月5日-09:00|日本/韓国| ||宝亀10年2月13日|下道長人、遣新羅使に任じられる
779年4月21日-09:00|日本/中国| ||唐・大暦14年4月|唐使孫興進、入京
779年5月21日-09:00|日本/中国| ||宝亀10年5月|第15次遣唐使派遣/布勢清直、甘南備清野
779年6月10日-08:00|中国| ||唐・大暦14年5月21日|<死去>唐第11代皇帝「代宗李豫」紫宸の内殿にて
779年6月12日-08:00|中国| ||唐・大暦14年5月23日|<即位>唐第12代皇帝「徳宗李琩」(~貞元21年1月23日(805年2月25日)死去)
779年8月16日-08:00|中国| ||唐・大暦14年7月1日|朔、日食があった
779年9月15日-09:00|日本/韓国| ||宝亀10年8月|遣新羅使(交流のため)
779年9月15日-08:00|中国| ||南詔・長寿11年8月|<死去>南詔王「閣羅鳳」
779年9月15日-08:00|中国| ||南詔・長寿11年8月|<即位>南詔王「異牟尋」(~808年)
779年10月15日-09:00|日本/中国/朝鮮| ||宝亀10年9月|鉄利人(渤海と対立していたツングース系部族)と合わせて359人の渤海使が出羽国に到着来朝/進表などの無礼を責める
779年11月13日-08:00|中国| ||唐・大暦14年10月1日|吐蕃と雲南蛮が黎・茂・文・扶四州を寇し、鳳翔節度使の朱泚と金吾衛大將軍の曲環が七盤城でこれを破った
780年-07:00|カボジャ| |||<即位>チェンラ王「マヒパティウアルマン」(~788年)
780年-05:30|インド| |||<即位>プラティハール朝国王「ウァツツアラージャ」(~800年)
780年-05:30|インド| |||<即位>ラシュトラクータ朝国王「ドゥルヴァ」(~793年死去)
780年-05:30|インド| |||<即位>ラシュトラクータ朝国王「ドゥルヴァ」(~793年)
780年-04:00|ジョージア| |||<即位>アブハジア王「レオン2世」建国(~828年)
780年-02:00|エジプト| |||<就任>アッバース朝エジプト第16代アミール:サリム・ビーン・サワダ・アルクミ(~781解任)
780年 00:00|イギリス| |||<死去>ピクト王「Ailpin mac Feradaigh(Alpin2世)」
780年 00:00|イギリス| |||<即位>ストラスカイト王「Riderch」(~800年)
780年 00:00|イギリス| |||<即位>ピクト王「Talorcan mac Oenghusa(Talorgan2世)」(~782年死去)
780年2月10日-08:00|中国| ||唐・大暦14年12月30日|晦、日食があった
780年2月11日-08:00|中国| ||南詔・見龍1年|南詔の異牟尋が見龍(-783年)と改元
780年2月11日-09:00|日本| ||宝亀11年1月頃|蝦夷の賊が北方より大崎平野に侵入して百姓に危害を加える事件が起こった
780年2月11日-08:00|中国| ||唐・建中1年1月1日|唐・徳宗が建中(-783年12月)と改元
780年2月15日-09:00|日本/中国| ||新羅・恵恭王16年1月5日|新羅使朝貢/新羅国内が内戦状態の為入朝出来なかった旨を伝える
780年2月24日-09:00|日本|奈良県奈良市|宝亀11年1月14日|落雷で新薬師寺西塔・葛城寺塔・金堂焼失
780年3月11日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・恵恭王16年2月|志貞が反乱を起こし宮中を包囲
780年3月11日-08:00|中国| ||唐・建中1年2月1日|唐・徳宗が、宰相楊炎の進言によりこれまでの租庸調制に代る新しい税制として兩税法を施行
780年5月1日-09:00|日本|宮城県栗原市|宝亀11年3月22日|陸奥国にて伊治公皆麻呂叛乱/伊治城にて道島大楯・

0800迄 (2112件)

按察使紀広純を殺害/30年に及ぶ蝦夷との戦いの幕開け

- 780年5月9日-09:00|韓国| ||新羅・恵恭王16年4月|<死去>新羅王「恵恭王」宣徳王に殺される
- 780年5月9日-09:00|韓国| ||新羅・宣徳王1年4月|<即位>新羅王「宣徳王」(~785年死去)
- 780年5月9日-09:00|韓国| ||新羅・恵恭王16年4月|上大等の金良相が金敬信とともに挙兵し志貞を滅ぼす
- 780年5月9日-08:00|中国| ||唐・建中1年4月1日|四鎮・北庭行軍別駕の劉文喜が涇州でそむき、処刑された
- 780年9月8日-02:00|トルコ| ||<死去>東ローマ帝国(イサリア朝) 皇帝「レオン4世バザロス」
- 780年9月8日-02:00|トルコ| ||<即位>東ローマ帝国(イサリア朝) 皇帝「コンスタンティノス6世」レオン4世とエレネーの子(~7970419) 1歳という幼少であったため、母が摂政となって政治を取り仕切った(~797年)
- 780年9月20日-09:00|日本| ||宝亀11年8月18日|鉄甲を止め、革甲に替える
- 781年-05:30|スリランカ| ||<死去>アヌラダプーラ王国国王「Aggabodhi 6世」
- 781年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプーラ王国国王「Aggabodhi 7世」Mahindaの息子(~787年死去)
- 781年-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第17代アミール:イブラヒム・イブン・サリー・イブン・アブ・ダラ・イブン・アルアッバース(~784解任)
- 781年-01:00|フランス| ||<即位>アキテーヌ王(カリンガ朝)「ルイ1世」フランク王、ローマ皇帝(~814年)
- 781年-01:00|フランス/ドイツ| ||カール大帝がアヘンに図書館を設置(カリンガ・ルネッサンス)
- 781年 00:00|イギリス| ||<死去>ダリアア王「Fergus mac Echdach」
- 781年 00:00|イギリス| ||<即位>ダリアア王「Selbach mac Eoghain」(~805年死去)
- 781年 00:00|イギリス| ||ダリアアをヒョウトが統治
- 781年1月30日-09:00|日本| ||天応1年1月1日|天應に改元
- 781年2月6日-08:00|中国| ||唐・建中2年1月9日|魏博節度使の田悦がそむく
- 781年3月16日-09:00|日本| ||天応1年2月17日|<死去>光仁天皇皇女能登内親王没(49/母:夫人和新笠、同母弟:桓武天皇・崇道天皇、夫:市原王)所生の五百枝王・五百井女王に二世王の処遇を与える
- 781年3月25日-08:00|中国| ||唐・建中2年2月26日|振武軍で乱がおこり、その使の彭令芳および監軍の劉恵光を殺した
- 781年3月27日-08:00|中国| ||唐・建中2年2月28日|山南東道節度使の梁崇義がそむいた
- 781年4月15日-01:00|イタリヤ| ||<就任>イタリヤ・ランゴバルト 摂政「アタルムルト・ド・コルベール」(~791年)
- 781年4月15日-01:00|イタリヤ| ||<即位>イタリヤ王・ランゴバルト 王「ヒピニン1世」カロ・マ・ニコの次男/領土分与される(~08100708死去)
- 781年4月30日-09:00|日本| ||天応1年4月3日|<退位>第49代「光仁天皇」病気のため/山部親王が踐祚
- 781年5月12日-09:00|日本| ||天応1年4月15日|<即位>第50代「桓武天皇」山部親王(~08060317)
- 781年6月13日-09:00|日本| ||天応1年5月17日|皇太夫人和新笠の為に中宮職を設置
- 781年6月26日-09:00|日本| ||天応1年6月|第15次遣唐使帰国
- 781年7月20日-09:00|日本| ||天応1年6月25日|土師古人らに菅原姓を賜姓
- 781年7月31日-09:00|日本| ||天応1年7月6日|記録に残る富士山の最古の噴火
- 781年8月20日-08:00|中国| ||唐・建中2年7月26日|馬燧・李抱真が田悦と臨武で戦い、これを破った
- 781年9月17日-09:00|日本| ||天応1年8月25日|陸奥国按察使藤原小黒麻呂蝦夷を討って凱旋
- 781年9月18日-08:00|中国| ||唐・建中2年8月26日|梁崇義が処刑された
- 781年9月22日-08:00|中国| ||唐・建中2年9月|李納が宋州を陥した/李惟岳の將の張孝忠が易・定二州をもって降った
- 781年11月13日-08:00|中国| ||唐・建中2年10月23日|李納の將が徐州をもって降った
- 781年11月26日-08:00|中国| ||唐・建中2年11月7日|李納が徐州を寇し、宣武軍節度使の劉洽が七里溝でこれを破った
- 781年12月12日-08:00|中国| ||唐・建中2年11月23日|馬燧が田悦と雙岡で戦い、これを破った
- 781年12月19日-08:00|中国| ||唐・建中2年11月30日|李納の將の王涉が海州をもって降った
- 782年-03:00|イラク/トルコ| ||アッバース朝遠征軍がホスファス海峡に到達し包囲開始
- 782年-01:00|フランス/ドイツ| ||カール大帝が反乱のザクセン人を多量処刑
- 782年 00:00|イギリス| ||<死去>ヒョウト王「Talorcan mac Oenghusa(Talorgan2世)」
- 782年 00:00|イギリス| ||<即位>ヒョウト王「Drest mac Talorcain(Drest8世)」(~787年死去)
- 782年1月1日-08:00|中国| ||唐・建中2年12月13日|馬万通が密州をもって降った
- 782年1月5日-09:00|日本| ||天応1年12月17日|<死去>光仁天皇皇子稗田親王(31/母:尾張女王)
- 782年1月11日-09:00|日本| ||天応1年12月23日|<死去>「49代天皇光仁天皇」74歳(誕生:和銅1(708)1013)
- 782年1月19日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・宣徳王3年|新羅、加江鎮を置く
- 782年1月27日-09:00|日本| ||天応2年1月10日|<氷上川継の乱>天武天皇の曾孫・氷上川継の謀反が事前に発覚
- 782年1月30日-08:00|中国| ||唐・建中3年1月12日|朱滔と成徳軍節度使の張孝忠が李惟岳と東鹿で戦い、これを破った
- 782年1月31日-09:00|日本| ||天応2年1月14日|<氷上川継の乱>氷上川継が捕縛され伊豆遠流
- 782年2月16日-08:00|中国| ||唐・建中3年1月29日|李納が海・密二州を陥落させた
- 782年2月17日-08:00|中国| ||唐・建中3年閏1月|この月、悦の將の李再春が博州をもって降り、田昂が降った
- 782年2月17日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||新羅の宣徳王3年閏1月|唐に対して朝貢を行なった
- 782年2月27日-09:00|日本| ||天応2年閏1月11日|氷上川継が逃走
- 782年2月28日-08:00|中国| ||唐・建中3年閏1月12日|李惟岳の將の康日知が趙州をもって降った
- 782年3月2日-09:00|日本| ||天応2年閏1月14日|氷上川継を大和国葛上郡にて逮捕/光仁天皇の服喪中の為、極

0800迄 (2112件)

刑を免じ妻の藤原法香(父:藤原浜成)と共に伊豆国三嶋に配流。生母不破内親王及び川継の姉妹は淡路国に配流

- 782年3月9日-08:00|中国| ||唐・建中3年閏1月21日|李惟岳が処刑されると、その将の楊栄国が深州をもって降った
- 782年3月15日-08:00|中国| ||唐・建中3年閏1月27日|馬燧が田悦と戦い破った
- 782年3月23日-08:00|中国| ||唐・建中3年2月5日|李惟岳の将の楊政義が定州をもって降った
- 782年5月12日-09:00|日本| ||天応2年3月26日|三方王・弓削女王・山上船主ら桓武天皇厭魅/三方王と弓削夫妻は日向国へ、船主は隠岐国へ配流
- 782年5月17日-08:00|中国| ||唐・建中3年4月|この月、朱滔がそむき、徳・棣の二州を陥落させた
- 782年5月22日-08:00|中国| ||唐・建中3年4月6日|李納の将の李士真が徳・棣の二州をもって降った
- 782年5月27日-09:00|日本| ||天応2年4月11日|造宮・勅旨2省と造法華寺・鑄銭2司を廃止
- 782年7月27日-08:00|中国| ||唐・建中3年6月13日|桓冀観察使の王武俊がそむいた
- 782年7月31日-09:00|日本| ||天応2年6月17日|<任命>鎮守府將軍「大伴家持」(~不詳)
- 782年8月13日-08:00|中国| ||唐・建中3年6月30日|李懷光・馬燧・李抱真が朱滔・王武俊・田悦と連篋山で戦い、敗れた
- 782年9月14日-08:00|中国| ||唐・建中3年8月3日|濱州司馬の李孟秋と州刺史の皮岸がそむき、処刑された
- 782年9月30日-09:00|日本| ||延暦1年8月19日|天応から延暦に改元
- 782年11月16日-08:00|中国| ||唐・建中3年10月7日|淮西節度使の李希烈がそむいた
- 783年-08:00|インドネシア| ||<即位>スダマ王国マハラジャ「Prabu Gilingwesi」(~795年)
- 783年-05:30|インド| ||<即位>パラハール朝がハール朝を破り、ガンジス中流域を支配
- 783年-01:00|スペイン| ||<死去>アストゥリアス王「シロ」
- 783年-01:00|スペイン| ||<即位>アストゥリアス王「マルカート」篡奪王「アルフォンソ1世」の庶子で王位を篡奪(~789年死去)
- 783年2月6日-09:00|日本| ||延暦2年|出羽国雄勝、平賀2郡、蝦夷に攻められる
- 783年2月18日-08:00|中国| ||唐・建中4年1月13日|李希烈が汝州を陥し、刺史の李元平を捕らえた
- 783年3月27日-08:00|中国| ||唐・建中4年2月20日|東都・汝行營節度使の哥舒曜が李希烈を討ち汝州で勝利
- 783年4月20日-08:00|中国| ||唐・建中4年3月14日|李希烈が鄂州を寇し、刺史の李兼がこれを破った
- 783年4月26日-08:00|中国| ||唐・建中4年3月20日|荊南節度使の張伯儀が李希烈と安州で戦い、敗れた
- 783年6月4日-08:00|中国| ||唐・建中4年4月30日|哥舒曜が李希烈と潁橋で戦い、これを破った
- 783年9月3日-08:00|中国| ||唐・建中4年8月2日|李希烈が襄城を寇した
- 783年9月11日-08:00|中国| ||唐・建中4年8月10日|李希烈の将の曹季昌が隋州をもって降った
- 783年9月16日-08:00|中国| ||唐・建中4年8月15日|京師に星が落ちた
- 783年10月12日-08:00|中国| ||唐・建中4年9月12日|神策軍行營兵馬使の劉徳信が李希烈と扈澗で戦い、敗れた
- 783年10月31日-08:00|中国| ||唐・建中4年10月|この月、商州軍で乱があり、その刺史の謝良輔を殺した
- 783年10月31日-08:00|中国| ||唐・建中4年10月|涇原節度使の姚令言がそむき、京師を犯した
- 783年11月3日-08:00|中国| ||唐・建中4年10月4日|朱泚、反乱
- 783年11月8日-08:00|中国| ||唐・建中4年10月9日|李希烈が襄城を陥し、宣武軍兵馬使の高翼がここに死んだ
- 783年11月12日-08:00|中国| ||唐・建中4年10月13日|朱泚が奉天を犯し、禁軍が城東で敗れた
- 783年11月16日-08:00|中国| ||唐・建中4年10月17日|靈塩節度留後の杜希全・坊京畿金商節度使の李建徽が朱泚と漢谷で戦い、敗れた
- 783年11月18日-08:00|中国| ||唐・建中4年10月19日|劉徳信が朱泚と思子陵で戦い、これを破った
- 783年11月19日-08:00|中国| ||唐・建中4年10月20日|行在都虞候の渾?が朱泚と城下で戦い、これを破り、左龍武軍大將軍の呂希倩がここに死んだ
- 783年12月18日-08:00|中国| ||唐・建中4年11月20日|李懷光が朱泚と魯店で戦い、これを破った
- 783年12月29日-08:00|中国| ||唐・建中4年12月|朱泚が華州を陥した
- 784年-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第18代アミール「ムサ・イブン」(~785殺害される)
- 784年-01:00|ノルウェー| ||<即位>ハエストフォルド王「Gudrod Halvdansson "Veidekonge" "den storlatne"」(~824年)
- 784年-01:00|ニジェール| ||このころ、アフリカのチャド湖周辺でセワ王朝の初代カム王が即位
- 784年 00:00|イギリス| ||<死去>ケント王「Ecgerht Athelberhtes sunu」
- 784年 00:00|イギリス| ||<即位>ケント王「Ealhmund Eafes sunu」(~785年死去)
- 784年1月24日-08:00|中国| ||唐・建中4年12月27日|李希烈が?・鄭二州を陥した
- 784年1月27日-08:00|中国| ||南詔・上元1年|南詔の異牟尋が上元と改元(-808)
- 784年1月27日-08:00|中国| ||唐・興元1年1月1日|唐・徳宗が興元(-12月)と改元
- 784年3月18日-08:00|中国| ||唐・興元1年2月23日|李懷光がそむいた
- 784年3月21日-08:00|中国| ||唐・興元1年2月26日|左衛大將軍の侯仲莊が驛店で李懷光の将の孟庭保を破った
- 784年4月24日-08:00|中国| ||唐・興元1年4月|李懷光が坊州を陥落させた
- 784年5月18日-08:00|中国| ||唐・興元1年4月25日|渾?が朱泚と武亭川で戦い、これを破った
- 784年5月29日-08:00|中国| ||唐・興元1年5月6日|李抱真・王武俊が朱滔と経城で戦い、これを破った
- 784年6月14日-08:00|中国| ||唐・興元1年5月22日|尚可孤が朱泚と藍田の西で戦い、これを破った
- 784年6月17日-08:00|中国| ||唐・興元1年5月25日|李晟がまた苑北で朱泚を破った
- 784年6月20日-08:00|中国| ||唐・興元1年5月28日|李晟がまた白華で朱泚を破り、京師を回復
- 784年6月26日-08:00|中国| ||唐・興元1年6月5日|朱泚、部下に殺さる/朱泚の乱終息
- 784年7月22日-08:00|中国| ||唐・興元1年7月|この月、嗣曹王李?が李希烈と応山で戦い、これを破った

0800迄 (2112件)

- 784年12月7日-08:00|中国| ||唐・興元1年閏10月20日|李希烈の将の李澄が滑州をもって降った
- 784年12月22日-08:00|中国| ||唐・興元1年11月6日|劉洽・ヒン隴行營節度使の曲環が李希烈と陳州で戦い、これを破った
- 784年12月27日-09:00|日本|京都府向日市|延暦3年11月11日|桓武天皇が平城京から長岡京に遷都
- 785年-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第19代アミール:アサマ・ヒン・アミール(~785解任)→同年<就任>第20代アミール:アルファトル・ヒン・サラー・ヒン・アリ・アルアバシ(~786解任)
- 785年-01:00|クワチア| ||<就任>クワチア公「ウ・イシスラフ」(~802年、死去)
- 785年-01:00|フランス/ドイツ| ||ザクセン人がカール大帝と和を結び、キリスト教を受洗
- 785年 00:00|イギリス| ||<死去>ケント王「Ealhmund Eafes sunu」
- 785年 00:00|イギリス| ||<即位>ゲリウイシング王「Arthfael Hen ap Rhys」(~825年)
- 785年1月6日-08:00|中国| ||唐・興元1年11月21日|劉洽・ヒン隴行營節度使の曲環が李希烈にベソ州で勝利した
- 785年1月28日-09:00|日本| ||延暦3年12月13日|王臣家・諸司・寺司による山野の独占を禁止
- 785年2月2日-08:00|中国| ||唐・興元1年12月18日|渾沔が李懷光と乾坑で戦い、敗れた
- 785年2月14日-08:00|中国| ||唐・貞元1年1月1日|唐・徳宗が貞元(-805年)と改元
- 785年2月26日-09:00|韓国| ||新羅・宣徳王6年1月13日|<死去>新羅王「宣徳王」病に倒れる
- 785年2月26日-09:00|韓国| ||新羅・元聖王1年1月13日|<即位>新羅王「元聖王」(~798年死去)
- 785年4月25日-08:00|中国| ||唐・貞元1年3月12日|李希烈が鄧州を陥し、唐鄧隋招討使の黄金岳を殺した
- 785年5月30日-08:00|中国| ||唐・貞元1年4月18日|渾沔が李懷光と長春宮で戦い、これを破った
- 785年7月24日-03:00|イラク| ||<死去>バグダート・アッバース朝カリフ「マフディー」
- 785年7月24日-03:00|イラク| ||<即位>バグダート・アッバース朝第4代カリフ「ハーディー」(~07860914死去)
- 785年8月4日-08:00|中国| ||唐・貞元1年6月25日|馬燧が李懷光と陶城で戦い、これを破った
- 785年9月2日-09:00|日本| ||延暦4年7月24日|国司の正税流用を禁止
- 785年10月5日-09:00|日本| ||延暦4年8月28日|<死去>大伴家持/68歳(誕生:養老2(718))
- 785年10月30日-09:00|日本| ||延暦4年9月23日|夜、藤原種継が至近距離から弓で射られ重体/翌日死亡
- 785年10月31日-09:00|日本| ||延暦4年9月24日|種継暗殺の犯人とされる大伴継人、大伴竹良らが捕らわれ、犯人として即日処刑/故大伴家持の子大伴永主は隠岐に流された
- 785年11月4日-09:00|日本| ||延暦4年9月28日|皇太弟早良親王が皇太子廃し、乙訓寺へ幽閉(この後皇太子自ら断食し、10余日後淡路島に流される途中、高瀬橋頭で没する)
- 786年-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第21代アミール:アリ・ヒン・サルマン・アルアバシ(~787解任)
- 786年-01:00|フランス| ||<就任>ナント伯「Guy」(~818年)
- 786年 00:00|イギリス| ||<死去>ウエセックス王「キヌヘルフ」
- 786年 00:00|イギリス| ||<即位>ウエセックス王「ハ・オルトリッチ」(~802年死去)
- 786年2月24日-09:00|日本|滋賀県東近江市|延暦5年1月21日|近江国滋賀郡にはじめて梵釈寺を造る
- 786年3月7日-08:00|中国| ||唐・貞元2年2月3日|山南東道節度使樊沢が李希烈と泌河で戦い、これを破った
- 786年5月9日-08:00|中国| ||唐・貞元2年4月7日|李希烈が処刑された
- 786年6月1日-08:00|中国| ||唐・貞元2年5月|李希烈の将の李惠登が隋州をもって降った
- 786年7月30日-08:00|中国| ||唐・貞元2年7月|李希烈の将の薛翼が唐州をもって降り、侯召が光州をもって降った
- 786年8月17日-09:00|日本|京都府向日市|延暦5年7月19日|太政官院が完成/百官はじめて朝座につく
- 786年9月14日-03:00|イラク| ||<死去>バグダート・アッバース朝第4代カリフ「ハーディー」
- 786年9月14日-03:00|イラク| ||<即位>バグダート・アッバース朝第5代カリフ「ハルーン・アッラシード」(~8090324死去)最盛期を達成
- 786年9月26日-08:00|中国| ||唐・貞元2年8月30日|吐蕃がヒン・寧・涇・隴の四州を寇した
- 786年10月15日-08:00|中国| ||唐・貞元2年9月19日|吐蕃が好時を寇し、鳳翔節度使・李晟の将・王ヒツ、ケ陽城で吐蕃を破る
- 786年11月12日-08:00|中国| ||唐・貞元2年10月17日|ヒン寧節度使の韓游凱がまた平川で吐蕃を破った
- 786年12月10日-08:00|中国| ||唐・貞元2年11月15日|吐蕃が塩州を陥した
- 786年12月26日-08:00|中国| ||唐・貞元2年12月2日|吐蕃、夏州、銀州を占領
- 787年-08:00|インド・ネパール/ベトナム| ||シャイレンドラ朝(中部ジャワ)軍がチャンパーを襲う
- 787年-07:00|ベトナム| ||<即位>チャンパー王「インドラヴァルマン1世」(~803年)
- 787年-07:00|カンボジア/インド・ネパール| ||シャイレンドラ朝(中部ジャワ)カンボジア(水真臘)首都も攻撃、その王を殺害
- 787年-05:30|スリランカ| ||<死去>アヌラダプーラ王国国王「Aggabodhi 7世」
- 787年-05:30|スリランカ| ||<即位>アヌラダプーラ王国国王「Mahinda 2世(Silamegha)」Aggabodhi 6世の息子(~807年死去)
- 787年-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第22代アミール:ムサ・ヒン・イサ・ヒン・ムサ・アルアバシ(~789解任)
- 787年-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国第8代ドージェ(元首)「ジョヴァンニ・ガルバイオ」(~804年)
- 787年-01:00|イタリア| ||<即位>ベネチア大公「ケリモルト 3世」(~806年)
- 787年-01:00|デンマーク/イギリス| ||デン人が初めてドーセット海岸に来寇
- 787年-01:00|イタリア/フランス| ||フランク王カロ・マーニョ、ベネチア大公国を属国に
- 787年 00:00|イギリス| ||<死去>ヒール外王「Drest mac Talorcain(Drest 8世)」
- 787年 00:00|イギリス| ||<即位>ヒール外王「Causantin mac Ferghusa(Constantine 1世)」(~820年死去)
- 787年 00:00|イギリス| ||<即位>マーシア王「イグリス・Offan sunu」(共同統治~07960726~07961214死去)
- 787年1月12日-08:00|中国| ||唐・貞元2年12月19日|吐蕃が沙州(敦煌)を陥落させる

0800迄 (2112件)

787年1月24日-09:00|日本|長崎県壱岐市|延暦6年|月読神社(芦辺町)鎮座
787年2月13日-09:00|日本| ||延暦6年1月21日|王臣家・国司等に蝦夷との交易を禁ずる
787年3月18日-08:00|中国| ||唐・貞元3年2月24日|華州潼関節度使の駱元光が塩・夏の二州を落とした
787年6月30日-09:00|日本| ||延暦6年閏5月11日|左右京職の税の濫用を禁止し、交替時に解由状を与えることとする
787年7月19日-08:00|中国| ||唐・貞元3年6月|吐蕃が塩・夏の二州を寇した
787年9月16日-08:00|中国| ||唐・貞元3年8月1日|朔、日食があった
787年10月13日-08:00|中国| ||唐・貞元3年8月28日|吐蕃が青石嶺を寇し、隴州刺史の蘇清へんがこれを破った
787年10月22日-08:00|中国| ||唐・貞元3年9月7日|吐蕃が?陽を寇した
787年10月31日-08:00|中国| ||唐・貞元3年9月16日|華亭および連雲堡が陥落した
787年11月18日-08:00|中国| ||唐・貞元3年10月4日|吐蕃が豊義を寇し、韓游伽がこれを破った
787年11月19日-08:00|中国| ||唐・貞元3年10月5日|吐蕃が長武城を寇し、城使の韓全義がこれを破った
787年11月26日-08:00|中国| ||唐・貞元3年10月12日|射生の将の韓欽緒が反乱を計画し、処刑された
788年-01:00|スペイン| ||<即位>アストリアス王国国王ヘルムート1世助祭王、修道士王(~791年修道士に復帰)
788年-01:00|アルジェリア| ||<即位>イスラム朝イマム「アブド・アル=ワハブ(アブド・アル=ワリス)」イブン・ルスラムの子(~824年)
788年-01:00|ドイツ/オーストリア| ||<廃位>ハイルン公国「シロ3世」カール大帝への反逆罪の罪で死刑、ハイルンは召し上げ(~814年)
788年-01:00|イタリア| ||トリエステはフランク支配下
788年 00:00|モロッコ| ||<即位>モロッコ国王(イドリス朝)「イドリス・イブン・アブドゥッウター(イドリス1世)」(~791年死去)
788年2月12日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・元聖王4年春|官吏登用の制度として科挙に類似する「読書三品」を定めた
788年2月12日-09:00|日本|滋賀県大津市|延暦7年|僧最澄叡山に堂を建て薬師像を置き一乗止観院(比叡山寺、のちの延暦寺/滋賀県)創建<天台宗総本山>
788年2月12日-09:00|日本|山梨県富士吉田市|延暦7年|垂仁天皇が富士山噴火を恐れた人々の心を静めるために北口本宮富士浅間神社創建
788年4月8日-09:00|日本| ||延暦7年2月28日|<任命>鎮守府將軍「多治比宇美」(~不詳)
788年4月14日-09:00|日本| ||延暦7年3月4日|大隅曾乃峯で夜10時頃噴火。2時間ほどで収まり、石や灰が麓56里に降る
788年5月31日-08:00|中国| ||唐・貞元4年4月22日|福建軍で乱があり、その観察使の呉シを追放し、大将の於誠溢が留後を自称
788年6月9日-08:00|中国| ||唐・貞元4年5月|吐蕃が涇・ヒン・寧・慶・フの五州を寇した
788年6月12日-09:00|日本| ||延暦7年5月4日|<死去>桓武天皇夫人藤原旅子(30)
788年8月13日-08:00|中国| ||唐・貞元4年7月8日|寧州軍で乱があり、ヒン寧都虞候の楊朝晟がこれを破った
788年8月19日-08:00|中国| ||唐・貞元4年7月14日|奚・室韋が振武を寇した
788年9月23日 00:00|イギリス| ||<死去>ノザンブリア王「Alfwald Oswulfes sunu(Alfwald1世)」殺害される
788年9月23日 00:00|イギリス| ||<即位>ノザンブリア王「Osraed Ealhraedes sunu(Osred2世)」(~790年廃位追放)
788年9月30日-01:00|スペイン| ||<死去>後ウマイヤ朝初代アミール「アブド・アッラフマン1世」
788年9月30日-01:00|スペイン| ||<即位>後ウマイヤ朝第2代アミール「ヒシャム1世」(~07960612死去)
788年10月19日-08:00|中国| ||唐・貞元4年9月16日|吐蕃が寧州を寇し、ヒン寧節度使の張獻甫がこれを破った
789年-01:00|スペイン| ||<死去>アストリアス王「マウカト篡奪王」
789年-01:00|スペイン| ||<即位>アストリアス王「ヘルムート1世助祭王、修道士王」(~791年退位修道士に復帰)
789年-01:00|イタリア| ||<即位>フランク王国スレート公「ウイグス」(~822年死去)
789年-01:00|イタリア| ||<即位>フリウリ公「エリク」(~799年死去)
789年1月7日-09:00|日本| ||延暦7年12月7日|征東大使紀古佐美を征夷のために派遣
789年1月31日-08:00|中国/日本| ||延暦8年;唐・貞元5年1月1日|朔、日食があった
789年2月-02:00|エジプト| ||<就任>アッハース朝エジプト第23代アミール:マヌマ・イブン・ヤヤ・アルバジャリ(~789.12解任)
789年2月5日 00:00|モロッコ/サハラ| ||<即位>モロッコ国王「イドリス・イブン・アブドゥッウター(イドリス1世)」メッカ近くのファッソの戦いに敗れてモロッコに逃亡建国(~791年死去)
789年2月16日-09:00|日本|京都府長岡京市|延暦8年1月17日|「造東大宮所」が東大宮(第2次内裏)を造る
789年4月8日-09:00|日本| ||延暦8年3月9日|多賀城に集結した征東軍は北進を開始(征東大使は紀古佐美)したが失敗
789年4月15日-09:00|日本| ||延暦8年3月16日|造東大寺司を廃する
789年4月30日-08:00|中国| ||唐・貞元5年夏|吐蕃が長武城を寇し、韓全義が仏堂原でこれを破った
789年6月30日-09:00|日本| ||延暦8年6月3日|征東將軍紀古佐美の軍が胆沢地方の頭領の阿豆流為の部隊に遭い敗退
789年8月9日-09:00|日本| ||延暦8年7月14日|伊勢・美濃・越前3国の関を廃する
789年9月30日-08:00|中国| ||唐・貞元5年9月7日|劍南節度使・韋皋、雋州臺登北谷で吐蕃を破る
789年10月23日-08:00|中国| ||唐・貞元5年冬|吐蕃が北庭都護府攻撃を開始/イル=カグスが救援に向かうが、敗れる
789年10月23日-08:00|中国| ||唐・貞元5年10月|嶺南節度使の李復が瓊州を落とした
789年12月-02:00|エジプト| ||<就任>アッハース朝エジプト第24代アミール:ムハンマド・イブン・ズ・ハイル・アルアッティイ(~790.5解任)
789年12月21日-08:00|中国| ||唐・貞元5年12月|<死去>回鶻可汗国第4代可汗「武義成功可汗・長寿天親可汗(頓莫賀達干)アルフ・ケウルク・ヒルケ・カグン」

0800迄 (2112件)

- 789年12月21日-08:00|中国| ||唐・貞元5年12月|<即位>回鶻可汗国第5代可汗「忠貞可汗(多邏斯)テングリテ・ホルシユ・キリュク・ビルク・カガン」(~貞元6年(790年)4月)
- 790年-05:30|インド| ||<即位>ハーンデヤ朝君主「Rasasingan2世」(~800年)
- 790年-01:00|フランス| ||<就任>カカソヌ伯「Bello」(~810年死去)
- 790年-01:00|フランス| ||<就任>トゥールズ伯「ギヨーム・ド・シエロヌ」セブティマニア辺境伯(~811年)
- 790年-01:00|アルバニア| ||<即位>ミラネ朝(アルバニア)大公「Stephanos1世」(~821年)
- 790年-01:00|フランス| ||<即位>メヌ公「シャルル若公」(~8111204死去)
- 790年-01:00|フランス| ||<廃位>トゥールズ伯「トソン」シャルルマニュにより
- 790年 00:00|イギリス| ||<廃位>ノザンブリア王「Osraed Ealhraedes sunu (Osred2世)」追放
- 790年 00:00|イギリス| ||<復位>ノザンブリア王「Athelraed Athelwades sunu (Athelred1世)」(2期目~07960418死去)
- 790年1月17日-09:00|日本| ||延暦8年12月28日|<死去>光仁天皇皇太夫人生母高野新笠(桓武天皇・崇道天皇生母)
- 790年2月19日-08:00|中国| ||唐・貞元6年2月|吐蕃が北庭都護府を陥落させ、節度使の楊襲古が西州に逃れた
- 790年3月8日-09:00|日本| ||延暦9年閏3月10日|<死去>藤原浜成(67歳)参議、歌人
- 790年3月21日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||新羅・元聖王6年3月|新羅が渤海に遣使
- 790年4月19日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・貞元6年4月|<死去>回鶻可汗国第5代可汗「忠貞可汗(多邏斯)テングリテ・ホルシユ・キリュク・ビルク・カガン」少可敦の葉公主に毒殺される
- 790年4月19日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・貞元6年4月|<即位>回鶻可汗国第6代可汗「奉誠可汗(阿啜)ケウルク・ビルク・カガン」(~貞元11年(795年)2月)
- 790年4月28日-09:00|日本| ||延暦9年閏3月10日|<死去>桓武天皇皇后藤原乙牟漏(31/父:藤原良継、平城天皇・嵯峨天皇生母)病死
- 790年5月-02:00|エジプト| ||<就任>アッハース朝エジプト第25代アミール「ダウド・イブン・ヤズト・イブン・ハミ・アルムハラビ」(~791解任)
- 790年8月15日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・貞元6年秋|イルカシ、楊襲古とともに5万の軍を率いて北庭都護府を奪還に向かうが勝てず、楊襲古とともに本営に帰還、楊襲古を拘束
- 790年8月15日-08:00|中国| ||唐・貞元6年秋|カルクが浮図川を占拠
- 790年9月4日-09:00|日本| ||延暦9年7月21日|<死去>桓武天皇妃坂上又子(父:坂上苜田麻呂)
- 790年10月13日-09:00|日本| ||延暦9年9月|(~12月)京畿内に天然痘(豌豆瘡、疱瘡、裳瘡)流行。30歳以下の男女問わず多く病臥死亡
- 790年11月12日-09:00|日本| ||延暦9年10月2日|再び鑄銭司を設置)
- 790年12月13日-09:00|日本| ||延暦9年11月3日|乏負未納填補の法を定める
- 791年-03:30|イラン| ||<即位>ジャスタニス朝国王「Justan1世」(~805年)
- 791年-03:30|イラン| ||<即位>ハダスノ朝君主「Wandad Umid」(~822年)
- 791年-02:00|エジプト| ||<就任>アッハース朝エジプト第26代アミール「ムサ・イブン・イサ・イブン・ムサ・アルアバシ」(~792解任)
- 791年-01:00|スペイン| ||<即位>アスタリアス王「アルフォンソ2世純潔王」(~842年死去)レドに首都を移転
- 791年-01:00|スペイン| ||<退位>アスタリアス王「ヘルムート1世助祭王、修道士王」修道士に復帰
- 791年 00:00|モロッコ| ||<死去>モロッコ国王(イドリス朝)「イドリス・イブン・アフドゥッラー(イドリス1世)」
- 791年 00:00|モロッコ| ||<即位>モロッコ国王(イドリス朝)「イドリス・イブン・イドリス(イドリス2世)」(~828年死去)
- 791年-02:00|シリア・アラブ| ||この頃、ハワリジュ派のファティマがスィースタンで反乱(793に鎮圧)
- 791年2月8日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・元聖王7年|元の侍中の悌恭が反乱を起こして誅殺される
- 791年2月8日-09:00|日本|東京都荒川区|延暦10年|坂上田村麻呂が円通寺創建(三ノ輪)
- 791年2月8日-08:00|中国| ||唐・貞元7年|<即位>ホタン王「尉遲誥」(~828年)
- 791年2月8日-08:00|中国/ベトナム| ||唐・貞元7年|馮興(フンフン)による徳宗への反乱起こる
- 791年4月13日-09:00|日本| ||延暦10年3月6日|吉備真備・大和長岡らによる刪定律令24条を施行
- 791年5月8日-08:00|中国| ||唐・貞元7年4月|安南の首領の杜英翰がそむき、処刑された
- 791年6月6日-08:00|中国| ||唐・貞元7年5月|吐蕃、靈州に侵入、回鶻撃つてこれを破る
- 791年7月30日-09:00|日本| ||延暦10年6月25日|再び山野独占の禁令を出し、山背国の百姓の山野利用の便をはかる
- 791年8月17日-09:00|日本| ||延暦10年7月13日|大伴弟麻呂を征夷大將軍、坂上田村麻呂らを副使に任命
- 791年9月5日-09:00|日本|三重県伊勢市|延暦10年8月3日|伊勢神宮に盜賊が侵入/正殿・財殿などを焼失
- 791年10月23日-09:00|日本| ||延暦10年9月22日|<任命>鎮守府將軍「百濟王俊哲」(~延暦14(795)年8月7日死去)
- 792年-02:00|エジプト| ||<就任>アッハース朝エジプト第27代アミール「イブラヒム・イブン・サリ・イブン・アブ・ダラ・イブン・アルアッハース」(~793解任)→同年<就任>第28代アミール「アブ・ダラ・イブン・アルムシブ・イブン・ザハール・アルガビ」(~793解任)
- 792年2月7日-09:00|日本| ||延暦11年1月11日|陸奥国斯波の蝦夷胆沢公阿奴志己ら帰順
- 792年4月26日-08:00|中国| ||唐・貞元8年4月|吐蕃が靈州を寇した
- 792年6月24日-08:00|中国| ||唐・貞元8年6月|吐蕃が連雲堡を寇し、大将の王進用がここに死んだ
- 792年6月30日-09:00|日本| ||延暦11年6月7日|陸奥・出羽・佐渡・大宰府管内諸国を除き、全国の兵士を廃止
- 792年7月7日-09:00|日本| ||延暦11年6月14日|諸国に健児を置く
- 792年8月17日-09:00|日本| ||延暦11年7月25日|蝦夷爾散南公阿破蘇、帰順
- 792年9月25日-08:00|中国| ||唐・貞元8年9月5日|韋?が吐蕃と維州で戦い、これを破った
- 792年11月17日-09:00|日本| ||延暦11年10月28日|京畿に限って班田(口分田)を実施し、細則を一部修正

0800迄 (2112件)

- 792年11月19日-08:00|中国| ||唐・貞元8年11月|この月、幽州盧龍軍節度使の劉済がその弟の瀛州刺史劉玢と瀛州で戦い、劉玢は破れ、京師に逃れた
- 792年11月19日-08:00|中国| ||唐・貞元8年11月1日|朔、日食があった
- 792年12月7日-08:00|中国| ||唐・貞元8年11月19日|山南西道節度使の嚴震が吐蕃と黒水堡で戦い、これを破った
- 792年12月19日-09:00|日本| ||延暦11年閏11月1日|新弾例八十三条を施行
- 793年-05:30|インド| ||<死去>ラシュトラクータ朝国王「ドゥルヴァ」
- 793年-05:30|インド| ||<即位>ラシュトラクータ朝国王「ゴウインダ」3世」(~814年)
- 793年-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第29代アミール:イサーク・イブン・スレイマン(~794解任)
- 793年2月15日-08:00|中国| ||渤海・大興56年|<死去>渤海王「文王大欽茂」
- 793年2月15日-08:00|中国| ||渤海・大興56年|<即位>渤海王「廃王大元義」(~同年死去)⇒「成王大華与」(~794年死去)
- 793年4月2日-09:00|日本| ||延暦12年2月17日|征東使を征夷使とする
- 793年4月23日-09:00|日本|大阪府|延暦12年3月9日|難波大宮を廃止し、摂津職を摂津国に改める
- 793年6月8日-01:00|デンマーク/イギリス| ||ハインク、イギリス・ノーサンプトリア海岸の大修道院リンデイスファーン襲撃
- 793年10月19日-09:00|日本| ||延暦12年9月10日|藤原氏に限り二世以下の王・王女との婚姻を許す
- 794年-05:30|インド| ||ラシュトラクータ朝とプラティハハラ朝がガンジスで抗争開始
- 794年-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第30代アミール:ハサマ・イブン・アヤン(~795)
- 794年-01:00|イタリヤ| ||<死去>フランク公「ケレゴリ」2世」
- 794年-01:00|イタリヤ| ||<即位>フランク公「テオフィラクト」2世」(~801年)
- 794年-01:00|オーストリア/ドイツ| ||カール大帝によってゲロルト・フォン・ウインズゴウがババイル知事に任じられる(~799年戦闘で死んだ)
- 794年1月17日-08:00|中国| ||唐・貞元9年12月11日|宣武軍の将の李万栄がその節度使の劉士寧を追放し、留後を自称
- 794年2月5日-09:00|日本|京都府宇治市|延暦13年|平安遷都の際桓武天皇が奈良より勧請し野神社創建
- 794年2月5日-08:00|中国| ||渤海・大興57年|<死去>渤海王「成王大華与」
- 794年2月5日-08:00|中国| ||渤海・中興1年|<即位>渤海王「康王大嵩リ」(~809年死去)
- 794年2月5日-08:00|中国| ||南詔・元封1年|南詔、唐に臣付
- 794年2月5日-09:00|日本| ||延暦13年1月1日|大伴弟麻呂が征夷大將軍に任ぜられる
- 794年2月22日-08:00|中国| ||唐・貞元10年1月18日|南詔蛮が吐蕃を神川で破る
- 794年5月20日 00:00|イギリス| ||<死去>イーストアングリア王「Athelberht Athelraedes sunu(Athelberht2世)」
- 794年5月20日 00:00|イギリス| ||イーストアングリアをマーシアが直接統治(~826年)
- 794年6月28日-09:00|日本| ||延暦13年5月27日|<死去>皇太子安殿親王(後の平城天皇)の妃藤原帯子(父:藤原百川)病死
- 794年7月14日-09:00|日本| ||延暦13年6月13日|坂上田村麻呂、桓武天皇の命を受けて蝦夷征討に出発
- 794年7月26日-08:00|中国| ||唐・貞元10年6月25日|韋皇が吐蕃を破り、峨和城を落とした
- 794年7月31日-09:00|日本|京都府京都市|延暦13年7月1日|東西の市を新京に移す
- 794年8月1日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・元聖王10年7月|奉恩寺(ソウル特別市江南区)を建てた
- 794年8月1日-08:00|中国| ||唐・貞元10年7月|西原蛮が叛いた
- 794年8月30日-08:00|中国| ||唐・貞元10年8月|欽・横・壽・貴の四州が陥落
- 794年9月11日-09:00|日本| ||延暦13年8月13日|右大臣藤原継縄ら続日本紀十四巻を撰集
- 794年10月29日-08:00|中国| ||唐・貞元10年10月|昭義軍節度留後の王虔休が摂州刺史元誼と?沢で戦い、これを破った
- 794年10月29日-08:00|中国| ||唐・貞元10年10月|唐、吐蕃を大いに破る
- 794年11月18日-09:00|日本|京都府京都市|延暦13年10月22日|桓武天皇が長岡京から平安京に移る(平安遷都)
- 794年12月4日-09:00|日本| ||延暦13年11月8日|桓武天皇が、山背国を山城国に近江国古津を大津と改称
- 794年12月4日-09:00|日本|京都府京都市|延暦13年11月8日|桓武天皇が、新京を「平安京」とする
- 795年-08:00|インドネシア| ||<即位>スンダ王国マハラジャ「Pucukbumi Darmeswara」(~819年)
- 795年-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第31代アミール:アブド・アルマリク・イブン・サリー(~795)→同年<就任>第32代アミール:アブダラ・イブン・アルマシブ・アルアバシ(~795解任)→同年<就任>第33代アミール:アブダラ・イブン・アルマハディ・アルアバシ(~795解任)→同年<就任>第34代アミール:ムサ・イブン・イサ・イブン・ムサ・アルアバシ(~796解任)
- 795年-02:00|シリア/アラブ| ||ハワーリジュ派のハムザ・ブン・アサラクがスイスタンで反乱(-796)
- 795年-01:00|スペイン| ||フランク国王カール1世(シャルル)が、イベリア半島のイスラム勢力の侵入防止のため、ピレネー山脈南にスペイン辺境伯領を設置
- 795年1月26日-09:00|日本|京都府京都市下京区|延暦14年|桓武天皇の勅命により藤原冬嗣が平安京東西市の守り神として市比売社創建
- 795年1月26日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・貞元11年|奉誠可汗、崩御/子がいなかったため、ケルグ=セクン(イル=ケシ)、推戴されてテングリテ=ユリユグ=ブルミシュ=アルフ=ケトルグ=ウルグ=ベルグ=カガンとなる
- 795年1月26日-08:00|中国| ||渤海・正暦1年|渤海国王「康王大嵩リ」正暦(~809年)と改元
- 795年2月24日-08:00|中国| ||唐・貞元11年2月|<死去>回鶻可汗国第6代可汗「奉誠可汗(阿啜)ケトルグ・ベルグ・カガン」
- 795年2月24日-08:00|中国| ||唐・貞元11年2月|<即位>回鶻可汗国第7代可汗「懐信可汗(骨咄祿)テングリテ・ウルグ・ホ

0800迄 (2112件)

ルシユ・アルフ・クトルグ・キリュグ・ビルグ・カガシ (~永貞元年(805年))
795年5月22日-08:00|中国| ||唐・貞元11年4月29日|奚が平州を寇し、劉済がこれを青都山で破った
795年6月15日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・貞元11年5月24日|唐、テングリテ=ユリュク=ブルシユ=アルフ=クトルグ=ウルグ=ビルグ=カガシを懐信可汗に冊封
795年9月2日-09:00|日本| ||延暦14年閏7月15日|雑徭(国司が農民を使用できる使役)の日数を30日に半減
795年9月24日-09:00|日本| ||延暦14年8月7日|<死去>鎮守府将軍「百濟王俊哲」
795年10月2日-09:00|日本|滋賀県大津市|延暦14年8月15日|近江国相坂関を廃止
795年10月18日-08:00|中国/モンゴル| ||唐・貞元11年9月|横海軍兵馬使の程懐信がその兄の節度使の程懐直を追放し、留後を自称
795年12月16日-09:00|日本/朝鮮/中国| ||延暦14年11月|渤海使68名出羽国に到着
795年12月25日-01:00|パチカシ| ||<死去>第97代ローマ教皇「ハドリアヌス1世」
795年12月26日-01:00|パチカシ| ||<就任>第98代ローマ教皇「レオ3世」(~8160612死去)
796年-05:30|インド| ||<即位>パラヴァ朝君主「Dantivarman」(~846年)
796年-02:00|エジプト| ||<就任>アッハース朝エジプト第35代アミール「アブダラ・イブン・アルマハディ・アルアハシ」(~797解任)
796年-02:00|ブルガリア| ||<即位>ブルガリア帝国ハ「クルム」(~8140413死去)
796年-01:00|フランス/ハンガリー| ||カール大帝がハンガリー盆地のアヴァール王国を征服
796年1月7日-09:00|日本| ||延暦14年11月23日|防人司を廃止(対馬・壱岐を除き、防人を廃止)
796年2月14日-09:00|日本| ||延暦15年|造東寺長官であった藤原伊勢人が鞍馬寺堂塔伽藍を建立
796年2月14日-09:00|日本|京都府京都市南区|延暦15年|平安京への入口である羅城門の東西に東寺・西寺建立
796年2月14日-09:00|日本|京都府京都市|延暦15年1月1日|大極殿が完成
796年3月30日-08:00|中国| ||唐・貞元12年2月17日|吐蕃がス州を寇し、刺史の曹高仕がこれを破った
796年4月7日-09:00|日本| ||延暦15年2月25日|南海道の新道が開かれる
796年4月18日 00:00|イギリス| ||<死去>ノーザンブリア王「Aethelred Athelwaldes sunu(Athelred1世)」
796年4月18日 00:00|イギリス| ||<即位>ノーザンブリア王「Osbald」(~5. 14)
796年4月30日-09:00|日本| ||延暦15年3月19日|北辰を祭る事を禁じる
796年5月14日 00:00|イギリス| ||<即位>ノーザンブリア王「Eardwulf Eardwulfes sunu」(1期目~806年廃位)
796年6月12日-01:00|スペイン| ||<死去>後ウマイヤ朝第2代アミール「ヒシャム1世」
796年6月12日-01:00|スペイン| ||<即位>後ウマイヤ朝第3代アミール「ハカム1世」(~8220521死去)
796年7月26日 00:00|イギリス| ||<死去>マーシア王「Offa Thingfrithes sunu」/アングロ・サクソンを統一しマーシア王国の最盛期を創った国王
796年9月 00:00|イギリス| ||<即位>ケント王「Eadbearht Ealhundes sunu Praen(Eadberht3世)」(~798年廃位)
796年9月 00:00|イギリス| ||ケントは独立を回復
796年9月6日-08:00|中国| ||唐・貞元12年8月1日|朔、日食があった
796年10月6日-08:00|中国| ||唐・貞元12年9月|吐蕃が慶州を寇した
796年11月30日-09:00|日本| ||延暦15年10月27日|<任命>鎮守府将軍「坂上田村麻呂」(~不詳)
796年12月11日-09:00|日本| ||延暦15年11月8日|隆平永宝を鑄造
796年12月14日 00:00|イギリス| ||<死去>マーシア王「Egfrid Offan sunu」
796年12月14日 00:00|イギリス| ||<即位>マーシア王「Egfrid Guthberhtes sunu」(~821年死去)
797年-02:00|エジプト| ||<就任>アッハース朝エジプト第36代アミール「イスマイル・イブン・サリール・アルアハシ」(~798解任)
797年 00:00|アイルランド| ||<即位>アイルランド上王「アード・オドネー・マック・ネイル・フロサハ」(~819年没)
797年2月2日-09:00|日本| ||延暦16年|この年筑前国司を廃し、太宰府に属させる
797年2月2日-08:00|中国| ||唐・貞元13年|<死去>吐蕃ツェンポ「ティツン・テツェン(赤松徳贊)」
797年2月2日-08:00|中国| ||唐・貞元13年|<即位>吐蕃ツェンポ「ムネツェンポ(穆尼贊普)」(~798年死去)
797年3月15日-09:00|日本| ||延暦16年2月13日|菅野真道、藤原繼繩らによる続日本紀全40巻が完成
797年4月19日-02:00|トルコ| ||<即位>東ローマ帝国(イサリア朝)「イレネー・アテナイ」レオン4世の皇后でコンスタンティノス6世の母(~8021031廃位)帝国史上初の女帝
797年4月19日-02:00|トルコ| ||<廃位>東ローマ帝国(イサリア朝)皇帝「コンスタンティノス6世」イレネーに追放される
797年6月7日-09:00|日本|京都府宇治市|延暦16年5月8日|宇治橋を造る
797年6月16日-08:00|中国| ||唐・貞元13年5月17日|吐蕃がス州を寇し、曹高仕がこれを破った
797年6月24日-08:00|中国| ||唐・貞元13年5月25日|義寧軍が乱を起こし、その将の常楚客を殺した
797年7月4日-09:00|日本| ||延暦16年6月6日|収租の法を改める
797年8月15日-02:00|トルコ| ||<死去>前東ローマ帝国(イサリア朝)皇帝「コンスタンティノス6世」目をくりぬかれ、その傷がもとで27歳
797年9月28日-09:00|日本| ||延暦16年9月4日|令外官として勘解由使を置く
797年10月-01:00|チュニジア| ||マグリブのアラブ軍団が反乱し、カイワーンを占領
797年11月27日-09:00|日本| ||延暦16年11月5日|坂上田村麻呂が征夷大將軍に任命される
798年-02:00|エジプト| ||<就任>アッハース朝エジプト第37代アミール「イスマイル・イブン・イハール・アルアハシ」(~798解任) →同年<就任>第38代アミール「アルレイス・イブン・アルアアティル」(~803解任)
798年-01:00|アントラ・スペイン| ||<就任>ウルツェイ伯・サルターニャ伯「Borrell」(~820年死去)
798年 00:00|イギリス| ||<死去>ケウイット王「Caradog ap Meirchion」
798年 00:00|イギリス| ||<死去>タウイェット王「Meredydd ap Teuder」
798年 00:00|イギリス| ||<即位>エックス王「シゲレット・Sigerices sunu」(~812年)

0800迄 (2112件)

798年 00:00|イギリス| ||<即位>ケウイト王「Cynan Dindaethwy ap Rhodri」(~816年死去)
798年 00:00|イギリス| ||<即位>ケウト王「Cuthraed Cuthberhtes sunu」(~807年死去)
798年 00:00|イギリス| ||<即位>タィエト王「ライン・アブ・マレィット」(~808年死去)
798年 00:00|イギリス| ||<退位>エックス王「シゲリック」放棄
798年 00:00|イギリス| ||<廃位>ケウト王「Eadberht Ealhmundes sunu Praen(Eadberht3世)」
798年 00:00|イギリス| ||ケウトをマシアが征服
798年 00:00|ポルトガル/スペイン| ||ポルトガルはガリシア・アストゥリアス王国の一部となる(~808年)
798年1月22日-08:00|中国| ||唐・貞元14年|<死去>吐蕃ツェンポ「ムネ・ツェンポ(穆尼贊普)」生母のツェポン氏メクトゥンに毒殺される
798年1月22日-08:00|中国| ||唐・貞元14年|<即位>吐蕃ツェンポ「ティテ・ソツェン(赤徳松贊)」(~800年)
798年3月6日-09:00|日本| ||延暦17年2月14日|漢音を用いて、呉音を排する
798年5月20日-09:00|日本/朝鮮/中国| ||延暦17年5月|遣渤海使内蔵賀茂麻呂ら、出発
798年6月20日-08:00|中国| ||唐・貞元14年閏5月2日|西北に星が落ちた
798年6月30日-08:00|中国| ||唐・貞元14年閏5月12日|長武城の軍が乱を起こし、その使の韓全義を追放
798年8月4日-08:00|中国| ||唐・貞元14年6月18日|帰化堡の軍が乱を起こし、その将の張国誠を追放し、涇原節度使の劉昌がこれを破った
798年8月17日-09:00|日本|京都府京都市東山区|延暦17年7月2日|坂上田村麻呂が平安京に清水山寺(清水寺)を建立
799年-08:00|インドネシア| ||ジャワのボロブドールがこの頃建造
799年-01:00|イタリヤ| ||<死去>フリウーリ公「エリカ」
799年-01:00|イタリヤ| ||<即位>フリウーリ公「ハンフリド」(~808年)
799年-01:00|クロアチア/フランス| ||フィウメはフランク王国のイストリア(798年以降)とリブニアの一部
799年2月6日-09:00|日本/朝鮮/中国| ||延暦17年12月27日|渤海使大昌泰ら朝貢
799年2月6日-08:00|中国| ||唐・貞元14年12月27日|明州の将の栗鏞がその刺史の盧雲を殺してそむいた
799年2月8日-09:00|韓国| ||新羅・元聖王14年12月29日|<死去>新羅王「元聖王」
799年3月21日-08:00|中国| ||唐・貞元15年2月11日|宣武軍で乱が起こり、節度行軍司馬の陸長源を殺し、宋州刺史の劉逸淮が留後を自称
799年3月31日-09:00|日本| ||延暦18年2月21日|<死去>和気清麻呂(公卿)[0733年生~](享年66)
799年4月19日-08:00|中国| ||唐・貞元15年3月10日|彰義軍節度使の呉少誠がそむき、唐州を陥し、守将の張嘉瑜がここに死んだ
799年7月6日-09:00|日本/韓国| ||延暦18年5月29日|遣新羅使を停止
799年7月27日-09:00|日本| ||延暦18年6月20日|私出拳(私人が稲粟銭財などの私財を他に貸し与え利息を増収すること)を禁止
799年8月6日-09:00|日本| ||延暦18年7月|三河に漂着した崑崙人により綿種伝来
799年10月7日-08:00|中国| ||唐・貞元15年9月4日|陳許節度留後の上官セイが呉少誠と臨潁で戦い、敗れた
799年10月8日-08:00|中国| ||唐・貞元15年9月5日|呉少誠が許州を寇した
799年12月8日-08:00|中国| ||唐・貞元15年11月7日|山南東道節度使の于?が呉少誠と呉房で戦い、これを破った。陳許節度使の上官セイがまた柴籬でこれを破った
799年12月12日-08:00|中国| ||唐・貞元15年11月11日|安黄節度使の伊慎がまた鍾山で呉少誠を破った
799年12月31日-08:00|中国| ||唐・貞元15年12月1日|寿州刺史の王宗がまた秋柵で呉少誠を破った
800年-08:00|インドネシア| ||<即位>古マタラム王国国王「ライ・ワラック」(~819年)
800年-08:00|インドネシア| ||<即位>シャイレンドラ朝マハラジャ「Samaragrawira」(~812年)
800年-05:30|インド| ||<即位>パントンヤ朝君主「Varagunan1世」(~830年)
800年-05:30|インド| ||<即位>プラーティハハラ朝元首「ナガパタ2世」(~833年)
800年-05:30|インド| ||タミル語辞典「ティバ・ガラム」が成立
800年 00:00|イギリス| ||<即位>ストラスクライド王「Dumnagual4世」(~849年)
800年 05:00|ペル| ||このころペル北部のメディア文化が衰退し消滅する
800年1月-01:00|チュニジア| ||<即位>アグラブ朝「イブラヒム1世」マグリブで建国、カイワーンを首都(~812年死去)
800年1月25日-08:00|中国| ||唐・貞元15年12月26日|諸道の兵が小?河で潰滅
800年1月28日-09:00|韓国| ||新羅・昭聖王1年12月29日|<即位>新羅王「昭聖王」(~800年死去)
800年1月30日-08:00|中国| ||唐・貞元16年|<即位>吐蕃ツェンポ「ムク・ツェンポ(牟如贊普)」(~804年死去)
800年2月4日-08:00|中国| ||唐・貞元16年1月6日|易定の兵が呉少誠と戦い、敗れた
800年4月11日-09:00|日本| ||延暦19年3月14日|<富士山延暦の噴火>(~4.18)富士山三大噴火の最初
800年6月8日-08:00|中国| ||唐・貞元16年5月13日|韓全義が呉少誠と広利城で戦い、敗れた
800年6月26日-09:00|韓国| ||新羅・昭聖王2年6月|<死去>新羅王「昭聖王」
800年6月26日-09:00|韓国| ||新羅・哀莊王1年6月|<即位>新羅王「哀莊王」13歳(~08090719殺害される)
800年6月26日-09:00|日本| ||延暦19年6月1日|日蝕あり
800年8月14日-08:00|中国| ||唐・貞元16年7月21日|伊慎が呉少誠と申州で戦い、これを破った
800年8月16日-08:00|中国| ||唐・貞元16年7月23日|韋珩が吐蕃の末恭城を落とした
800年8月23日-08:00|中国| ||唐・貞元16年7月30日|韓全義が呉少誠と五樓で戦い、敗れた
800年8月24日-08:00|中国| ||唐・貞元16年8月|劉済がその弟の妘州刺史の劉源と妘州で戦い、劉源が敗れ、これを捕らえた

0800迄 (2112件)

800年9月15日-08:00|中国| ||唐・貞元16年8月23日|韋?が吐蕃のギョウ城を落とした

800年12月19日-09:00|日本|鹿児島県|延暦19年12月|大隈と薩摩で班田を実施し、隼人の朝貢を廃止

800年12月25日-01:00|ドイツ/フランス/イタリア| |||<即位>初代フランク・ローマ皇帝「カール1世(大帝、シャルマニユ)」教皇レオ3世から戴冠(~08140128死去)